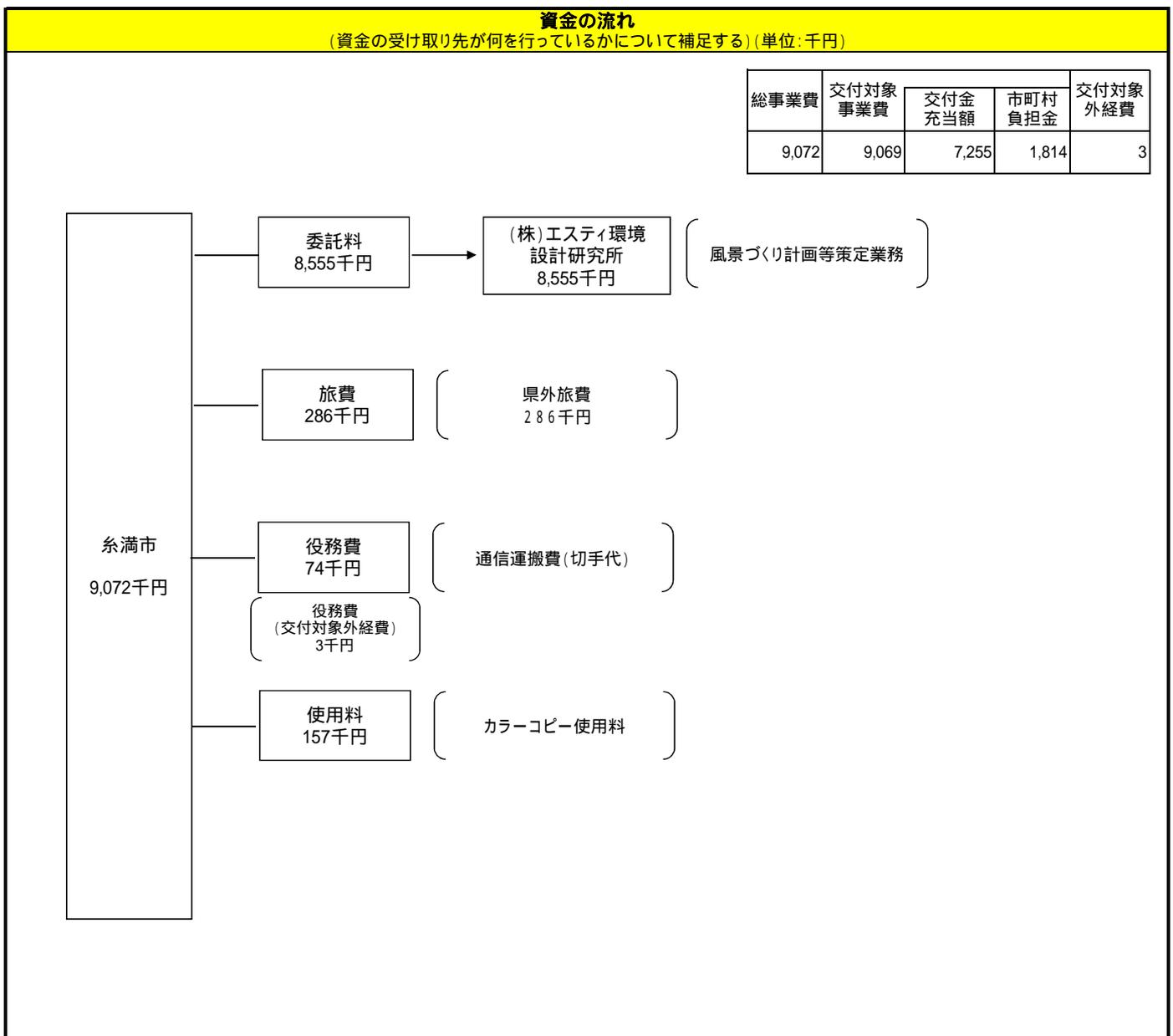


市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	沖縄らしい風景づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部課名	建設部 都市計画課		事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 - 1 - (1)
事業内容	本市は、農村と漁村の風景が残る他に類を見ない地域である。この魅力的な地域の風景を活かした観光地づくり等を進めるため、風景づくり計画の策定を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,001	9,092			
		(b)予算現額	5,001	9,092			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,001	9,092			
	B.執行済額		5,001	9,069			
	うち交付金充当額		4,000	7,255			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.7%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	糸満市風景づくり計画策定 糸満地区風景づくり行動計画策定	目標	(市民会議等の実施)	(計画書等の策定)	()	()	
		実績	市民会議等を実施	計画書等を策定した			
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	平成24年度は、市民会議や地域部会を8地区で実施し、今年度の計画の素案を作成した。2年目となる今年度は、その風景づくり計画(素案)を基に計画書の策定を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	糸満市風景づくり計画策定 糸満地区風景づくり行動計画策定	目標	(景観基礎調査)	(計画(素案)策定)	(計画書策定)	()	()
		実績		計画(素案)策定	計画書策定		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	平成24年度は、市民会議や地域部会を8地区で実施し、今年度の計画の素案を作成した。2年目となる今年度は、その風景づくり計画(素案)を基に計画書の策定を行った。(平成26年3月糸満市風景づくり条例制定)					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 風景づくり計画策定においては、各種委員会に諮り専門家からの意見収集や地域部会等を開催し、住民への説明、意見交換等を行い、計画策定および運用について住民や建築士等の関係機関への周知を図ってきた。 住民や関係機関へは更に周知が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 住民や関係機関へ周知については、風景づくり計画の市ホームページへの掲載や風景づくり計画概要版の配布、また、建築士会等の関係機関に対しては同計画に基づく届け出の手引き等の説明が必要である。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 風景づくり計画に基づき、市民や関係機関等への周知を図ってゆく。 重点地区(モデル地区)の基本計画を策定し、糸満市の新たな顔としたまちづくりに取り組む。 		



資金の流 れ、費 目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託コンサルは指名型プロポーザル方式により、組織や実績、知識等を助案した上で選定し妥当であったと考える。契約は指名型プロポーザルによる1件。費目・用途については事業目的達成の観点から、必要の可否について額の確定時点にて支出に関する書類により確認し、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1- 昔ながらの原風景写真デジタル保存事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(6)-イ		
	担当部課名	教育委員会 総務部 生涯学習課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所		
地域づくりを担う人材の育成		-1-(1)					
事業内容	市史編集事業の一環で収集したフィルム等の写真資料は、地域の歴史を記録する貴重な文化資源であり、今後『市史』等刊行物での活用だけでなく、教育現場や観光関連産業等、本市についての情報発信するあらゆる機会でも活用できることから、資料のデジタル形式による保存を図った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	16,125	15,958			
		(b)予算現額	16,125	16,099			
		(c)増減額(b-a)	0	141			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	16,125	16,099			
	B.執行済額		15,289	15,286			
	うち交付金充当額		12,230	12,229			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.8%	94.9%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	写真資料のデジタル化及びデータベース化の実施(対象資料数120,000件)	目標	(対象資料数 120,000件)	(対象資料数 120,000件)	()	()	
		実績	写真 120,000件	写真 120,000件			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	昨年度は、市広報担当課等より提供された資料のデジタル化・データベース化を行った。今年度は、市民から提供を受けた写真(主に紙媒体)と観光担当課と市史編集担当課等において記録撮影した写真(主にフィルム媒体)を事業の対象とし、全120,000件の写真フィルムをスキャンしてデジタル化を図るとともに、資料についてのデータベースを作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	所蔵写真資料等のデジタル化及びデータベース化率100%	目標	()	(100%)	(100%)	()	()
		実績		100%	100%		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	平成25年度の事業対象としていた市民から提供を受けた写真(主に紙媒体)と観光担当課と市史編集担当課において記録撮影した写真(主にフィルム媒体)の計120,000件デジタル化及びデータベース作成については予定通り実施することができた。昨年度分を含め、納品された写真資料は観光や教育関連施設、字誌編集機関等に資料を提供するなど、多方面で利用されている。					

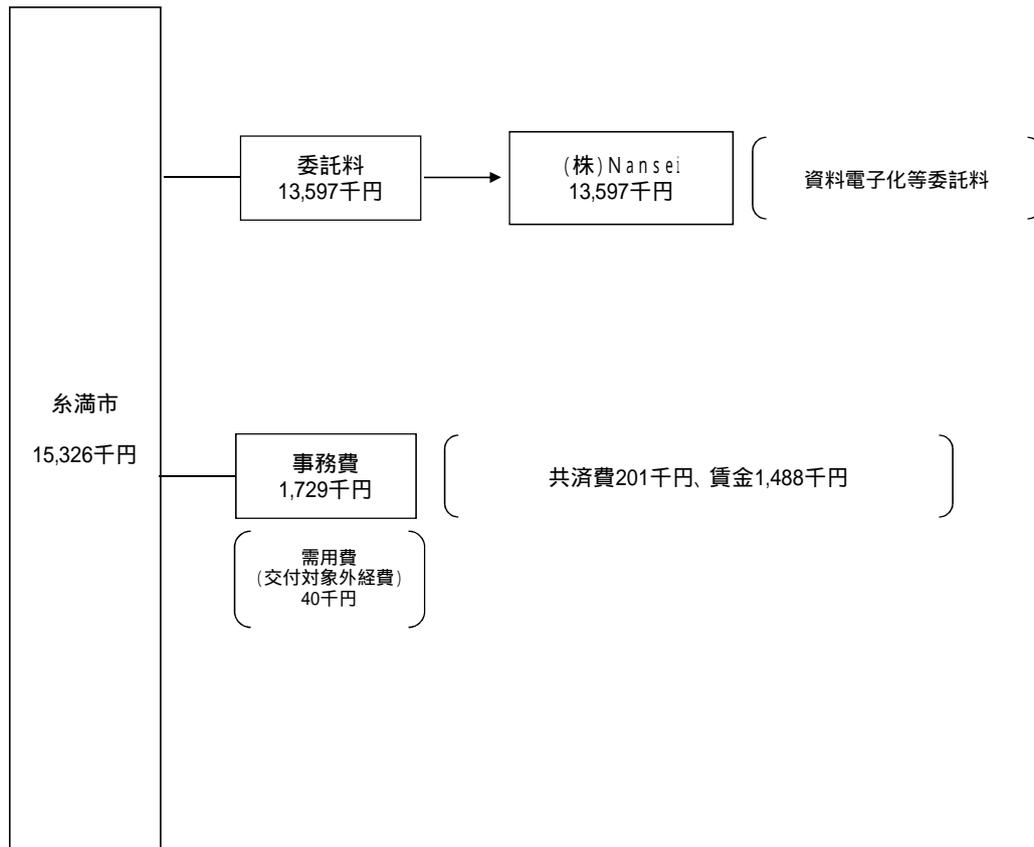
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	アルバムへの記載内容と実際の写真資料の内容に不一致が見られることもあったので、フィルムシート単位での確認が必要であった。	アルバムやフィルムシート単位での整理 (撮影者・撮影日時・テーマ等での並べ替えや撮影データの書き込み)を丁寧に行うことが、個別の写真資料の情報を充実させることになり、データベース機能の更なる向上につながる。

今後の取り組み方針

平成24年度、25年度事業によってフィルムや紙媒体の写真資料についてはデジタル化を図り、データベース及び検索システムを構築するなど整理が出来た。(平成24年度120,000件、平成25年度120,000件、合計240,000件)
 今後は、本事業により構築したデータベースへの情報の追加や修正を随時行い、データベースの更なる充実に努め資料の活用に向けての環境を整えていく。
 また、本事業とは別に保存しているデジタル撮影による写真データも活用し、本事業の写真データとともに活用・公開に努める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
15,326	15,286	12,229	3,057	40



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は、公募型プロポーザル方式より、実績や知識等を助産して選定しており、妥当であったと考えている。 ○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものであり、支出等に関する書類により確認し適正であった。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	新しい公共交通検討事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-ア	
担当部課名	企画開発部 政策推進課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	個性豊かで魅力あふれる基幹都市圏の形成 -1-(1)	
事業内容	市への観光客の誘客を図るため、平成24年度に実施した本事業で示された那覇空港直行バスルートについて、実証実験の詳細計画を作成した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,351	14,101			
		(b)予算現額	14,351	10,468			
		(c)増減額(b-a)	0	3,633			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	14,351	10,468			
	B.執行済額		12,272	10,205			
	うち交付金充当額		9,817	8,164			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		85.5%	97.5%			
予算の状況の説明		委託において、指名競争入札にて業者を選定したところ、入札残(不用額)が生じたので事業費が当初より減額となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	アンケート調査実施	目標	(調査、手順書案作成)	(アンケート調査)	()	()	
		実績	調査実施、手順書案作成	アンケート実施(548件)			
	新しい公共交通システム検討委員会(仮称)の開催	目標	()	4回	()	()	
実績			4回開催				
達成状況説明	平成24年度で公共交通の現況調査、市民・関係機関・観光客へのアンケート実施と先進地視察を行い、実証実験の手順案を作成した。 今年度は、さらに観光客に対しアンケートを行うとともに、沿道事業者・交通事業者に対してはヒアリングを行った。 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会を開催し、「新しい公共交通事業調査報告書(那覇空港直行バス路線実証実験計画)」を策定することができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	報告書の作成(実証実験詳細計画書)	目標	()	(手順案作成)	(報告書作成)	()	()
		実績		手順案作成	報告書作成		
	24年度:糸満市の公共交通現況調査及び実証実験等の手順書作成 【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	平成24年度で作成した手順書を基に、平成25年度は、観光客へのアンケートや事業者に対するヒアリングを行うことにより、本事業を取り巻く実態や課題が明らかになった。 糸満市那覇空港直行バス路線実証実験検討委員会の審査を通じ、予定している実証実験の指針となる「新しい公共交通事業調査報告書(那覇空港直行バス路線実証実験計画)」を策定することができた。						

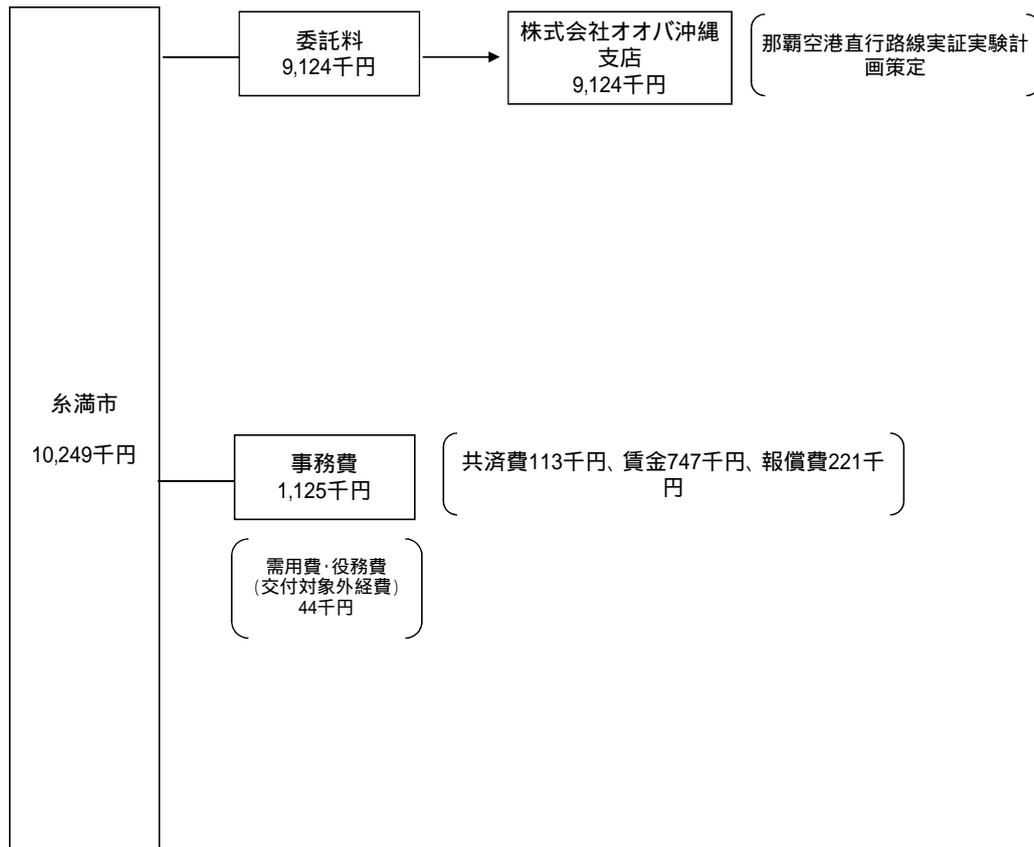
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>国道バイパスの開通により、本市から那覇空港及び那覇市への交通アクセスが飛躍的に向上したが、バス路線がバイパスを通行しないなど、十分なメリットを得られていない。また、本市には沖縄県を代表する観光資源や大型宿泊施設があるにもかかわらず、公共交通(バス路線)との連動が弱く、公共交通利用を希望する観光客のニーズに十分対応できていない。</p>	<p>平成26年度は、翌年度に実施する予定の糸満市那覇空港直行バス路線実証実験の準備(広報・周知等)を行う。 さまざまな客層の希望に応え、利用者のすそ野を広げられるよう、国道バイパスの活用、市内の観光資源とのアクセス性向上及び観光メニューの開発などに取り組む。</p>

今後の取り組み方針

平成25年度に策定した、那覇空港直行バス路線実証実験計画に基づく実証実験の準備を行うと共に、地域に点在する観光資源を周遊する地域観光交通計画策定を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,249	10,205	8,164	2,041	44



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>委託事業者は、仕様書に基づき、指名競争入札で選定しており、選定方法、予算規模が妥当であると思慮する。</p> <p>費目・用途については、委託料及び事務費ともに、本市から直接支出しており、適正だったと思慮する。</p>
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	生活感幸（観光）環境づくり事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(5)-ア	
	担当部課名	教育委員会 総務部 生涯学習課	事業実施（予定）年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	リーディング産業を担う人材の育成 -1-(1)	
事業内容	観光地としての魅力の向上を図るため各地域の民俗地図等を作成する。本年度は、糸満町時代の民俗調査について記録された資料（伝語）の翻訳及び民俗地図を作成。また、市民等を対象に地域の風土、文化、歴史などについて学ぶ市史講座を開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,477	0			
		(b)予算現額	1,477	1,709			
		(c)増減額(b-a)	0	1,709			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		1,477	1,709			
	B.執行済額		1,286	1,655			
	うち交付金充当額		1,028	1,324			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率（%）(B/A)		87.1%	96.8%			
予算の状況の説明		報償費の不用額(48千円)は、翻訳原稿の監修に係る講師謝礼金として計上したが、翻訳業務委託料に監修料が含まれていたため不用とした。					
活動目標（指標）及び達成状況	H25活動目標（指標）		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	・旧糸満町での拝所等所在調査 ・伝語調査ノートの翻訳 ・市史講座の開催(2回)	目標	(2回、8地区分)	(調査、翻訳、講座開催)	()	()	
		実績	2回、8地区分	調査、翻訳、講座2回を行った			
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	平成24年度は、市史講座(旧兼城村の字賀数・字北波平)と冊子資料・民俗地図(旧兼城村8字分)を発行した。今年度は、拝所等所在調査については、旧糸満町において実施し屋号や拝所・門中墓の所在や名称について確認した。伝語翻訳事業については、1930年に私人学者シャルル・アグネルが糸満町において実施した調査記録を日本語に翻訳した。その他に市史講座を市内2字(字兼城・字与座)において実施した。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H25成果目標（指標）		基準値（年度）	24年度	25年度	26年度	目標値（年度）
	・市史講座の参加者数 50人	目標	()	(50人)	(50人)	()	()
		実績		43人	72人		
	・旧糸満町民俗地図の作成 ・伝語調査ノートの日本語翻訳資料作成	目標	()	()	(地図・翻訳資料作成)	()	()
実績				地図・翻訳資料作成した			
進捗状況説明	平成24年度は、市史講座参加者が43人であった。今年度は、字兼城と字与座で実施し、両講座とも市内外からの定員を超える受講者が参加し、身近な文化遺産、観光資源を認識する機会となった。また、旧糸満町基礎資料整理については、民俗地図等の作成と調査ノートの翻訳を行い、旧糸満町の歴史文化を理解するための基礎資料として整理した。						

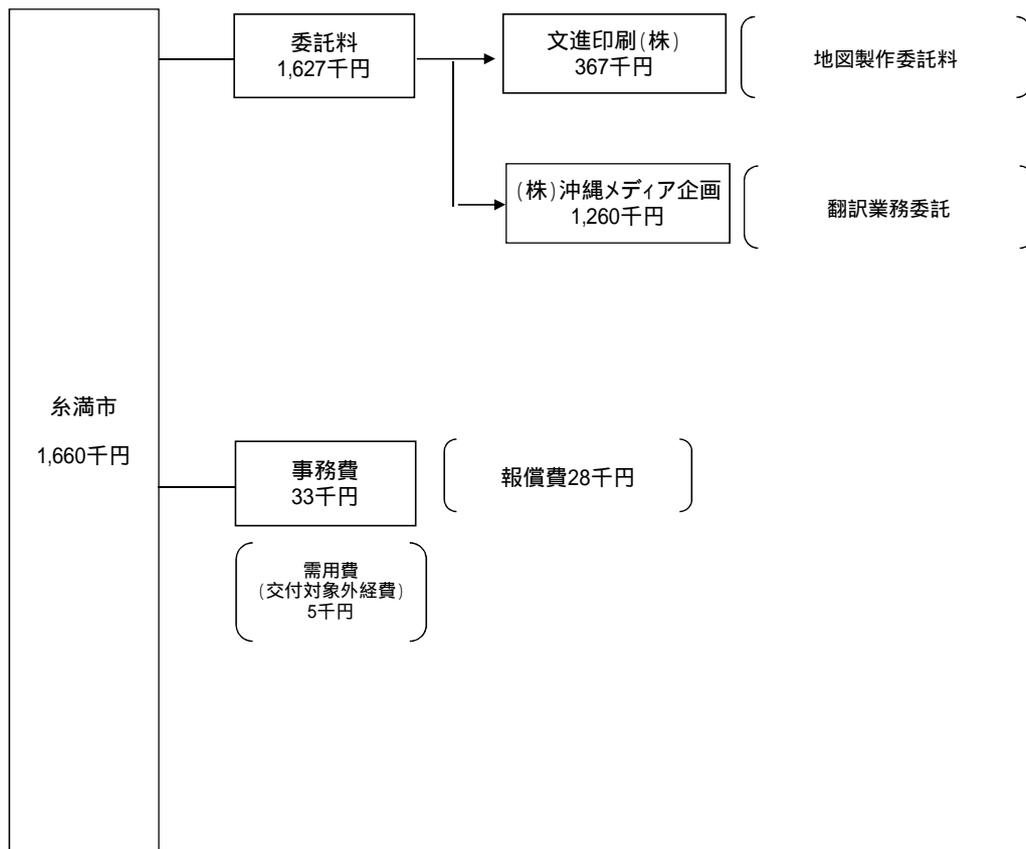
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> 市史講座の開催は概ね好評であるが、開催回数や開催地域の拡大を希望する受講者が多い。 高嶺地域、三和地域についての民俗歴史に関する問い合わせも多数あるので、それに対応できるように順次環境を整えていきたい。 	<p>市史講座については、学習テーマを設定して2か字以上の地域を繋ぐような取組や、現地での学習会だけではなく座学的な学習会を開催についても検討したい。講座の開催回数については対応が困難な面もあるので、本講座とは別に出前講座等を活用して、市内の歴史・文化等の紹介に努めたい。</p>

今後の取り組み方針

- 旧高嶺村での民俗確認調査を行って旧高嶺村の字別民俗地図を作成し、市民が気軽にこれらの地域の歴史・文化に触れられるような環境を整える。
- 軽便鉄道等をテーマとした市史講座を開催する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,660	1,655	1,324	331	5



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○事業受託者は市の公募型プロポーザル方式などにより、これまでの実績等を鑑み選定し、妥当であったと考える。</p> <p>○費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものであり、支出等に関する書類により確認し適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	冬場のエコスポーツ拡大事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 - 1 - (1)	
事業内容	冬場(冬季)の観光振興を図るために、全国的なマウンテンバイク競技大会を開催可能なコース整備及び大会プロモーションを実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	8,000			
		(b)予算現額	5,000	8,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	5,000	8,000			
	B.執行済額		5,000	7,980			
	うち交付金充当額		4,000	6,384			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.8%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	マウンテンバイク競技大会の実施	目標	(大会開催)	(大会開催)	()	()	
		実績	大会開催	大会開催			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	・冬場の観光客誘致のため糸満市観光農園でマウンテンバイク大会を業務委託して開催した。今年度新たに子供向けの教室を開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	大会来場者数 400人	目標	()	(350)	(400)	()	()
		実績		400	627		
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	・初心者向けマウンテンバイクの乗り方教室を実施し、子供から大人までマウンテンバイクの安全な操作の知識を習得させた。特に、子供向けの乗り方教室を開催したことにより来場者数が増えた。また、現役選手、監督等を招聘し、マウンテンバイクの魅力等を多くの来場者に情報発信し、大会継続出来るよう協力依頼した。					

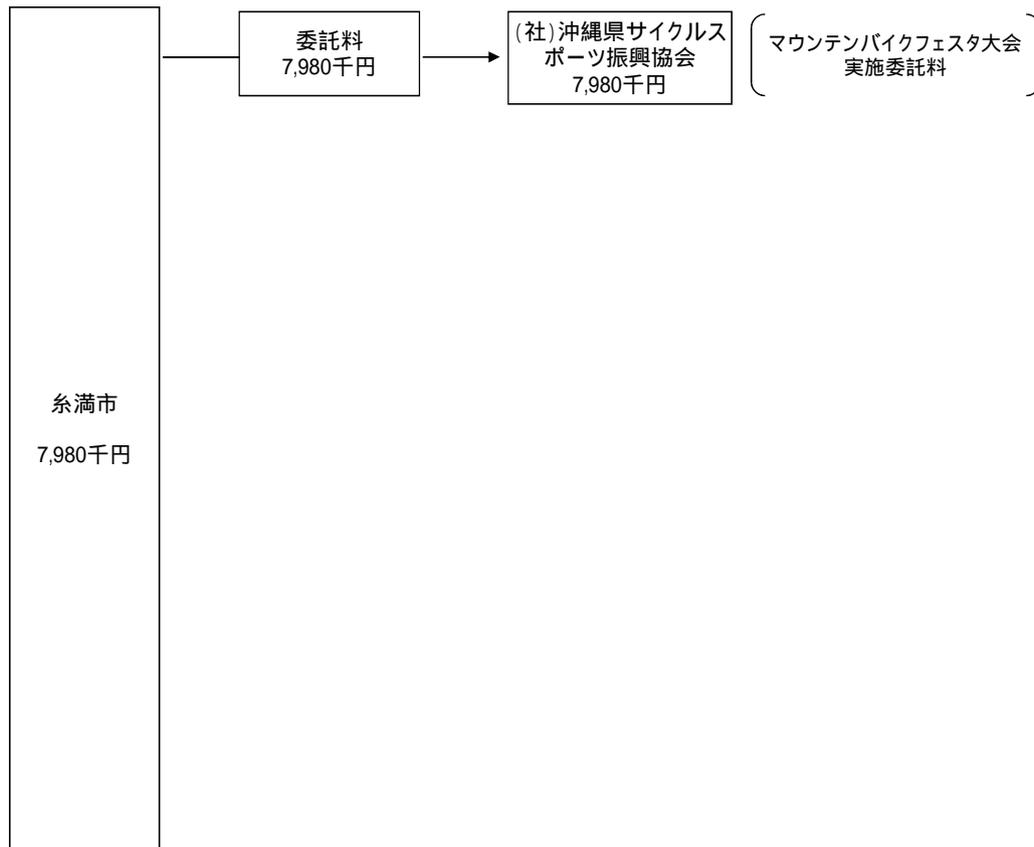
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	日本マウンテンバイク大会のJ2クラス開催のため現役選手、監督、関係者を招聘し、大会の魅力に参加者、来場者に発信する必要がある。	日本マウンテンバイク大会・J2クラスの開催に向け、関係機関と調整を行う必要がある。

今後の取り組み方針

沖縄県サイクルスポーツ振興協会と開催場所の糸満観光農園と協力し、定期的なマウンテンバイク大会を開催し、日本マウンテンバイク協会公認に向けて、コース整備に取り組んで行く。
 競技人口の拡大のため、糸満観光農園にレンタルバイクを置き、身近に感じてもらえるよう努める。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
7,980	7,980	6,384	1,596	



資金の流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・受託事業者の沖縄県サイクルスポーツ振興協会は、事業内容を遂行するに当たり、県内随一の豊富な実績と知識を有することから選定は妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	・事業目的達成の観点から必要最小限の支出であり、適正であった。
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-	高嶺間切番所跡公園整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-ア	
担当部課名	建設部 都市計画課		事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり -1-(1)	
事業内容	高嶺間切番所跡地の歴史的役割等の情報揭示により地域を散策する観光資源を創出し、観光客の誘致につなげるとともに地域住民の郷土愛を育むため、高嶺間切番所跡地の整備を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		10,000			
		(b)予算現額		3,000			
		(c)増減額(b-a)	0	7,000			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	0	3,000			
	B.執行済額			2,709			
	うち交付金充当額			2,167			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)			90.3%			
予算の状況の説明		設計委託に関し、入札により予定より安価で実施できた。当初は設計から工事まで行う予定であったが、地域住民の説明会及び資料収集等で期間を要することが判明したため、今年度計上していた工事費を減額し、実施した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	高嶺間切番所跡公園整備の設計の実施	目標	()	(設計実施)	()	()	
		実績		設計した			
		目標	()	()	()	()	
実績							
達成状況説明	高嶺間切番所跡公園整備の設計を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	高嶺間切番所跡公園整備の設計の実施	目標	()	()	(設計)	()	()
		実績			設計実施		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	高嶺間切番所跡公園整備の設計を行った。						

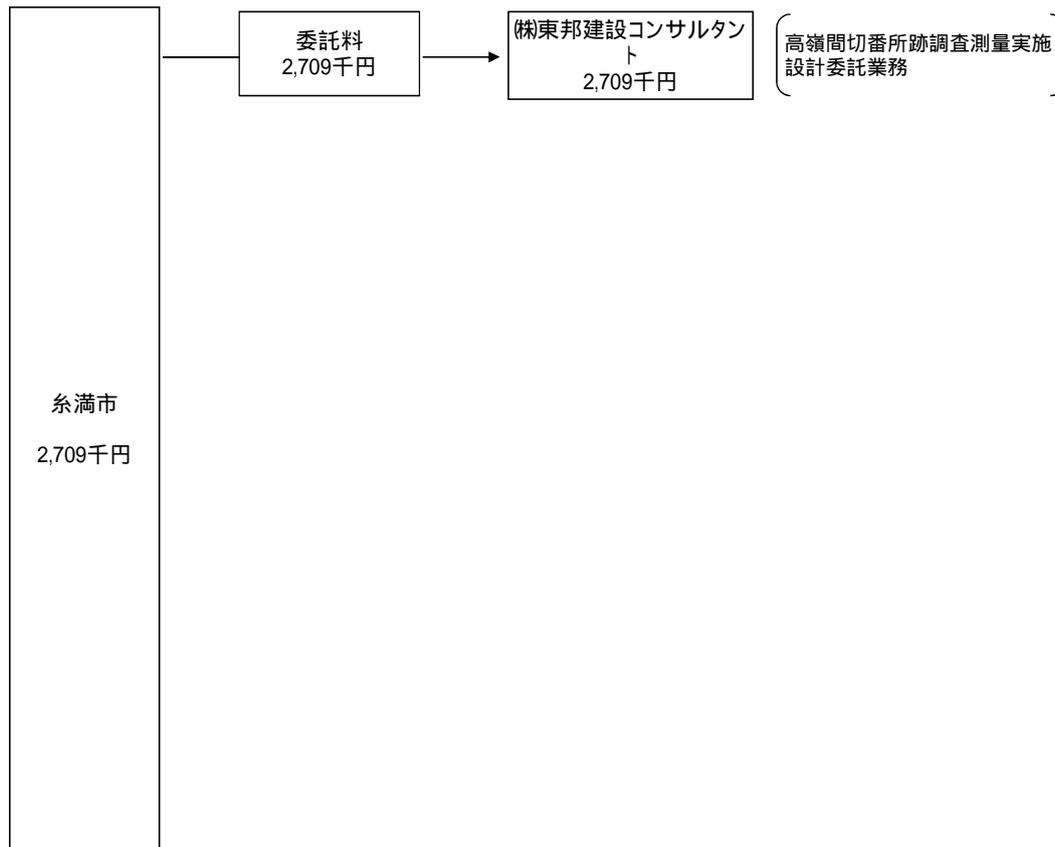
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	地域住民の説明会及び資料収集等に期間を要したため、当初の工事までの予定を変更し、今年度については、公園整備の設計のみを行った。	地域自治会とのスケジュール調整を行い、地域住民からの十分な理解が得られるように努めるとともに資料収集についても、スムーズな事業執行に努める。

今後の取り組み方針

作成した実施設計に基づき工事を行い、より地域住民の郷土愛を育むことのできる地域と一体となった観光資源としての活用をはかる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,709	2,709	2,167	542	



資金の用途の点検・費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は仕様書に基づき指名競争入札にて選定しており、選定方法、予算規模が妥当だったと考えている。 費目・用途は、委託料について直接市から支出しており適正だったと考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

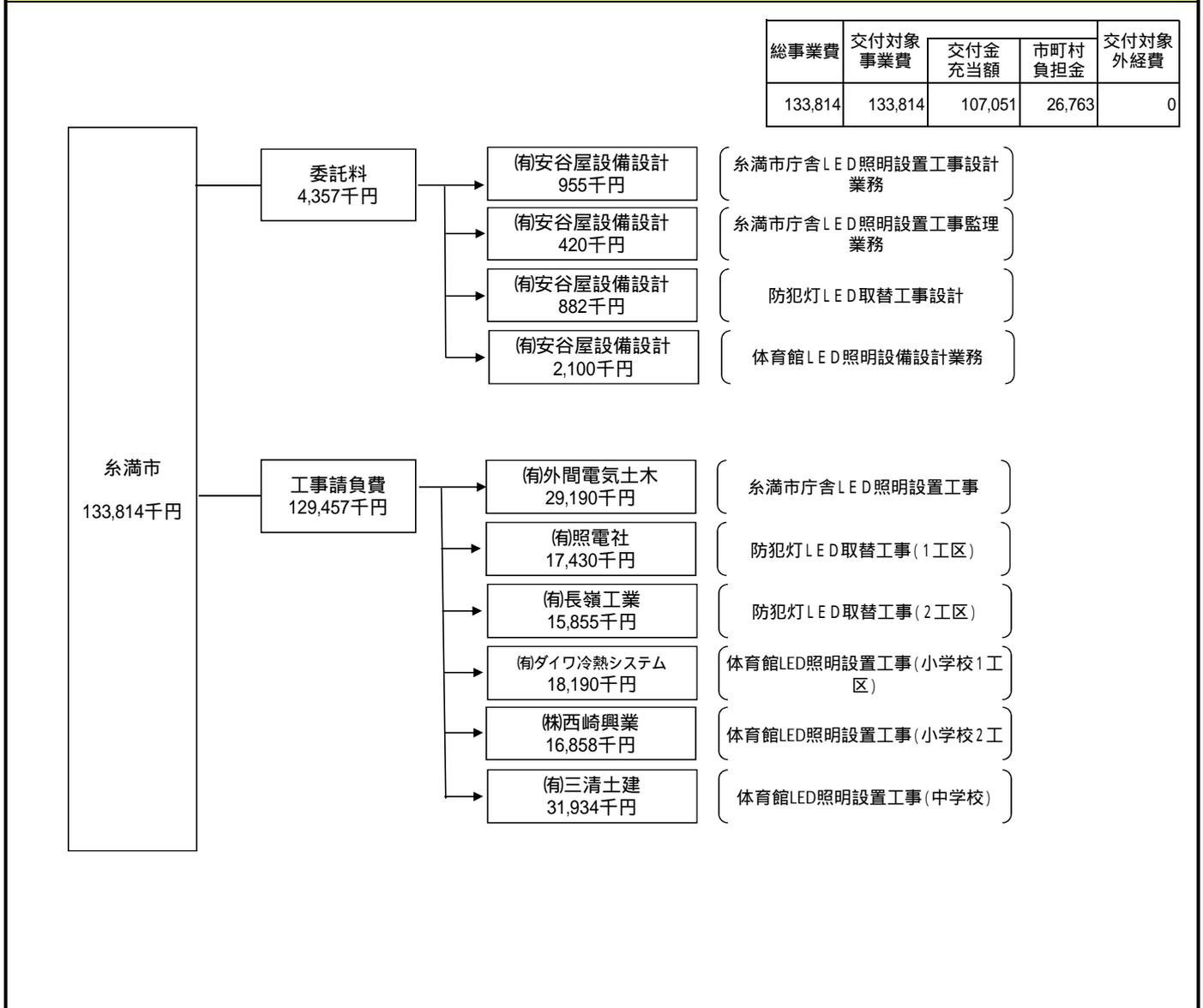
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-		省エネ設備化推進事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(3)-ア	
	担当部課名	総務部 総務課		事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地球温暖化防止対策の推進 -1-(1)
事業内容	市の環境にやさしい(CO2削減)取り組みを進めるため、学校を含む公共施設の照明をLED対応の器具を導入する。平成25年度は小・中学校の体育館照明、市庁舎照明、自治会防犯灯をLED化した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	54,198	161,997			
		(b)予算現額	54,198	153,497			
		(c)増減額(b-a)	0	8,500			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		54,198	153,497			
	B.執行済額		54,198	133,814			
	うち交付金充当額		35,096	107,051			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	87.2%			
予算の状況の説明		LED器具の普及により器具の単価が下がっており、設計段階で8,500千円の事業費を削減した。また詳細な調査の結果、設置予定であった自治会保有防犯灯がすでにLED照明の設置が行われていたため、不要額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	小学校体育館LED照明設置:4校 中学校体育館LED照明設置:3校 市庁舎LED照明設置 自治会防犯灯LED照明設置800個		目標 (設置)	(小4校、中3校市庁舎設置自治会800基)	()	()	
			実績 設置した	小4校、中3校市庁舎設置した自治会769基			
		目標 ()	()	()	()		
		実績					
達成状況説明		平成24年度は、糸満市庁舎のおよそ7割と市保有の防犯灯をLED照明設置を行った。今年度は、市庁舎の看板照明用外灯及び駐車場照明などを主に実施した。また、新たに小学校4校、中学校3校の体育館照明及び自治会防犯灯769基にLED照明を設置した。目標としていた自治会防犯灯800基のうち、すでにLED照明設置が行われていた自治会があったその分を除き、事業実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
			目標 ()	(設置)	(小4校、中3校市庁舎設置自治会防犯灯800基)	()	()
	小学校体育館LED照明設置:4校 中学校体育館LED照明設置:3校 市庁舎LED照明設置 自治会防犯灯LED照明設置800個		実績	設置した	小4校、中3校市庁舎設置自治会防犯灯769基		
			目標 ()	()	()	()	()
		実績					
進捗状況説明		小学校体育館LED照明設置:4校、中学校体育館LED照明設置:3校、769基の自治会防犯灯をLED照明設置、糸満市役所看板の照明用外灯及び駐車場照明用低地灯などを主にLED照明機器を設置し、消費電力の減少によりCO2が削減され、クリーンでエコなまちづくりの啓発となった。自治会防犯灯の目標数は800基であったが、自治会所有の防犯灯数の調査も行い、調査により判明したすでにLED化されている照明を含めると、目標としている成果(800基分のCO2削減)は達成されていると考える。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>学校:CO2削減の取り組みを進めるためにはLED器具の導入を機に、学校をあげて省エネに対する環境教育を推進する必要がある。</p> <p>自治会防犯灯:事業の実施について、当初の見込みどおりの成果が得られたが、自治会の所有する灯数調査・灯の位置調査の段階で時間がかかった。また、場所によっては、LED化することにより若干暗くなったところもあった。今後の課題としては、本事業の効果等を十分にPRし、省エネに関する市民意識の向上を図る。</p>	<p>公共施設については、学校の体育館だけではなく、学校施設全体をLED器具へ取替えられないか検討を要す。</p> <p>自治会防犯灯に関しては、LED照明の既存の設置場所と未設置分を明確に把握できるよう、詳細な調査を早め実施し、対応していく。さらに、LED化する前以上の明るさを確保するために、メーカー及び設計業者と綿密な調整が必要である。市民意識向上のために事業効果のPRを市の広報や区長会等の機会を活用し、CO2削減量等を示すなどで行う。</p>

今後の取り組み方針

学校:引き続きCO2削減の取り組みを進めるため、築10年を超える体育館のLED化を推進したい。
 自治会防犯灯:防犯灯本来の目的である暗所の解消による犯罪が発生しにくい社会の実現といった目標も確保しつつ、LED照明を設置することによるCO2の削減効果などを積極的にPRし、市内全体で低炭素社会への取り組みを推進していく環境を作っていく。具体的には市の広報や区長会などでCO2削減量等を示し、LED灯の柱にシールなどを貼り付けるなど市民に分かりやすくアピールをしていく。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・組織、実績、知識等を勘案したうえで、指名競争入札・三社見積もりによる随意契約等の適正な手続きのもとに実施されており、妥当である。 ・建設業法による登録業者へ委託し、予算規模・用途については必要最小限の事業支出である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	2-		燃料ごみ処理モデル事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(2)-ア	
	担当部課名	市民健康部 市民生活環境課		事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	3Rの推進 -1-(1)
事業内容	最終処分場を保有していない本市では、自区内処理ができず、廃棄物の減量化及び資源化を推進する必要があるため、モデル地区の可燃ごみの固形燃料化を支援するとともに、同モデル地区との連携による他自治への説明会等を行うなど同事業の拡大に取り組んだ。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	4,299	3,562			
		(b)予算現額	4,299	3,562			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		4,299	3,562			
	B.執行済額		2,747	2,607			
	うち交付金充当額		1,627	2,085			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		63.9%	73.2%			
予算の状況の説明		当初見込んでいた処理量(H24実績より)よりH25実績が下回ったため、処理費用も下回った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	燃料ゴミ収集活動の実施100回/年	目標	(104回/年)	(100回/年)	()	()	
		実績	102回/年	104回/年			
	燃料ゴミ化推進広報の実施10回/年	目標	(10回/年)	(10回/年)	()	()	
		実績	10回/年	10回/年			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区を週2回の収集を実施、可燃ゴミの搬出量を抑え、ゴミの資源化に効果があった。 チラシ配布、広報掲載を行うことで市民への周知が図られた。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	再資源化(RPF)量118トン	目標	(143トン)	(145トン)	(118トン)	()	()
		実績		127トン	107トン		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	当初見込んでいた処理量を平成25年度実績は下回った。公共施設等から排出される資源ごみが機密文書扱いとなり、減少したことが主な要因である。					

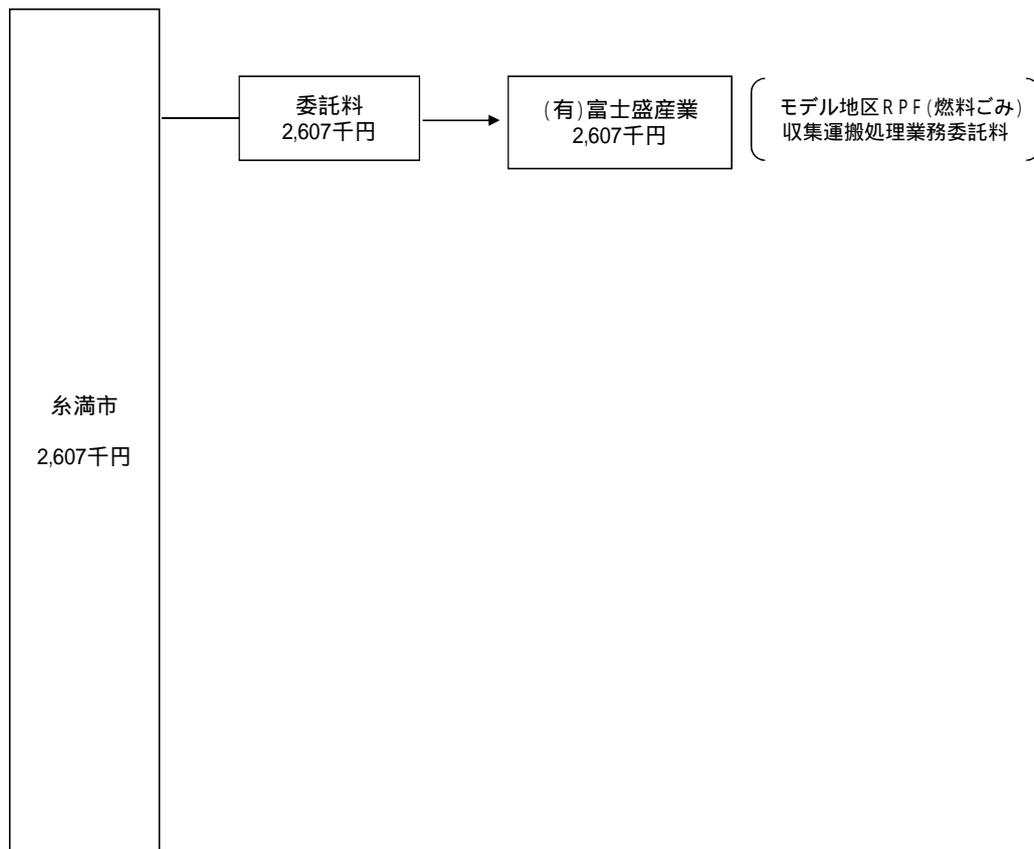
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> モデル地区が4か所のみである 公共施設等の古紙類が機密文書として処分され、燃料ごみでの処分量が低下してきている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域拡大の検証 チラシ・広報等を活用し、市民への燃料ごみ分別についての周知徹底

今後の取り組み方針

燃料ごみ(RPF)分別の周知徹底及びモデル地区と連携し、取組みに前向きな自治会から、勉強会等を通して分別を実施し、地域拡充への環境を整備する。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,607	2,607	2,085	522	0



資金の用途の点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託業者は組織、実績、知識等を勘案した上で選定し、妥当であったと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-	スポーツ観光分野開拓事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(6)-ア	
担当部課名	教育委員会 指導部 社会体育課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄のソフトパワーを活用した新事業・新産業の創出 - 1 - (1)	
事業内容	本市への県内大会、九州、全国大会の誘致を促進する取り組みとして、県内で活躍する団体等の試合やトップアスリートの講話・実技指導等を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,780	4,000			
		(b)予算現額	3,780	4,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		3,780	4,000			
	B.執行済額		3,575	3,895			
	うち交付金充当額		2,859	3,116			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.6%	97.4%			
予算の状況の説明		概ね予算計上どおり執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ウォーキング大会の開催	目標	(4コース)	(4コースでの開催)	()	()	
		実績	4コース	4コースで実施			
	海洋スポーツフェスティバルの開催	目標	(大会の開催)	(5種目の実施)	()	()	
		実績	大会を開催	12種目を実施			
達成状況説明	・平成24年度に開発したコースを利用したウォーキング大会を、名所旧跡地を巡る地域散策型大会と位置づけ、観光関係者との連携や観光ガイドからの説明を取り入れて実施することで、地域観光とスポーツ分野との融合による新たな観光ツールとして活用した。 ・海洋スポーツフェスティバルについては、海の名前の特色を生かしたサバニの歴史体験やカヌー、ウォーターバード体験、砂浜におけるビーチサッカー、ドッジボール等ビーチやホテルと連携した観光資源を活用したスポーツイベントを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	スポーツイベント参加者数1,500人/年	目標	(0人)	(1,300人)	(1,500人)	()	()
		実績		1,320人	2,724人		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・ウォーキング大会については、トップアスリートを招聘し、名所旧跡地においては、観光ガイドからの説明を取り入れたりと、観光関連WEBサイトにも登録して広くPR活動を展開した結果、市内外から1,250人の参加者を得た。 ・海洋スポーツフェスティバルについては、今回から市事業の体育の日関連事業ともタイアップし事業の拡大を図り、目標以上の参加人員となった。					

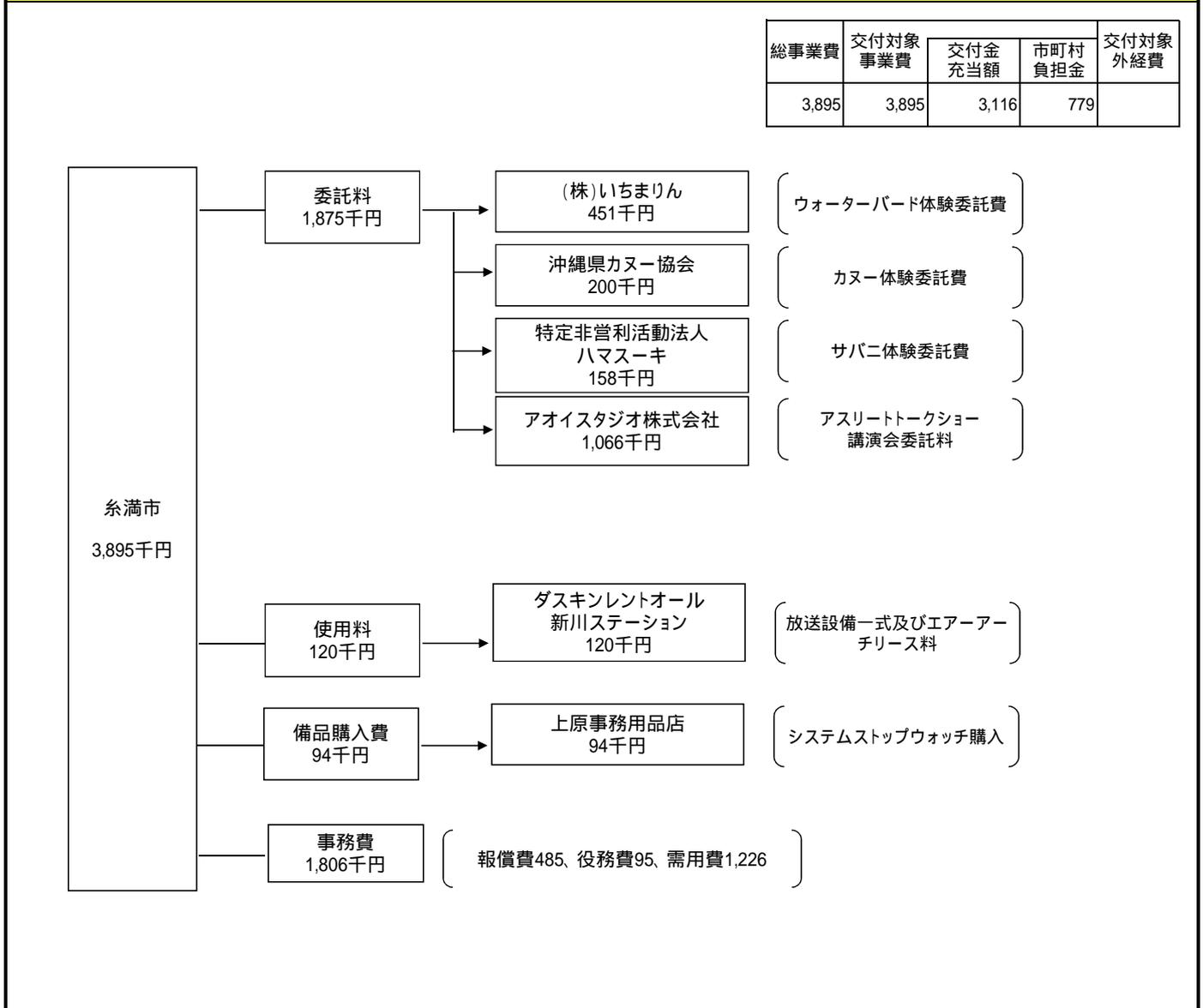
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・トップアスリートの講話とウォーキング大会の実施について、時間的な制約等があり、今後の調整検討事項となる。</p>	<p>・県外からの参加については、ウォーキング大会においては、各種プロ野球・サッカー等のキャンプ観光ともインターネットでの案内や各webサイト等と連携して更なる参加者増を考えていきたい。</p> <p>・海洋スポーツフェスティバルについても市内外の観光関連業者との連携が必要である。</p>

今後の取り組み方針

・ウォーキング大会については、県ウォーキング連盟や日本ウォーキング協会公認大会に向けて、参加者の増と地域の生涯スポーツ祭典として取り組んでいきたい。

・海洋スポーツフェスティバルについては、海のまち糸満市として、子どもサバニ競走大会の実施や観光関連業者との連携を密にして規模拡大して取り組んでいきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・委託料で受託している業者は、特殊業者であり契約等については法令に則って契約しているため妥当であると考えている。</p>
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4-	海抜表示委託事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ	
担当部課名	市民健康部 市民生活環境課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)	
事業内容	観光戦略を展開するうえで、安心安全対策は必須であることから、本市を訪れた人にも住む人にも安心な環境を整えるため、観光地をはじめ市内各地に海抜表示を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,675	2,125			
		(b)予算現額	3,675	2,125			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	3,675	2,125			
	B.執行済額		3,673	2,125			
	うち交付金充当額		2,938	1,700			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.9%	100.0%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	海抜表示の設置数 230箇所	目標	(海抜表示の設置)	(230箇所)	()	()	
		実績	海抜表示を設置	230箇所			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市内全域に平成24年度で555箇所、平成25年度230箇所の合計785箇所の海抜表示を設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	海抜表示の設置数 230箇所	目標	()	(555箇所)	(230箇所)	()	()
		実績		555箇所	230箇所		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	災害時の避難の目安として、市内全域に海抜表示を設置し、安全安心な環境整備の1つとなった。					

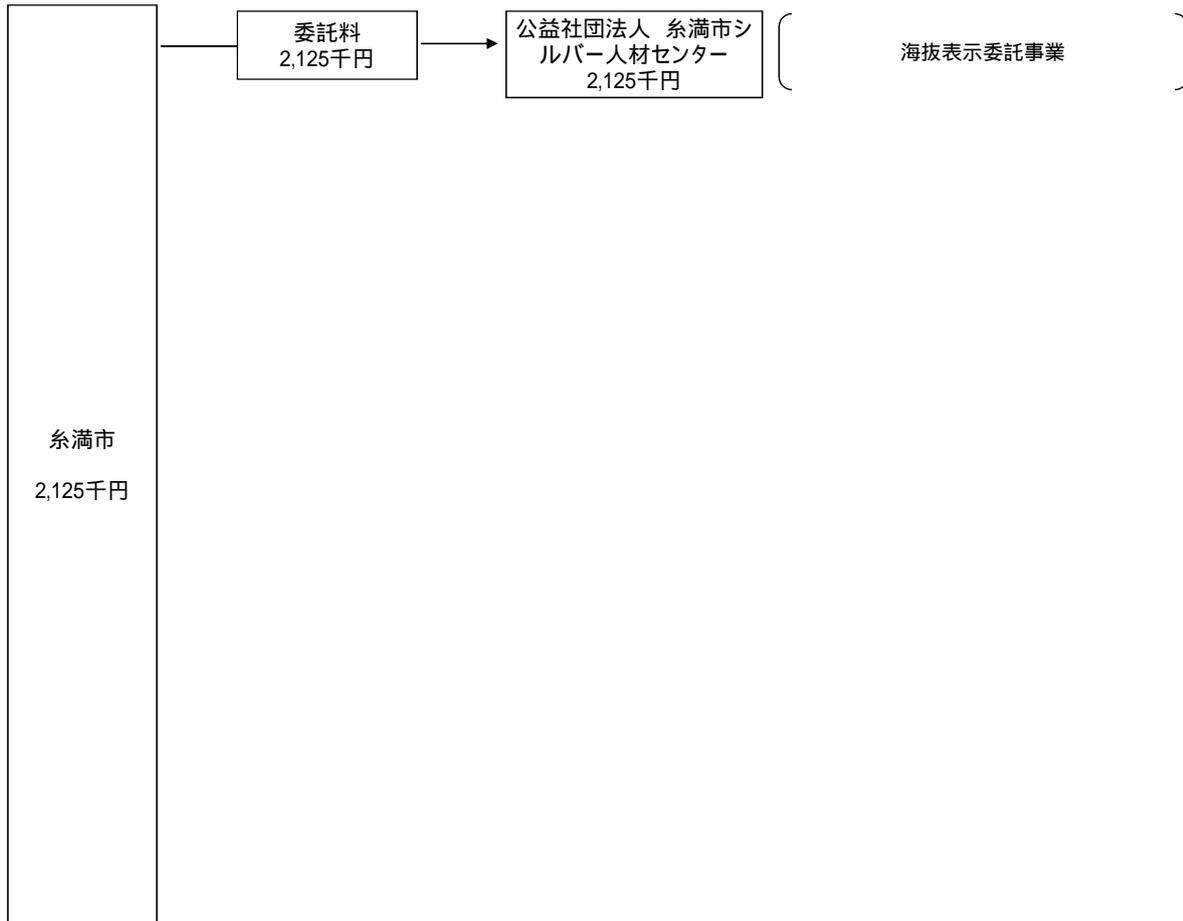
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	・市内全域に海拔表示が設置され、市民及び観光客の津波災害発生時の避難の目安となり、防災意識の高揚が図られている。	・市内全域に海拔を常時表示することにより、市民及び観光客が、津波災害発生時に避難の目安となり、また防災意識の継続的な高揚が図られた。

今後の取り組み方針

・ホームページ等を活用し海拔表示をPRしながら、市民のみならず観光客の出入りする観光地や宿泊施設等の管理者へ海拔を周知し、迅速な避難の目安とすることで、継続的な防災意識の高揚を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
2,125	2,125	1,700	425	0



資金の流 れ、費 目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先事業者は、高齢者の雇用の安定に関する法律第41条に規定するシルバー人材センター等との随意契約であり、組織、実績等を勘案した上で選定しており、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 海洋レジャー客等安心確保事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	消防本部 総務課		事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)
事業内容	<p>スーサイドクリフ等のサーフポイントやスキューバダイビングポイント、ビーチ、港等を有する本市では、海洋レジャーで訪れる観光客も多い。また、サーフィン大会が開催されるなど海上イベント等も拡大傾向にあることから、水難事故等の不測の事態への対応力強化が急務となっている。このことから、観光客等の安心を担保する環境を整備するため、水難救助艇のけん引搬送、潜水資機材搬送用の資機材運搬車及び移動式呼吸器用高圧空気圧縮機(エア・コンプレッサー)を整備した。</p>						
実施方法	<p>直接実施 委託 補助 負担 その他 ()</p>						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	24年度(繰越)	25年度	27年度	28年度
	予算の状況 (a)当初予算額 (b)予算現額 (c)増減額(b-a) (d)繰越額 A.計(b+d)		7,435	0	8,885		
			7,435	0	8,885		
			0	0	0		
			-	1,500			
			7,435	1,500	8,885		
	B.執行済額		5,742	1,481	8,294		
	うち交付金充当額		4,594	1,185	6,635		
	次年度繰越額		1,500	0	0		
	執行率(%) (B/A)		77.2%	98.7%	93.3%		
予算の状況の説明		<ul style="list-style-type: none"> 資機材運搬車及び移動式呼吸器用高圧圧縮機は指名競争入札により予算執行できた。 指名競争入札による契約のため、予算残額が生じた。 					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	資機材運搬車の配備:1台	目標	(ジェットボートの配置)	(資機材運搬車購入)	()	()	
		実績	ジェットボート配置	資機材運搬車配備			
	移動式呼吸器用高圧空気圧縮機:1台	目標	()	(空気圧縮機購入)	()	()	
		実績		空気圧縮機配備			
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度にジェットボートを購入し、合わせてジェットボート用のスロープの設置工事を実施しスロープを設置した。 ジェットボート(水難救助艇)けん引搬送及び潜水資機材搬送用の資機材運搬車を購入し配備した。 救助隊員の使用する空気ポンペを充填するための移動式呼吸器用空気圧縮機を購入し配備した。 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	資機材運搬車の配備:1台 移動式呼吸器用高圧空気圧縮機の整備:1台	目標	()	(1艇配置 1箇所設置)	(車両1台配備 機器1台配備)	()	()
		実績		1艇配置 1箇所設置	車両1台配備 機器1台配備		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 平成24年度水難救助艇(ジェットボート)とスロープを設置した。 平成24年度に配置した水難救助艇(ジェットボート)のけん引搬送及び潜水資機材搬送用の資機材運搬車を消防本部へ配置。 スロープ設置及び資機材運搬車配置により水難事故等の不足の事態の対応力の強化ができた。 移動式呼吸器用空気圧縮機を配備したことにより、これまで業者へ空気ポンペ充填依頼した場合、1週間程かかっていた期間が消防本部で空気ポンペの充填ができるため空気ポンペ不足の心配が減った。 					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・台風等の自然災害によるスロープの損壊が懸念される。 ・消防職員に船舶操縦士免許及び自動車牽引免許の取得者をさらに増員する。 ・移動式呼吸器用空気圧縮機を配備したことにより、これまで業者へ依頼し1週間程かかっていたが、消防本部で充填することができるようになり、空気ボンベ不足の心配が減った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スロープに損壊箇所等がないか定期的に現地調査を実施する。 ・不測の事態に備えて水難救助訓練を実施する。 ・より安全な体制を確保できるよう職員に船舶操縦士及び自動車けん引免許を取得させるなど人材育成を行っていく必要がある。

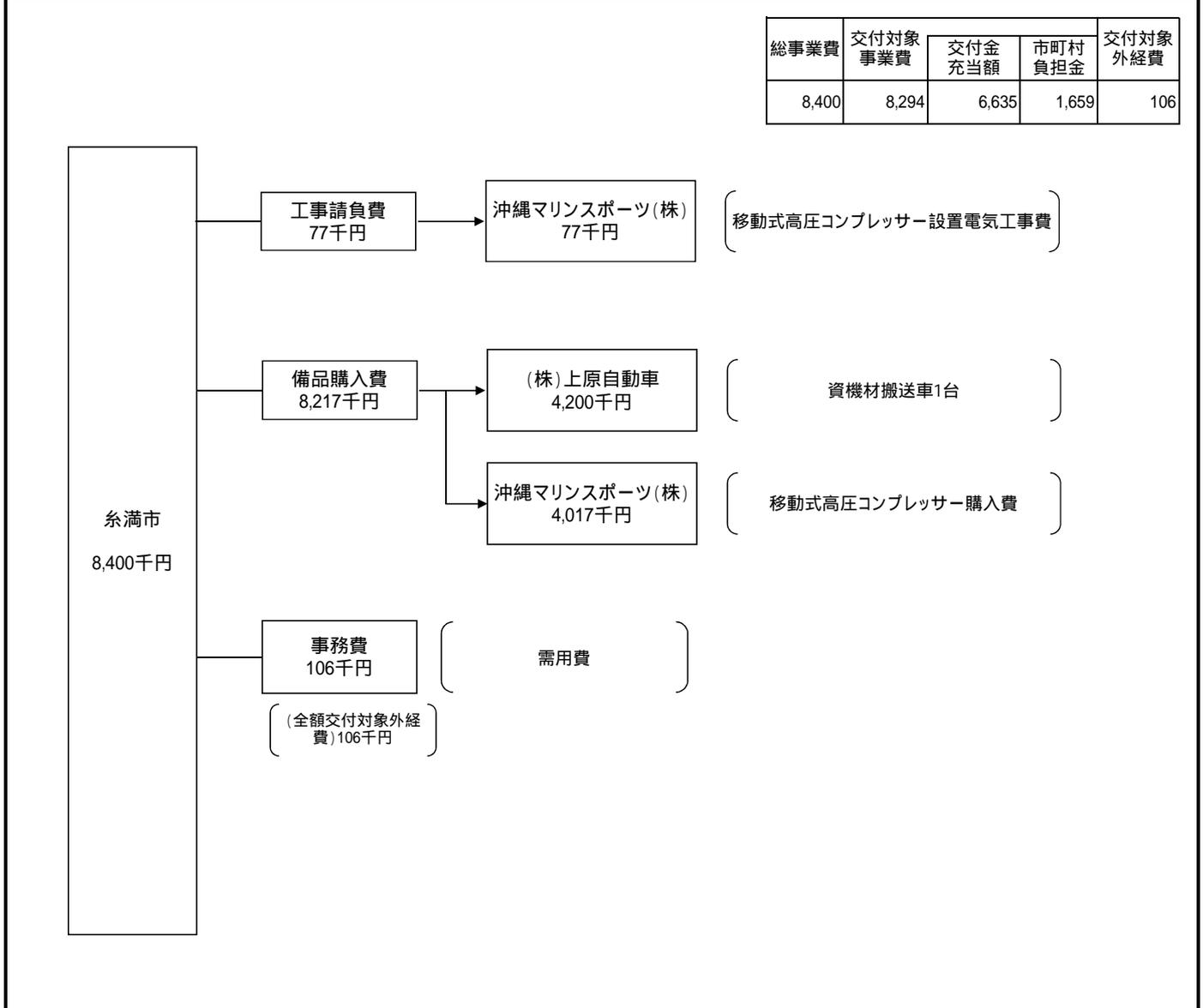
今後の取り組み方針

・移動式呼吸器用空気圧縮機・資機材運搬車を配備したことにより、水難事故等不測の事態への対応力を強化することができたので、さらに安全な体制の強化にむけて、今回導入した機材等を活用した水難事故想定訓練を実施する。

・スロープに損壊箇所がないか定期的に現地調査を実施する。

・船舶免許及び自動車牽引免許を消防職員に習得させる。また、取得している職員についてもより高度な技術を身に付けられるよう訓練を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の点検・費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・物件購入業者は指名競争入札にあたり企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考える。 ・予算規模・費目・使途については事業目的達成の観点から必要最低限のものである。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 避難誘導標識整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	市民健康部 市民生活環境課		事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)
事業内容	災害発生時に、地理に不慣れな観光客が迅速かつ安全に避難場所へ移動できるよう、観光客の安心・安全を図るため、低地から避難所に向けて避難誘導標識を設置した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		7,500			
		(b)予算現額		7,500			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		7,500			
	B.執行済額			6,448			
	うち交付金充当額			5,158			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			86.0%			
予算の状況の説明		残額が1,052千円発生しているが入札残によるものであり、当初計画設置数はすべて実施できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	避難誘導標識設置数 60箇所	目標	()	(60箇所)	()	()	
		実績		60箇所			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	市内低地帯60箇所に津波避難誘導標識を設置した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	避難誘導標識設置数 60箇所	目標	()	()	(60箇所)	()	()
		実績			60箇所		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	市内低地帯60箇所に当初計画どおりに津波避難誘導標識を設置し、市民及び観光客による避難場所確認が容易にできるようになった。					

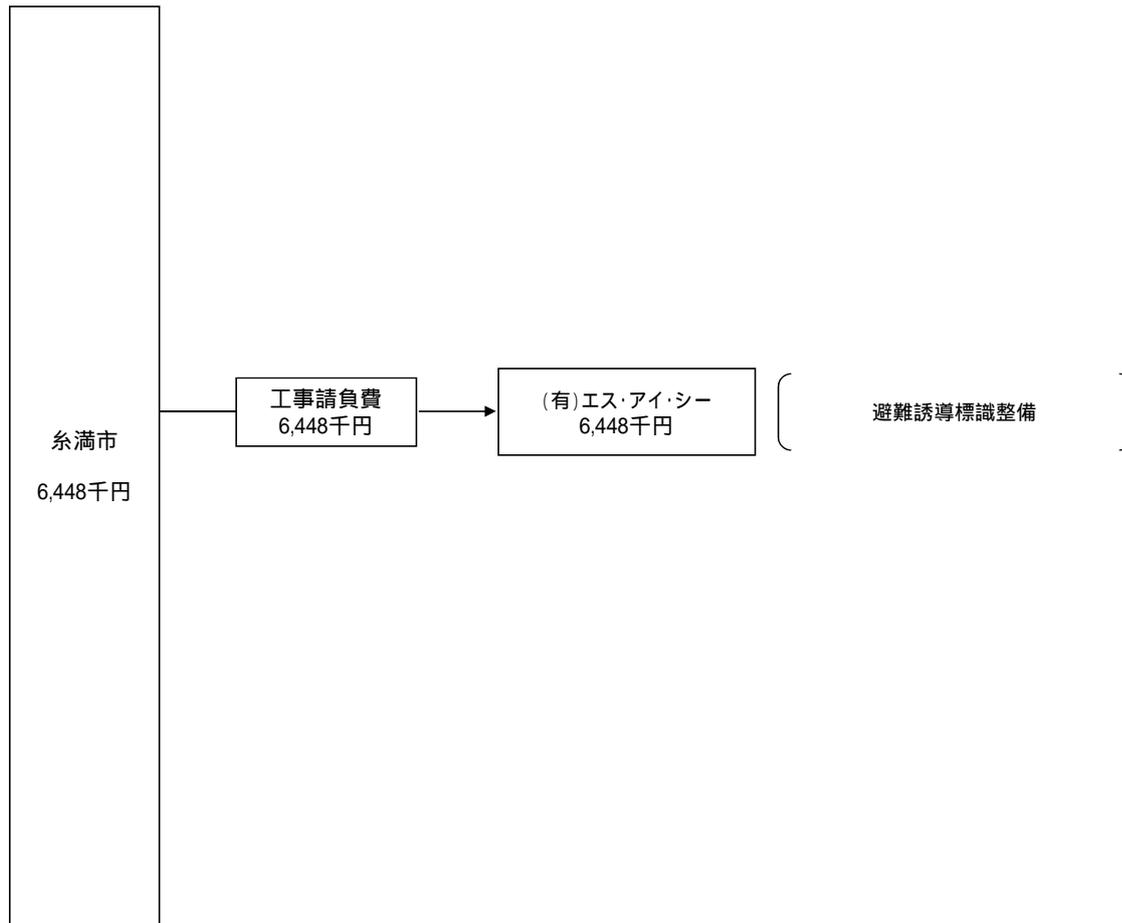
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>・低地帯に津波避難誘導標識が設置されたことにより、市民及び観光客の津波発生時の避難が迅速になり、防災意識の高揚が図られる。</p>	<p>・津波避難誘導標識を設置したことにより、市民及び観光客が、避難所の場所を容易に特定することができるようになった。 ・標識を活用した避難訓練を実施し、継続的な防災意識の高揚を図る。</p>

今後の取り組み方針

・市民及び観光客の出入りする観光地や宿泊施設等の管理者を対象に、避難誘導標識を活用した訓練を実施することにより、迅速な避難行動が取れるようにするとともに、継続的な防災意識の高揚を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,448	6,448	5,158	1,290	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>・請負業者は、入札により選定された業者であり、実績、知識等を勘案して妥当であった。 ・予算規模・費目・使途については事業目的達成の観点から必要最小限なものである。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	4- 観光地危険生物駆除事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(2)-ウ		
	担当部課名	市民健康部 市民生活環境課		事業実施(予定)年度	平成25～30年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制の整備 -1-(1)
事業内容	本市に多くある慰霊碑や塔は、山間部や岩場等ハブなどの危険生物が生息する箇所に多く建立されており、そこを訪れる観光客等のハブ咬傷の危険性を除去し安全を確保するため、ハブ生息地域を把握し、ハブ捕獲・駆除及び注意喚起看板を設置した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		2,184			
		(b)予算現額		2,184			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		2,184			
	B.執行済額			1,932			
	うち交付金充当額			1,545			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			88.5%			
予算の状況の説明		車両のリースを市保有の公用車により行うことができたため、賃借料が不要となった。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	ハブ捕獲器100基作成	目標	()	(100基)	()	()	
		実績		100基			
	注意喚起看板40基作成	目標	()	(40基)	()	()	
		実績		50基			
達成状況説明	ハブ捕獲器100基作成した。 注意喚起看板の制作については設置目標が40個であったが、ハブ生息地が広範囲であったため50基に増した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	ハブの捕獲器100基及び注意喚起看板40個を三和地区10カ所に設置	目標	()	()	捕獲器100基、看板40基設置	()	()
		実績			捕獲器100基、看板50基設置		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	ハブ捕獲器をハブの出没が多い三和地区、阿波根地区の10箇所に100基設置した。 注意喚起看板をハブ出没が多い三和地区の10箇所に50個設置した。					

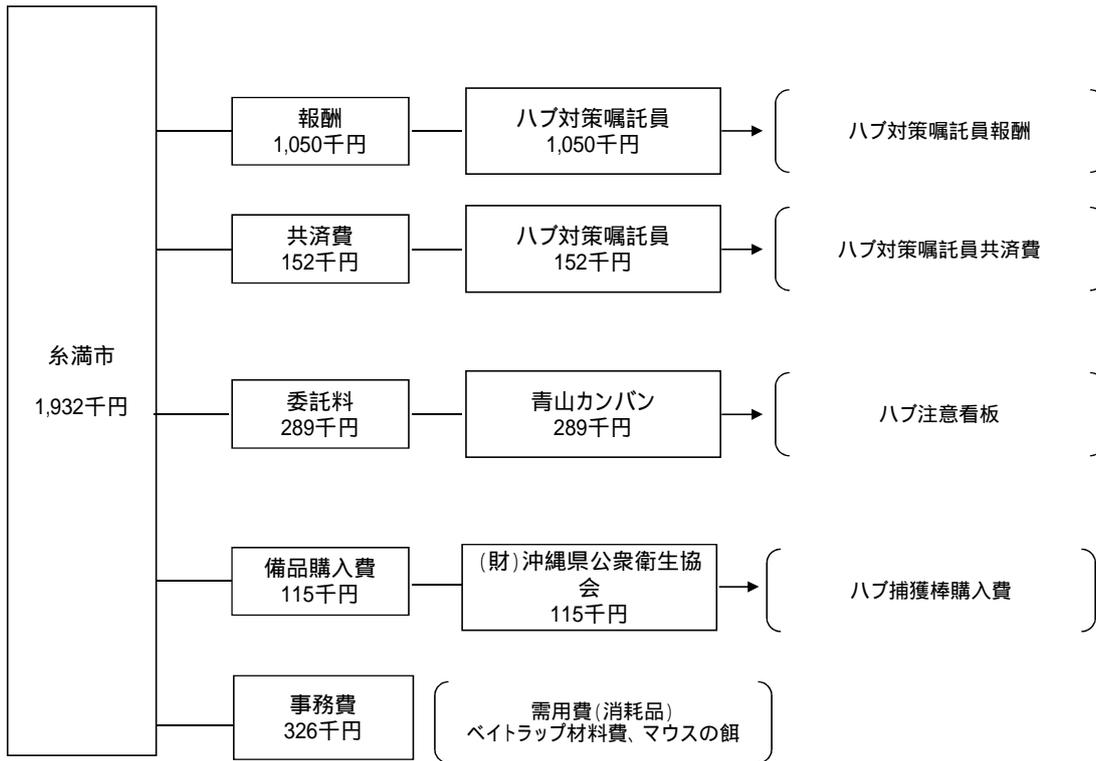
	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>・ハブ駆除対策として、ハブ捕獲器、ハブ注意喚起の看板を作成し観光地等に設置したが、ハブの生息地は広範囲であり、設置場所が難しかったが観光地の管理者と協議しハブが多く出没する場所に設置した。</p>	<p>・ハブ捕獲器、ハブ注意看板の設置については、引き続き、観光地の管理者と協議しハブが多く出没する場所に設置。 さらに、出没場所の把握箇所を拡大するため、市民や観光客等からのハブが出没する場所の情報を設置場所の検討材料としていく。</p>

今後の取り組み方針

・継続して出没の多い地区を見回りながら、市民及び観光客等に注意喚起を行うとともに、施設管理者等の情報と市民、観光客の情報を基にハブ捕獲器を設置し、ハブ咬症被害に遭わないよう安全を確保していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
1,932	1,932	1,545	387	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>ハブ対策嘱託職員の採用は公募を行い面接により採用したため適正であった。</p> <p>費目・用途については、事業目的に達成のため必要なものであり適正であった。</p>
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	多言語観光案内マップ作成事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	大型ホテルの営業に伴い増加傾向にある外国人観光客のさらなる誘客に向けて、外国人観光客の市内散策ができるよう、多言語マップを作成した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	2,500			
		(b)予算現額	5,000	2,500			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,000	2,500			
	B.執行済額		4,242	2,370			
	うち交付金充当額		3,393	1,896			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		84.8%	94.8%			
予算の状況の説明		入札により翻訳料が安価に済んだため、不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 英語版 1,000部	目標	(41,000部)	(1,000部)	()	()	
		実績	41,000部	1,000部			
	多言語観光ガイドマップ(ブック)の作成 中国語版1,000部	目標	()	(1,000部)	()	()	
		実績		1,000部			
達成状況説明	昨年作成した多言語ガイドマップ(ブック)の日本語版(33,000部、韓国語版8,000部)をもとに、英語版と中国語(繁)の観光マップ(ブック)を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	多言語観光ガイドマップ(ブック)配布数 2,000部	目標	()	(21,000部)	(2,000部)	()	()
		実績		21,000部	2,000部		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	本市にあるホテル・民宿へのガイドマップ(ブック)設置をはじめ、近隣の宿泊施設、レンタカー会社などの店頭にて積極的に配布協力をいただいた。					

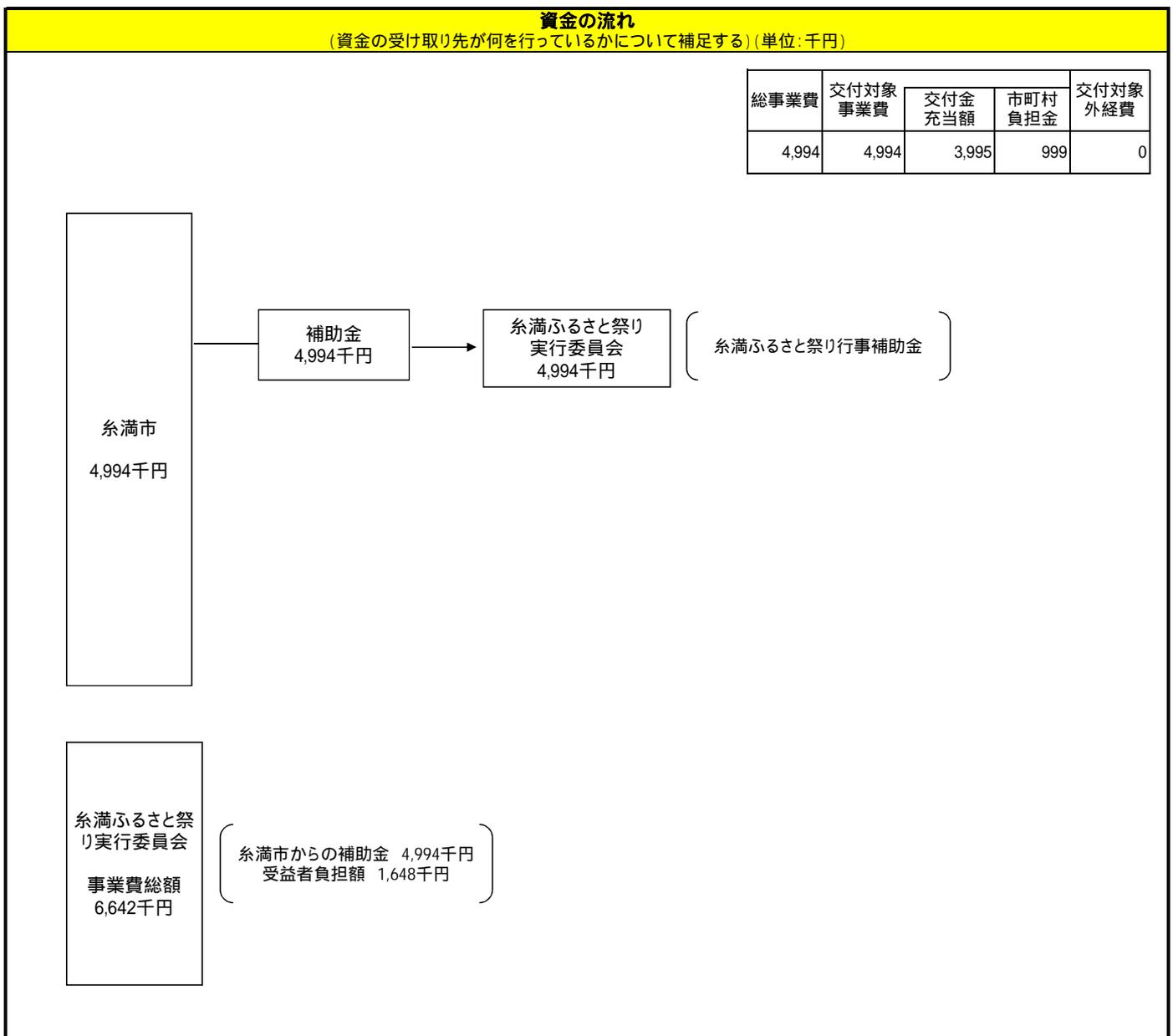
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 国によって興味や観光の形態が異なり、ガイドマップ(ブック)の需要も異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> 県の観光入域客数情報や地元のホテル、民宿などの国別観光客数等を参考に、ガイドマップ(ブック)作成部数や作成内容も再検討する必要がある。
今後の取り組み方針		
<ul style="list-style-type: none"> 国別観光客数を把握し、言語を特定してガイドマップ(ブック)を作成する。 次年度は、現在、宿泊数が多い、中国語版(簡)と韓国語版を優先して作成する。 		

資金の流れ					
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	2,370	2,370	1,896	474	0
<pre> graph LR A[糸満市 2,370千円] --> B[委託料 2,370千円] B --> C["(株)東洋企画印刷 2,370千円"] subgraph Note C --- D["糸満市観光ガイドブック(多言語版)作成"] end </pre>					

資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	昨年度製作を委託したガイドブックの翻訳であること、また糸満市の写真データを豊富に蓄積していることから業者選定を行い、随意契約をしたため、妥当であると考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	糸満ふるさと祭推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
	担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	ふるさと祭りを夏場の観光資源化と誘客力を高めるため、実行委員会へ補助金を交付した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,000	5,000			
		(b)予算現額	5,000	5,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,000	5,000			
	B.執行済額		4,990	4,994			
	うち交付金充当額		3,991	3,995			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.9%			
予算の状況の説明		予算計上どおり概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	糸満ふるさと祭りの開催	目標	(祭りの開催)	(祭りの開催)	()	()	
		実績	祭りを開催	祭りを開催			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	伝統文化の継承と市民活動の活性化を図るとともに観光客にも糸満の地域行事を楽しむ場とするたの観光イベントとして、ふるさと祭り実行委員会に対して補助金を交付した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	糸満ふるさと祭り来場者 33,000人	目標	()	(祭りの開催)	(33,000人)	()	()
		実績		祭りを開催	49,369人		
	〔参考指標〕	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	雑誌やフリーペーパーなどで祭りの周知を県内外へ周知できたことや市内の観光リゾートホテルとタイアップし祭りを盛り上げる計画ができたことで、平成24年度来場者は32,000人であったが、今年度は目標としていた33,000人を上回る49,369人の来場者となった。それにより、伝統文化や市民活動の融合など県内外へPRできた。また経済効果として、市内の飲食業や道の駅などの集客が増えた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	祭り会場と臨時駐車場までに距離があり来場者へ不便を生じた。 開催時期が7月上旬で日中の暑さ対策が必要である。	祭り会場と臨時駐車場が隣接できるような会場を確保する。 開催時期の変更や涼しさがでるイベントを検討する。
今後の取り組み方針		
開催時期や開催会場を変更し暑さ対策や駐車場確保を努める。		



資金の流 れの流 れ、費 目、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	・実行委員会に委託することで直接事業実施を行えることから費用等においても妥当であったと考える。 ・受益者負担は、総事業費6,642千円に対し、補助金4,994千円で受益者1,648千円なので、妥当である。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	平和の光イベント推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
	担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)	
事業内容	冬場は本県並びに本市の観光客が閑散とするため、市内外の誘客を図るため、本県冬場の一大イベントである平和の光(イルミネーション)を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	30,000	10,000			
		(b)予算現額	30,000	10,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	30,000	10,000			
	B.執行済額		29,504	9,977			
	うち交付金充当額		10,447	7,981			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		98.3%	99.8%			
予算の状況の説明		予算計上どおり概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	平和の光イベントの開催	目標	(イベントの開催)	(イベントの開催)	()	()	
		実績	イベントを開催	イベントを開催			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	平和の光イベントは、糸満観光農園で平和の祈りをイルミネーションに託して世界へ発信する事業を実施。平和の柱イベントは、平和記念公園で平和の祈りを5台のサーチライトで天空に光の柱を発信することで世界の平和を祈念する事業を実施。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	平和の光イベント来場者数 80,000人	目標	()	(79,000人)	(80,000人)	()	()
		実績		76,184人	79,140人		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	21日間の開催期間中の内9日間天候不順のため、目標は惜しくも達成できなかったが、平和の光、平和の柱両イベントを同じ期間に行ったことで、昨年度よりも多くの方に足を運んでもらい平和の尊さを発信することができたと思う。					

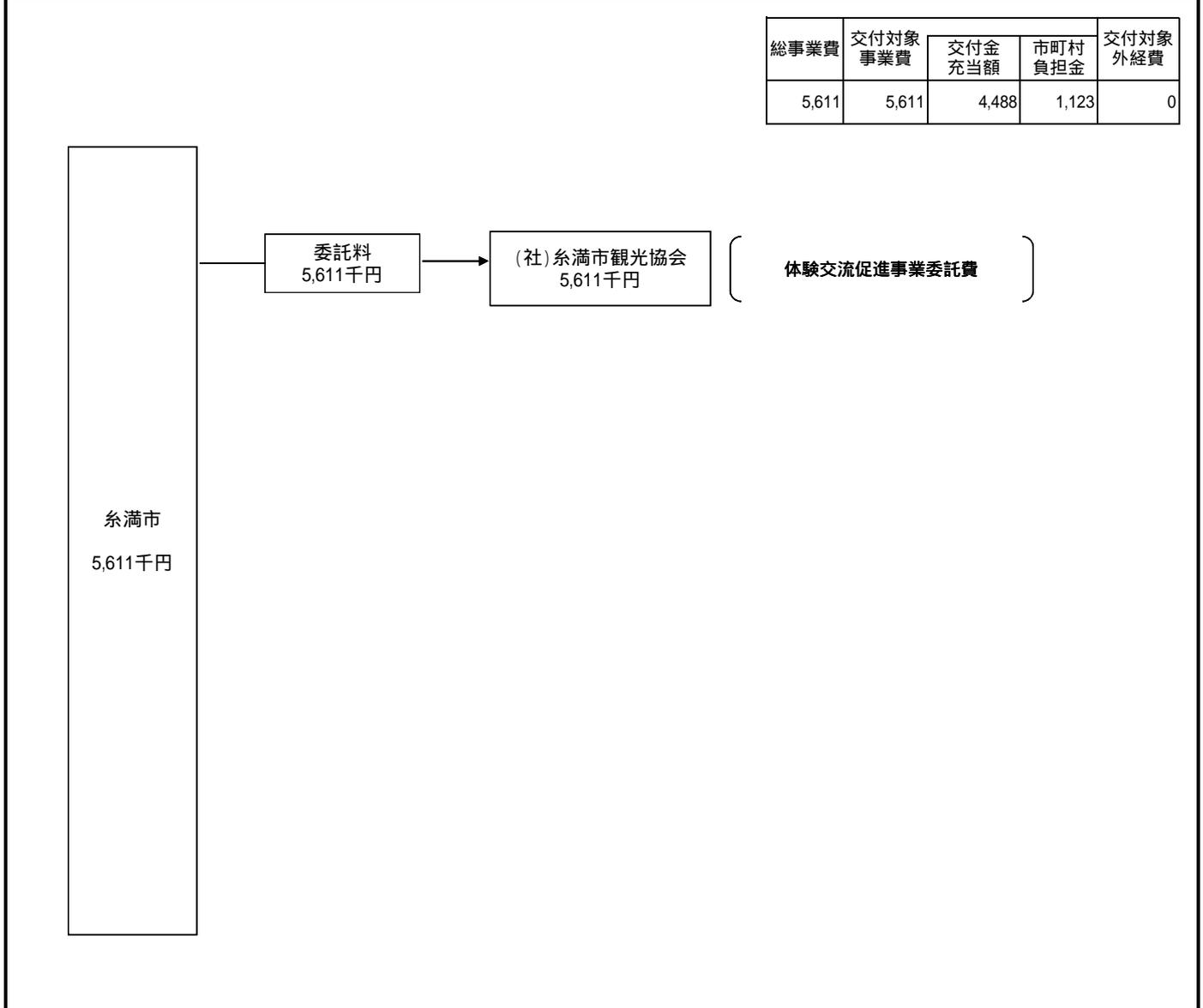
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	さらなる平和発信につなげるため、12月以外にも6月23日の慰霊の日に合わせて、平和の柱事業を実施することについて、検討の余地がある。	12月開催の平和の光イベント事業への周知・PRにつなげるため、6月23日の慰霊祭前日から平和の柱をたてて平和発信ができないか検討する。
今後の取り組み方針		
<p>平和の柱事業は、平和祈念財団へ委託することで、平和祈念公園内で全戦没者の御霊の供養のための行事として位置づける。6月の慰霊の日にも平和の柱をたて、12月開催の平和の光イベント事業への周知・PRにつなげる。</p>		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	9,977	9,977	7,981	1,996	0
<pre> graph LR A[糸満市 9,977千円] --> B[補助金 9,977千円] B --> C[「平和の光」実行委員会 9,977千円] C --- D[平和の光(イベント)助成補助金] D --- E[賃借料(運搬車両) 223千円] D --- F[イベント費(花火、点灯式等) 2,859千円] D --- G[委託料(警備、バス運行、清掃等) 4,487千円] D --- H[広告費 273千円] D --- I[需用費(チケット印刷、燃料費等) 2,135千円] </pre>					
資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点 検 項 目			評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。			・実行委員会に委託することで直接事業実施を行えることから費用等に置いても妥当であったと考える。 ・受益者負担は、総事業費27,860千円に対し、補助金9,977千円で受益者17,883千円なので、妥当である。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。			
		受益者との負担関係は妥当であるか。			
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	体験交流促進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	一次産業が盛んで体験型観光の最適地である本市の利点を生かし、観光客のさらなる誘客を図るため、体験型観光メニューの開発及び実施に取り組んだ。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	5,486	5,618			
		(b)予算現額	5,486	5,618			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,486	5,618			
	B.執行済額		5,486	5,611			
	うち交付金充当額		3,291	4,488			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	99.9%			
予算の状況の説明		予算計上どおり概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	体験交流指導員等の育成	目標	(指導員の育成)	(指導員の育成)	()	()	
		実績	指導員の育成	指導員の育成			
	体験交流イベントの開催 2回	目標	(イベントの開催)	(イベント(2回)の開催)	()	()	
		実績	イベントの開催	イベント(2回)の開催			
達成状況説明	市域内で体験できる個人向け、団体・修学旅行生向けの体験メニューがプログラム化された。まちあるきに関しては、さらに2コース開発した。子供向け体験イベントでも、市内事業所との連携のもと多数のメニューを提供し、地域資源の周知を図った。体験交流指導員等の育成については、自然体験リーダーや地域観光ガイドを育成できた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	体験交流指導員等の育成 5人 体験交流事業参加者数 200人	目標	(0人)	(100人)	(5人育成参加者200人)	()	()
		実績		140人	15人育成参加者2,903人		
	〔参考指標〕		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	平成24年度は、イベント参加者が140人だったが、観光人材として育成された方を中心に体験メニュー等を子供向け体験イベントを計画し、26個の体験メニューを提供した。2日間で2,903人と、当初の予想をはるかに上回る参加者があった。					

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・費用面で団体を受け入れないと、収支バランスがとれないメニューがある。 ・修学旅行生を対象とした1次産業の体験メニューの開発を進めたいが、なかなか体験受け入れ先を獲得できない。 ・実証実験が少ないため、実践での体験メニュー実施にはまだ不安な部分が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の実証実験に加え、イベントなどでも回数を重ねることで、体験内容の充実を図る必要がある。 ・南部広域の取り組みなどを参考に、無理のない価格の設定と催行人数を決定したい。 ・農協や漁協を通じて農・漁協関係者らとの繋がりを持ちながら、体験受入者を獲得したい。
	今後の取り組み方針	
<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き市域内観光資源の発掘に努め、観光関連事業者や農・魚業者と連携し、新たな滞在型観光に繋がる体験メニューを開発する。 ・開発した体験メニューについても実証実験も並行して実施し、参加者のアンケート等を通じて、内容充実を図る。 		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、南部広域や観光関連事業所と連携し、事業目的を達成できる団体であることを理由に随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ・支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

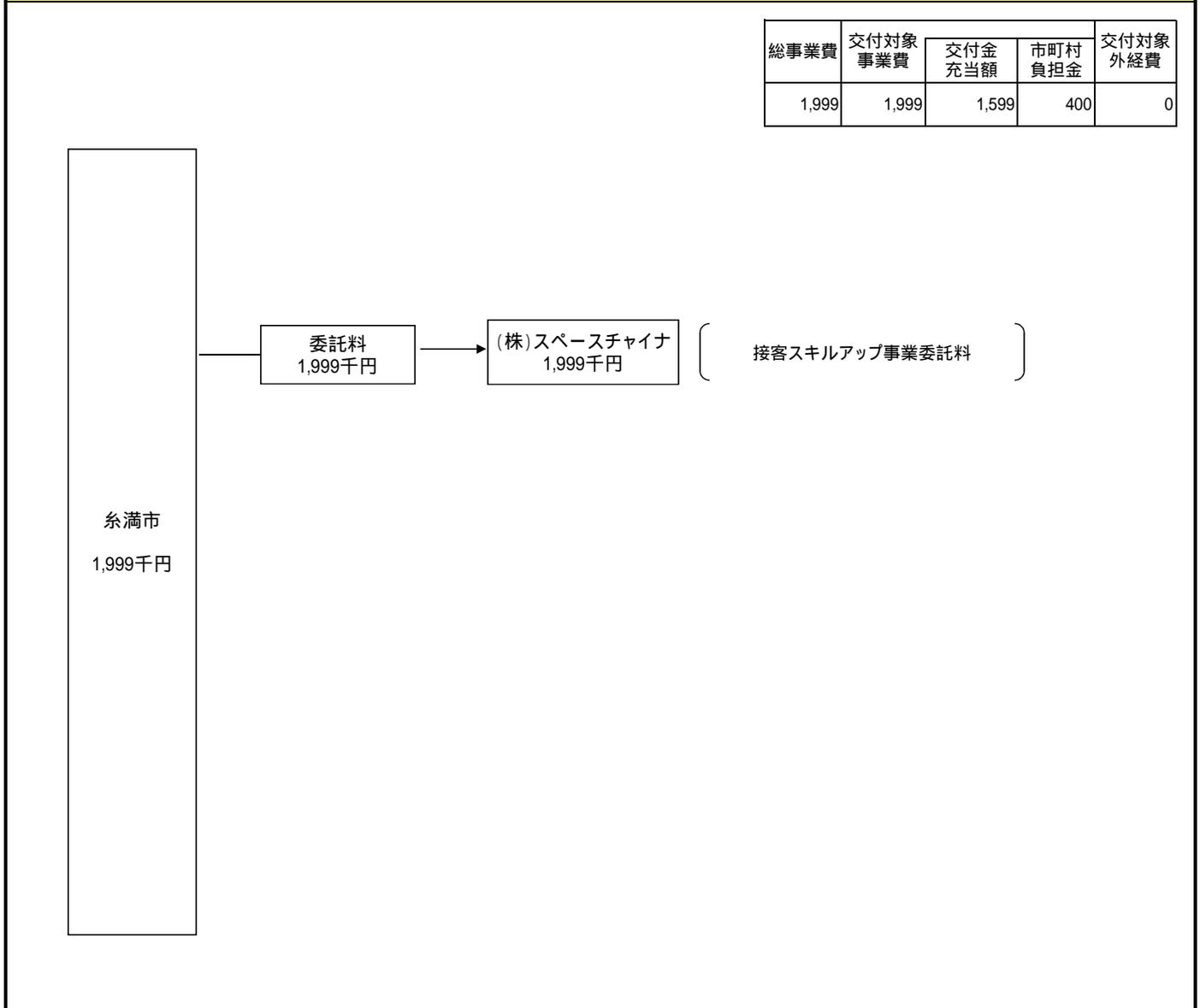
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	接客スキルアップ事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	商店街・中心市街地の活性化と商業の振興 -1-(1)	
事業内容	商業及び商店街の活性化に向けて、糸満市を訪れる中国及び東南アジア観光客が商店街へ回遊した際の接客技術等の向上を図るため、販売促進講座等を開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	2,000			
		(b)予算現額	2,000	2,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,000	2,000			
	B.執行済額		1,995	1,999			
	うち交付金充当額		1,596	1,599			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.8%	100.0%			
予算の状況の説明		予算計上どおり概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	講習会の実施	目標	(16回、3回)	(19回)	()	()	
		実績	11回、4回	8回			
	講習会参加者募集	目標	()	(160人)	()	()	
		実績		57人			
達成状況説明	H24年度は、語学習得講座と接客法等についての講座を計15回行った。今年度は、語学習得講座は計5回、中国語を対象に糸満工業団地会館で開催した。また、接客法等講座については、計3回開催。集客促進・商談力の向上を支援するための情報機器を活用した戦略セミナー1回 営業力の向上を目的とする接客マナーセミナー2回の内容で、外国人観光客の集客方法や接客営業について講習会を西崎工業団地会館で実施し、合わせて57名の参加となった。 ・平成24年度実施の講座を踏まえた上級のセミナーを開催したため、講師の単価が上がり、開催回数が減った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	講習会実施回数 19回 講習会参加人数 160人	目標	()	(70人)	(160人)	()	()
		実績		166人	57人		
	〔参考指標〕		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	・平成24年度は糸満市商工会と随意契約にて事業を実施したが、平成25年度はプロポーザルにて市外企業を選定して実施した。講習会の参加人数が減った原因は、実施体制で糸満市商工会の協力体制が弱かったことが大きいと思われる。平成26年度は商工会に協力頂き、会員ネットワークを活用して、周知・募集を行っていきたい。					

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成25年度の外国客は、62万7,200人で、前年比で24万4,700人増、64.0%の増となり、過去最高となった。これまでの外国客の過去最高の入込は、平成24年度の38万2,500人。</p> <p>円安に伴い、割安感のある訪日旅行需要が拡大したことに加え、航空路線が拡大したことが入込の大きな要因と考えられる。台湾、韓国、香港は安定して増加、中国本土についても、路線の再開やクルーズ船寄港により徐々に回復しており、いずれも過去最高の入込となった。</p>	<p>糸満市商工会等の会員ネットワーク等を活用し、小規模事業者等へ周知・募集を行い、迅速かつ効率的に事業を遂行していく。また、受講者へアンケート調査を実施して、今後の講座に反映させていく。</p>

今後の取り組み方針

- ・講座の周知募集の徹底。
- ・外国人観光客の受け入れに向けた事業者向けニーズの調査の実施。
- ・当該ニーズに基づく接客・語学講習会の開催。

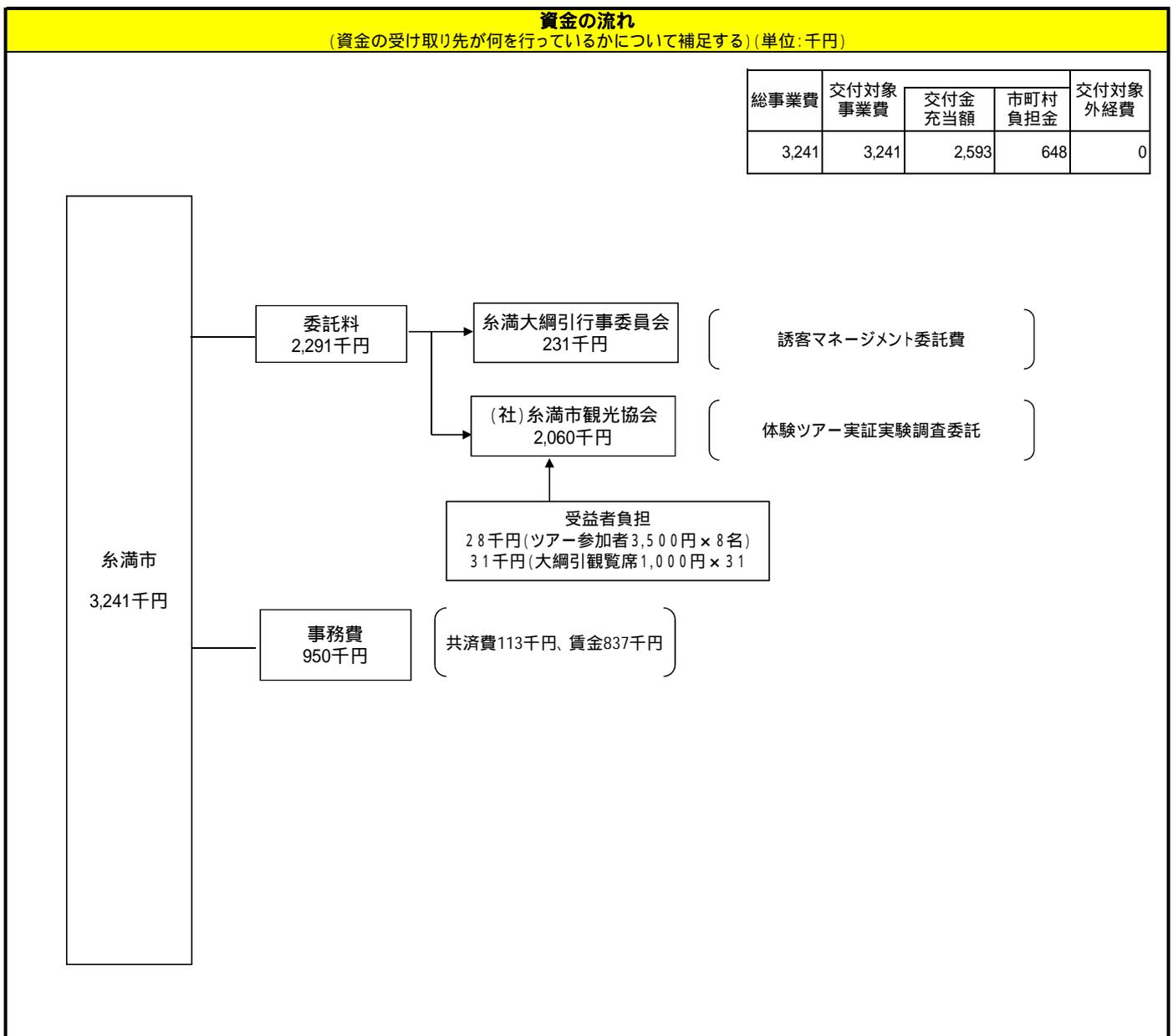
資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・プロポーザルで受託者の選定を行った。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	・受益者負担に関しては講座のテキスト代などで適切であった。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・規模・費用・使途については、確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	伝統行事観光化事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
	担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	圏域の特色を生かした産業の振興 -1-(1)	
事業内容	市内の伝統行事を市内外からの観光客の誘客に活用するため、誘客マネジメント、体験ツアー実証実験、観光客用観覧席の設置を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	14,850	4,326			
		(b)予算現額	14,850	4,326			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	14,850	4,326			
	B.執行済額		13,059	3,241			
	うち交付金充当額		10,447	2,593			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		87.9%	74.9%			
予算の状況の説明		伝統行事である糸満大綱引行事への誘客マネジメントや体験ツアー実証実験にかかる費用を委託した。マネジメント費用について、予算額より安価で実施することができたため不要額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
	誘客マネジメント(観覧席設置)体験ツアー実証実験 2回	目標	(観覧席等の整備)	(観客席の設置体験ツアーの実施)	()	()	
		実績	整備を実施した	観客席を設置した体験ツアーを実施した			
	目標	()	()	()	()		
		実績					
	達成状況説明	伝統行事の観光化事業支援として、体験ツアー実証実験や観覧席設置の実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	誘客マネジメント(糸満大綱引行事観覧席設置)体験ツアー実証実験(観覧者90名)	目標	()	(90人)	(2回 90人)	()	()
		実績		24人	2回 90人		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	平成24年度については、台風の影響があり、利用実績が少なくなったが、今年度は、目標の90人を達成できた。また県外からも観覧席の予約電話があった。行事の実行委員会にもおもてなしの気持ちができ、仮設トイレなど観覧について不自由な部分について前向きに検討して観光誘客に積極的になった。イルミネーションは無料シャトルバスの宣伝不足により利用客が少なかった。区間延長や繁忙期のシャトルバス実施等を行えば利用者の増加につながる。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	天候の影響により県外からのツアー参加のキャンセル等があった。	県内の観光ホテルと連携をとりながら滞在中の観光客へツアー参加を求め リピーター観光へつなげる。
今後の取り組み方針		
伝統行事の実施主体である糸満大綱引行事委員会とともに更なる改善策や検討を行い、ツアーや観覧席を有効活用できるよう取り組む。		



資金の 用途の流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○伝統行事主体である糸満大綱引行事委員会と市観光協会へ委託を行っている。 ○費目・用途について支出等に関する書類により確認し適正であった。 受益者(参加者)にツアー参加料や観覧席料を負担している。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

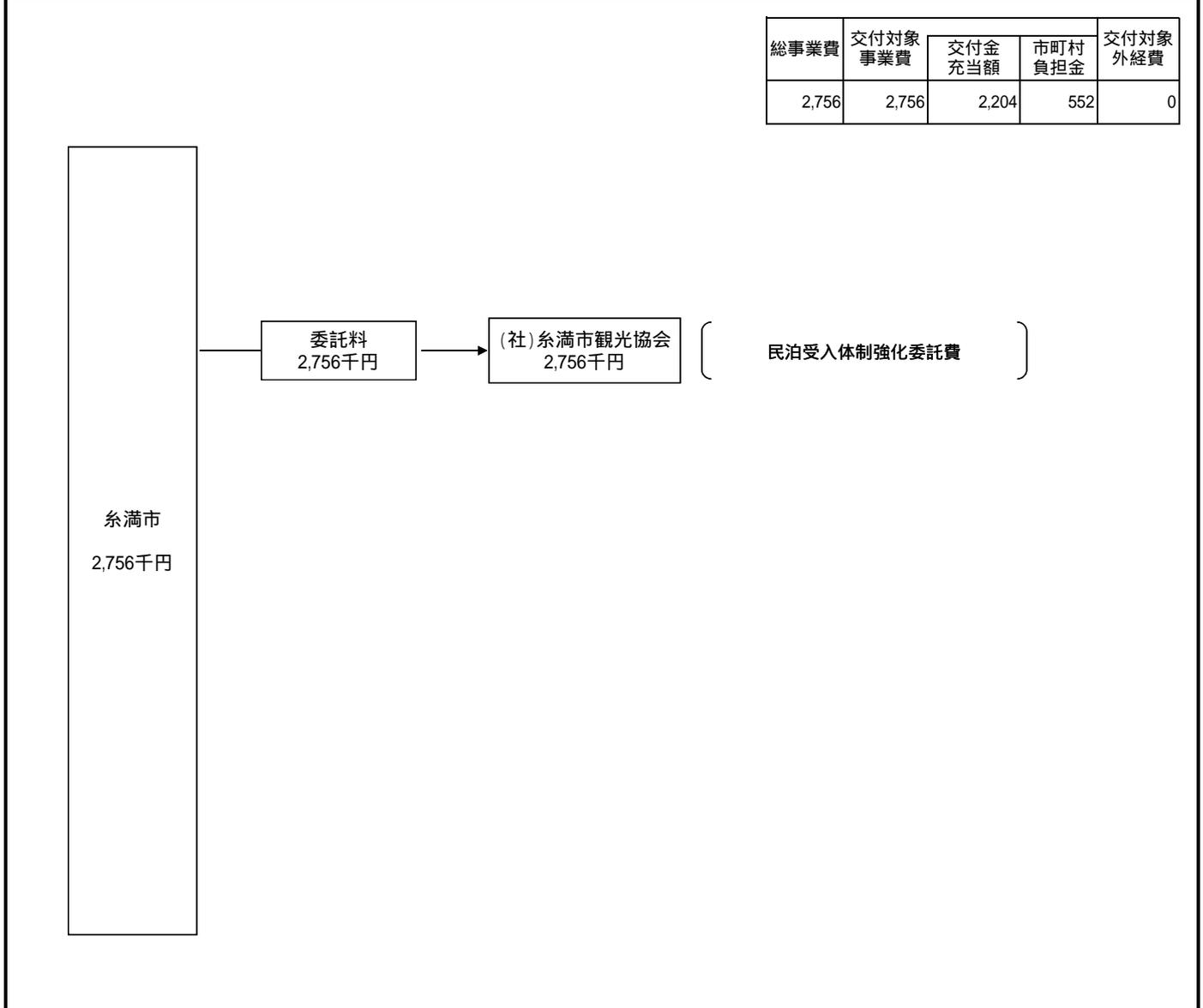
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-		民泊受入体制強化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-イ	
	担当部課名	経済観光部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所
事業内容	市を訪れる観光客のさらなる増加を目指し、民泊事業の市民への周知と受け入れ世帯の開拓による教育旅行の拡充を図るため、安心・安全な受け入れに向けた研修や知識向上などの民泊受入体制の整備に取り組んだ。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	3,000	2,766			
		(b)予算現額	3,000	2,766			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	3,000	2,766			
	B.執行済額		2,850	2,756			
	うち交付金充当額		2,280	2,204			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		95.0%	99.6%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	民泊受入民家向け講習会の開催数6回	目標	(講習会の開催)	(6回)	()	()	
		実績	講演会の開催	13回			
	新規受入世帯数の増加	目標	(広報活動)	(世帯数の増加)	()	()	
		実績	広報活動	世帯数の増加 新規15件			
達成状況説明	今年度は講習会を13回開催し、昨年度から実施している新たな受入世帯に向けた広報活動により、新規民泊受入世帯15件獲得した。現在の受入世帯数は合計60件となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	民泊受入民家向け講習会受講者数(延)150人	目標	(0人)	(150人)	(150人)	()	()
		実績		185人	203人		
	〔参考指標〕	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	各種講習会を開催し、延べ203人が受講した。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<ul style="list-style-type: none"> ・県の指導もあり、修学旅行向け民泊といえども簡易宿泊所営業許可の取得が必須となる。 ・受入希望世帯について、家庭の問題や簡易宿泊所営業許可取得等の条件により、思うように新規登録まで至らないことが多い。 ・南部広域連携の民泊受け入れ事業も始まっていることから、受入世帯数が不足している。世帯の開拓を急ぎたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡易宿泊営業許可申請については、市民にも受入の条件をよく説明し、申請取得を促す。 ・民泊事業の利点や楽しさを知ってもらう機会を増やし、団塊の世代や農村地域の世帯を中心に受入世帯拡大を図る。 ・現民泊受入世帯の声を聞き、講座内容を充実させる。

今後の取り組み方針

- ・簡易宿泊営業許可取得申請の方法等を簡潔に説明し、民泊推進員が取得の支援を行う。
- ・市広報誌における記事掲載によるさらなる民泊事業周知に加え、地域の会議などにおいて、事業の目的や楽しさを伝える個別の説明会を開催する。
- ・民泊受入世帯の要望を聞きながら講座内容を設定する。
- ・各世帯で民泊体験のレベルを平均化できるよう、家庭内で行う体験の充実を図る講座を盛り込む。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業者は、南部広域や観光関連事業所と連携し、事業目的を達成できる団体であることを理由に随意契約を行った。当団体への委託は妥当であったと考えている。 ・支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	5- 地域の祭りの観光資源化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(5)-ア			
	企画開発部 秘書広報課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度	文化資源を活用したまちづくり			
担当部課名			沖縄振興基本方針該当箇所		-1-(1)			
事業内容	地域の祭りの魅力を高め、観光客の誘客に結びつけるため、姉妹都市で開催される祭り和本市2大祭の一つである糸満大綱引との連動を図るとともに、姉妹都市祭りの参加者を市宣伝員(仮称)に任命し、本市観光の魅力等のPR活動を行った。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 ('交付金'+ '市町村負担' ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		2,156				
		(b)予算現額		2,156				
		(c)増減額(b-a)		0				
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)		2,156				
	B.執行済額			2,136				
	うち交付金充当額			1,708				
	次年度繰越額			0				
	執行率(%) (B/A)			99.1%				
予算の状況の説明		概ね計画どおり執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	宣伝員任命者数:10人	目標	()	(10人)	()	()		
		実績		25人				
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	本市の大綱引き(9月中旬開催)に、姉妹都市である宮崎県都農町から観光協会や商工会等の方々を招待し、本市の伝統行事や自然を体験してもらいながら、地元で「糸満市のPR」をしてもらうため、宣伝員(もりあげ隊)として位置づけた。本市らしさをPRするために、本市「海人のまち 糸満」を体現化する代表的なまつり「糸満ハーレー(旧暦5月4日開催には、西村(ニシムラ)中村(ナカムラ)新島(ミージマ)の各ムラを代表する色、紫、緑、赤の三色のハーレー衣装(ハーレーギン)があり、各ムラの色・衣装のセットで「糸満市のPR」を行った。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	宣伝員のPR活動	目標	()	()	(達成)	()	()	
		実績			達成した			
	[参考指標]		目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	10月にワインまつり、12月金山フェスタ、1月糸満の日へのイベントにてPRを行った。また都農町広報紙(1月号)に掲載された。平成25年7月31日にオープンした「道の駅つの」には、一日約3,000人の来場者があり、その一角に姉妹都市である「糸満市コーナー」が設置され、ハーレー衣装(ハーレーギン)で「糸満市のPR」を行った。3月末までに1,500,000円以上の売り上げがあったと確認している。						

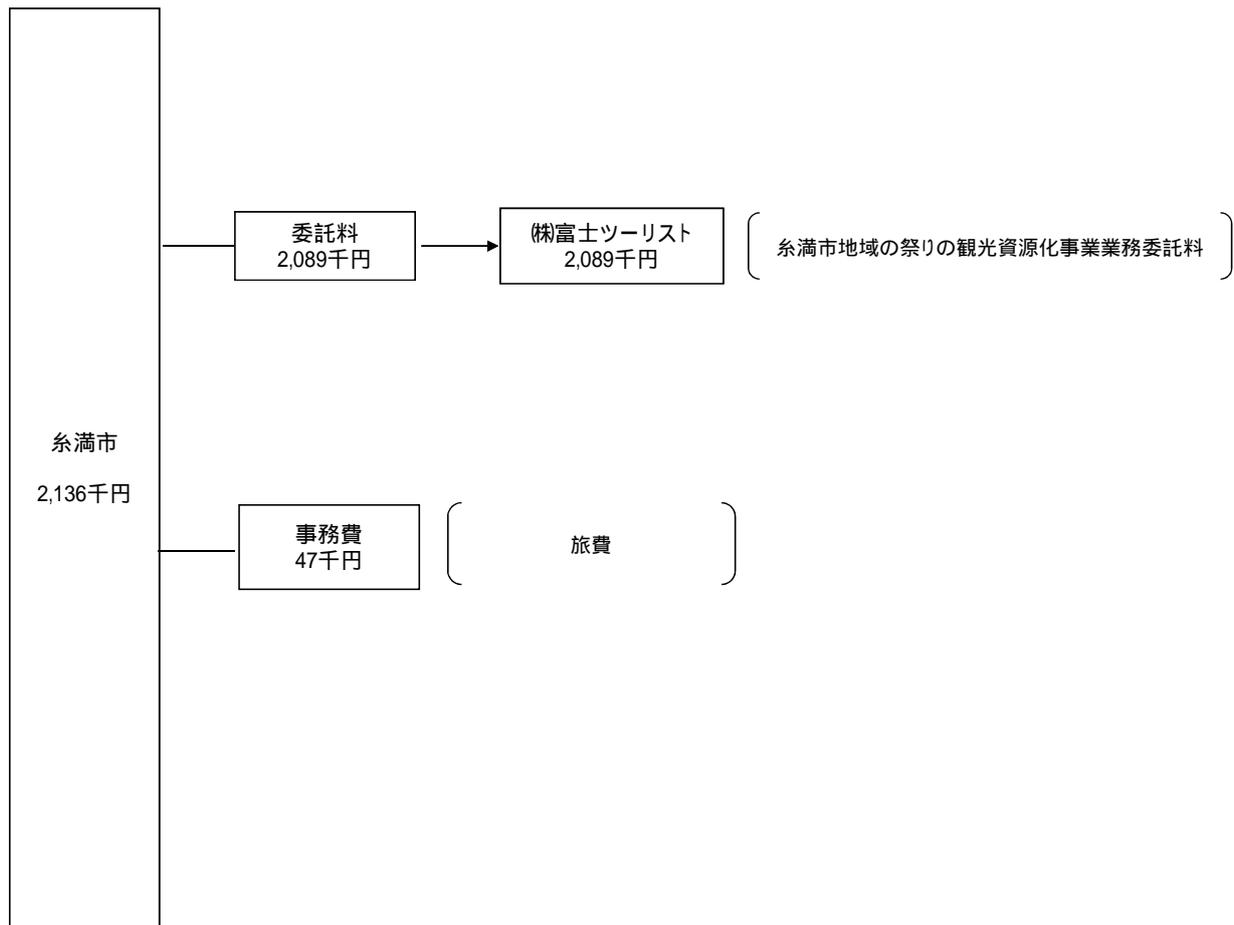
	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	宣伝員の組織的活動への展開 アイキャッチとしてハーレー衣装を着用した「糸満市紹介」から、本市の多様な伝統文化への理解に繋げるPR手法の模索	左記について以下対応 宣伝員の活動内容の整理 宮崎県都農町でのハーレー衣装の目新しさから、一歩進んで本市の多様な伝統文化への関心へとシフトさせる戦略の必要性

今後の取り組み方針

姉妹都市である宮崎県都農町は、平成26年3月に「東九州道」が開通し、都農ICもあり今後は「道の駅」と「東九州道IC」という、魅力的な町(集客地)である。今後はそのような場所に本市コーナー等を設置し、ハーレー衣装でPRをするという事は、都農町民へのPRだけではなく「九州」というマーケットを視野に入れたPRが必要となる。
 そのためには、本事業の上記検証を行い「有効手法の模索・検討」を行う。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
2,136	2,136	1,708	428	0



資金の流	評価	点検項目	評価に関する説明
金の流 点検 評価 目		支出先の選定方法は妥当か。	プロポーザル方式で業者を選定し随意契約しており、単なる市内観光見学に限らず、各字の伝統行事への参加や分科会を開き、相互の伝統行事の違いや後継者育成等についても検討する等、委託先として妥当だと考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	糸満市
------	-----

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	5- 道の駅いとまんアーケード上屋建築事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(8)-イ
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)

事業内容
観光客のさらなる誘客を目指し、市内で最も多くの観光客が来場する「道の駅いとまん」と周辺施設との連携強化を図り、雨天時や強い直射日光を避けて周辺施設の移動が可能となるよう、アーケード上屋の設置のため同施設管理組合を支援した。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	(a)当初予算額		4,000			
	(b)予算現額		4,000			
	(c)増減額(b-a)		0			
	(d)繰越額		-			
	A.計(b+d)		4,000			
	B.執行済額		4,000			
	うち交付金充当額		3,200			
	次年度繰越額		0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%			
	予算の状況の説明	予算計上どおりに概ね執行できた。				

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
		アーケード上屋建築設計事業補助金交付	目標 () (補助金の交付)	()	()
	実績		補助金の交付		
	目標	()	()	()	()
	実績				
達成状況説明	道の駅いとまん施設管理組合に対して、アーケード上屋建築設計業務に要する経費として補助金を交付した。				

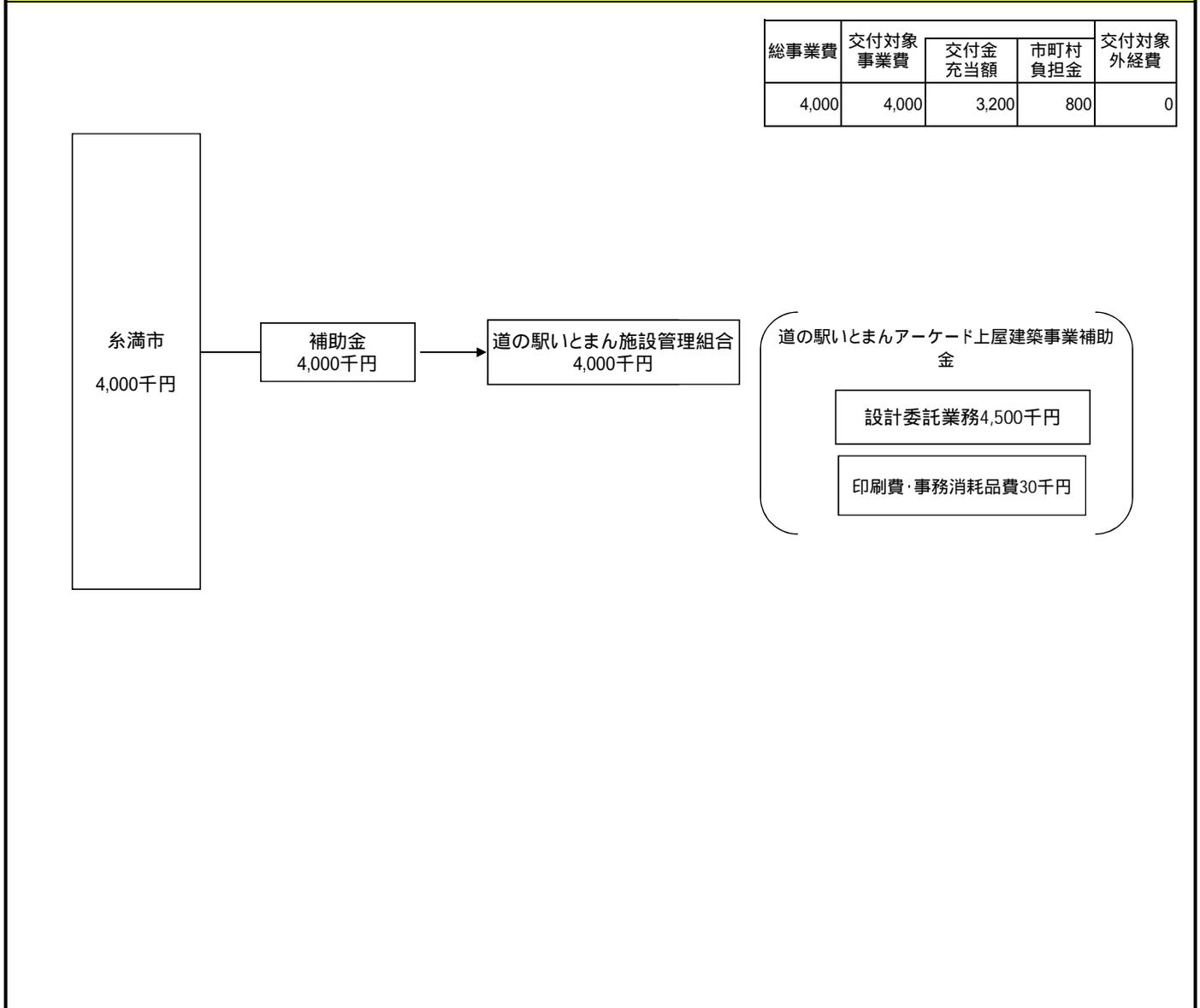
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		アーケード上屋建築設計事業の完了	目標 ()	()	(設計完了)	()
		実績		設計完了		
	[参考指標]	目標 ()	()	()	()	()
		実績				
進捗状況説明	アーケード上屋建築設計の完了					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	当該施設の建築工事は、本駅に立地する各商業施設の通常営業と並行して行われる計画となっている。 本駅に建築中である「情報館」の運用開始が、当初より遅れる状況となっている。	工事期間中における本駅利用者又は各商業施設のお客さんの安全性の確保、並びに営業に支障を及ぼさない工事方法を検討する必要がある。「情報館」と当該施設との連携した運用を図っていく必要がある。

今後の取り組み方針

アーケード上屋建築工事は、本駅商業施設の通常営業と並行して行われるため、駅利用者並びに商業施設のお客さんの通行の安全に配慮した工事実施、営業活動並びに地域におけるイベント開催にも支障を及ぼさない工事方法に関して、本駅の各商業者並びに施設管理組合との協議により工事を進めていく。「情報館」と当該施設を連結させることにより、本駅における周辺施設間の移動がより容易になると期待できるため、「情報館」供用機関とも相互に効果的な事業効果が図れるように協議を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	道の駅いとまんアーケード上屋建築事業補助金交付要綱並びに系満市補助金交付規則により適正に執行されている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	受益者負担は事業補助金交付要綱に基づく割合となっている。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	規模・費用・使途については、確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

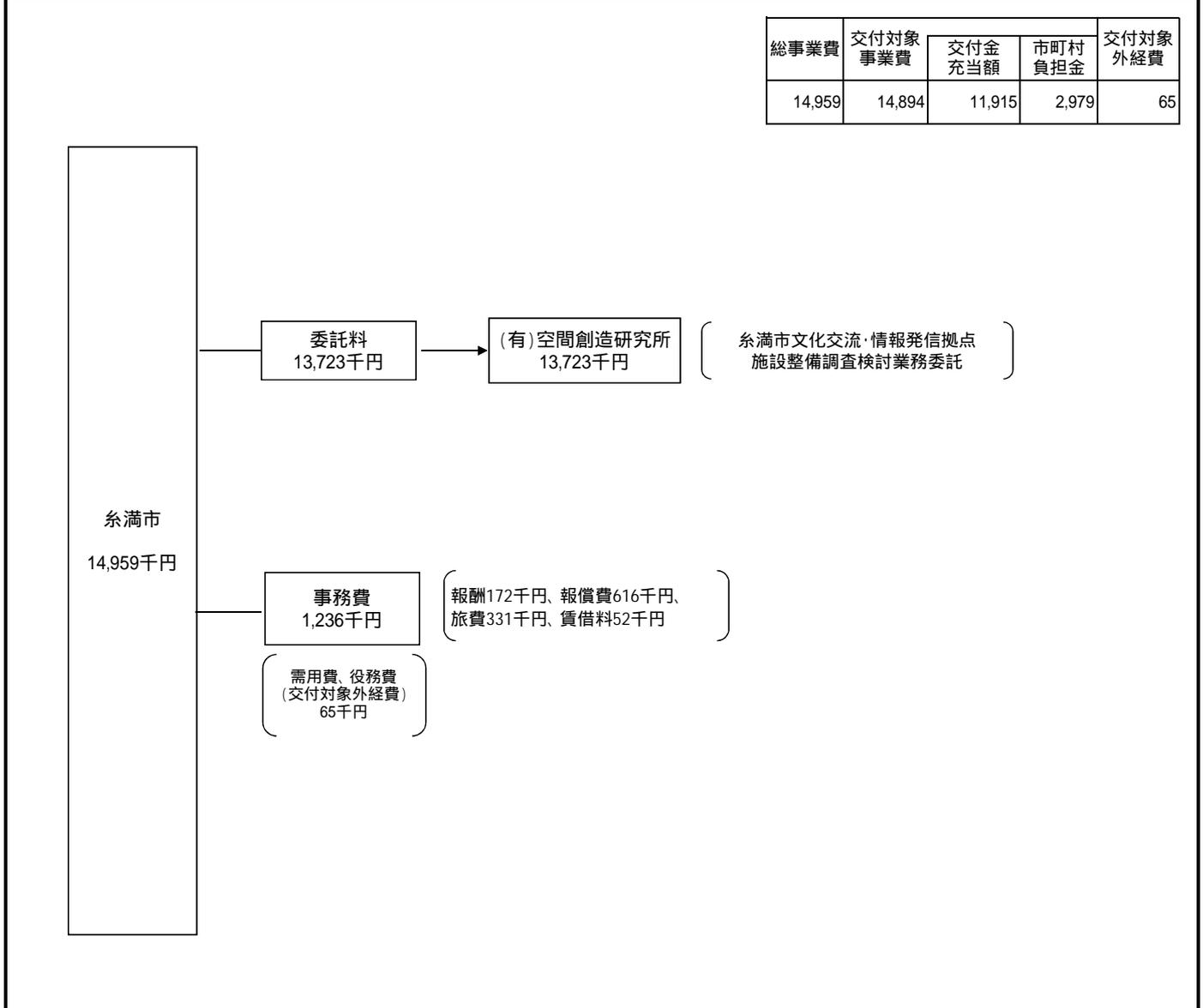
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5- 文化交流・情報発信拠点施設整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-1-(4)-ア		
	企画開発部 政策推進課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	
担当部課名		沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり -1-(1)					
事業内容							
観光客のさらなる誘客と訪れる観光客の市内回遊を高めるため、地域の歴史的魅力や文化芸術活動等を内外に発信する文化交流・情報発信拠点施設を設置するため基本計画を策定した。							
実施方法							
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		17,287			
		(b)予算現額		15,137			
		(c)増減額(b-a)		2,150			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		15,137			
	B.執行済額			14,959			
	うち交付金充当額			11,915			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			98.8%			
予算の状況の説明		2,150千円の増減額は、委託料において予算額より契約額が安価となったため、その差額分を減額し、さらに県外視察における旅費を早割活用等で、経費削減を行った分が不要額となった。その他、計画した事業内容は全て実施したため適正であったと考える。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	文化交流・情報発信拠点施設の基本計画の策定		目標	() (計画策定)	()	()	
	・施設の機能及び規模 ・施設配置、舞台、展示設備 ・建設設備、運営概算費 ・建設候補地 等		実績		策定した		
			目標	() ()	()	()	
		実績					
達成状況説明		本市において、観光客をはじめ市内外から訪れる方々を市内の各所・史跡等の観光周遊へつなげることを目的に、「糸満市文化交流・情報発信拠点施設整備基本計画」の策定を前提に、市民アンケート、各種団体アンケート・ヒアリング、先進事例調査を実施し、さらに施設の機能及び規模、建設設備、運営概算及び建設候補地等について有識者で構成する調査委員会等を設置し意見を具体的な内容について意見をとりまとめた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	文化交流・情報発信拠点施設基本計画の策定		目標	() ()	(計画策定)	()	()
			実績		策定した		
			目標	() ()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明		文化交流・情報発信拠点施設の整備検討を進めるにあたり、各種アンケートでの意見や有識者で構成する各種調査委員会において、施設整備の目的と使命、事業・運営計画等について議論・検討を重ね、別途設置された建設候補地検討委員会での報告と併せて、最終的に「糸満市文化交流・情報発信拠点施設整備基本計画書」を策定した。おおむね目標と通りの成果が得られた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 建設候補地については、県有地と国有地についてはいわゆる無願埋立も混在していることから、用地確保に向けた地権者との合意形成が重要である。 建設費について、震災復興に伴う資材費の高騰、東京オリンピック需要、消費税税率の引上げ等の要因により、建設費が高騰する可能性がある。 運営費について、類似する施設のデータを基に試算した結果、一定程度のランニングコストが見込まれるため、個別での管理運営計画を策定する必要がある。 地域発信エリアの展示において、市が保有する歴史資料などの現状把握、整理及びコンセプトづくりなど、個別での事業計画を策定する必要がある。 市民や観光客との交流の場となるなどまちづくりに貢献できる中核施設として、関係機関との事業手法を検討する必要がある。 	<p>現状における課題解決に向けて、より詳細な手法を検討するにあたり、以下の項目について、次年度以降検討する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> 用地取得に向けた調整 展示計画の検討 管理運営計画の検討 関連機関を含めた事業計画の検討 配置計画の検討 <p>上記の内容を検討するにあたり、専門的知見を有する外部識者等で構成する委員会を設置し、具体的な計画の策定を実施を目指す。</p>

今後の取り組み方針

本年度策定した文化交流・情報発信拠点施設整備基本計画は、施設整備における基本的な考え方を示すものであることから、平成26年度は、本計画に基づき上記の検証内容に留意しながら、配置計画、展示基本計画及び管理運営基本計画を策定し、用地取得・基本設計につなげていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託費の支出先の選定については、公募型プロポーザル方式により選定されていることから妥当と考える。 予算規模・費目・用途等は、事業の活動・成果目標の達成状況、及び確定検査等を考慮すると適正だと考える。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-	農園観光拠点事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-キ	
	担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～26年度	沖縄振興基本方針該当箇所	フロンティア型農林水産業の振興 -1-(1)	
事業内容	農業の振興と地域活性化を目指すために作られたテーマパークである糸満市観光農園は、県内有数の観光スポットの動線上にあるとともに、県内に数少ない地域の「農業」とリンクした観光施設であり、同施設のさらなる活性化と同施設を活用した地域の観光振興を図る目的で、施設の潜在力・可能性をフィジビリティ・スタディ(実行可能性調査)を実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		16,090			
		(b)予算現額		16,090			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		16,090			
	B.執行済額			14,409			
	うち交付金充当額			11,527			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			89.6%			
予算の状況の説明		入札により委託料が安価で済んだため。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	農園型観光の調査活動の実施	目標	()	(FS調査)	()	()	
		実績		FS調査			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	農園型観光施設のファジビリティ・スタディ調査を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	基本方針等の作成	目標	()	()	(基本方針作成)	()	()
		実績			基本方針作成		
	〔参考指標〕	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	糸満市観光農園施設のコンセプトの不明瞭な点を、当該調査の結果、具体的な指標を示すことができた。					

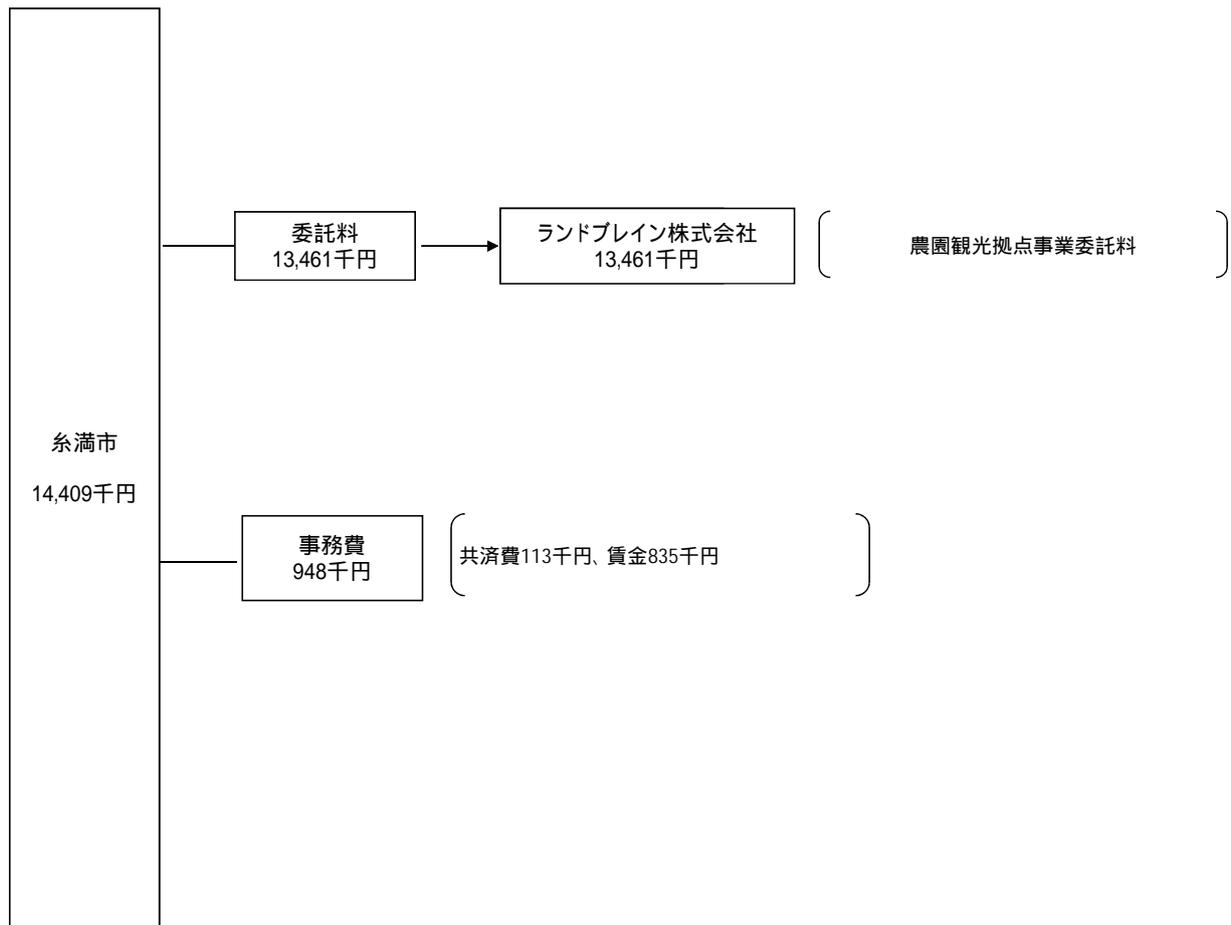
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	施策(コンテンツ)毎に優先順位(短期、中期、長期)を整理したが、多額な費用が発生することから、組織内の合意形成や活用可能な補助事業の情報収集など推進のあり方について議論を深掘りする必要がある。	具体的な取組を推進するには、費用と時間がかかることから行政主導で事業展開をするのではなく、農業や観光に精通した企業の事業参画により施設全体の付加価値向上の取組を具現化する必要がある。

今後の取り組み方針

施設等の整備について、市の予算を活用するのではなく民間企業の資本を活用して事業を推進することを目的に、施設の有効活用公募事業をスタートさせる。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
14,409	14,409	11,527	2,882	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	公募型プロポーザル方式により受託者を選定していることから支出先としては適正である。 また、当該事業の仕様書通りに調査及び方向性を示していることから適正に遂行したものとする。
			予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-		糸満漁港整備事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア	
	担当部課名	経済観光部 海人課		事業実施(予定)年度		平成25～28年度	観光リゾート産業の振興
				沖縄振興基本方針該当箇所	-1-(1)		
事業内容		海水交流の促進による水質の改善及び施設の利便性向上のため、糸満漁港ふれあい地区内ビーチを浚渫するとともに、養浜・通路・波除堤等を整備する。また、観光漁業の推進を図るための調査及び施設整備を行った。					
実施方法		直接実施 委託 補助 負担 その他 ()					
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		36,374			
		(b)予算現額		18,596			
		(c)増減額(b-a)		17,778			
		(d)繰越額		-			
	A.計(b+d)			18,596			
	B.執行済額			18,595			
	うち交付金充当額			14,876			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			100.0%			
予算の状況の説明		当初、浚渫土砂を用いて、観光漁業用離発着場等の整備を計画していたが、既存の浮桟橋が設置されていること、漁港施設用地があることから観光漁業用地としての埋め立て申請が困難となったため、埋め立てに係る磁気探査、測量、水域環境調査、埋め立て申請業務費の不用が生じ、減額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	糸満漁港ふれあい地区の浚渫及び養浜等に係る現況調査及び実施設計	目標	()	(調査及び基本・実施設計の実)	()	()	
		実績		調査及び基本・実施設計の実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	調査、基本設計、実施設計を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	糸満漁港ふれあい地区の浚渫及び養浜等に係る現況調査及び実施設計	目標	()	()	(調査及び基本・実施設計の実施)	()	()
		実績			調査及び基本・実施設計の実施		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	調査、基本設計、実施設計を行う事が出来た。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	調査、基本設計、実施設計を行う事ができた。今後はハード事業に取り組んで行く。	平成28年度までの事業であり、年度ごと計画的に対応していく。
今後の取り組み方針		
平成26年度に浚渫工事、平成27年度に突堤工事、浮棧橋工事、平成28年度養浜工事に取り組んで行きたい。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	18,595	18,595	14,876	3,719	0
<pre> graph LR A[糸満市 18,595千円] -- 委託料 18,595千円 --> B["(株)ホープ設計 18,595千円"] B --- C["美々ビーチ整備工事調査測量設計委託業務"] </pre>					

資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は仕様書に基づき指名競争入札にて選定しており、選定方法、予算規模は妥当だったと考えている。 費目・用途については、今後実施する工事のための調査・測量・設計業務であり、必要なものであり適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	6- 糸満市水産業振興センター設置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-ア		
	担当部課名	経済観光部 海人課		事業実施(予定)年度	平成24～32年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 - 1 - (6)
事業内容	「漁業のまち」、「海人のまち」として市内外に知られ、市の発展に大きく貢献してきた水産業の振興に向けて、新たな水産技術の習得と応用による養殖・水産加工業等の新たな水産業の確立のための施設を整備した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	168,541	14,748			
		(b)予算現額	168,541	14,748			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	168,541	14,748			
	B.執行済額		116,022	13,144			
	うち交付金充当額		92,818	10,515			
	次年度繰越額		-	0			
	執行率(%) (B/A)		68.8%	89.1%			
予算の状況の説明		事業実施計画策定業務、海水取水井戸調査業務、用地測量委託業務の予定業務は全て達成できた。又、委託料に関して入札を行った結果、安価となり不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	基幹インフラ・建築設計の実施 事業計画の実施	目標	()	(実施計画業務、海水井戸調査、測量委託業務)	()	()	
		実績		実施計画業務、海水井戸調査、測量委託業務			
	H24:水産振興センター用地購入 11,039㎡ H24繰越:基本設計、実施設計	目標	(用地取得及び基本設計)	()	()	()	
実績		用地取得及び基本設計の策定					
達成状況説明	実施計画、海水井戸調査、用地測量を行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	基幹インフラ・建築設計の実施 事業計画の実施	目標	(-)	()	(実施計画業務、海水井戸調査、測量委託業務)	()	()
		実績			実施計画業務、海水井戸調査、測量委託業務		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
	H24:水産振興センター用地購入 H24繰越:基本設計、実施設計	目標	()	()	()	()	()
実績							
進捗状況説明	実施計画、海水井戸調査、用地測量を行う事ができた。						

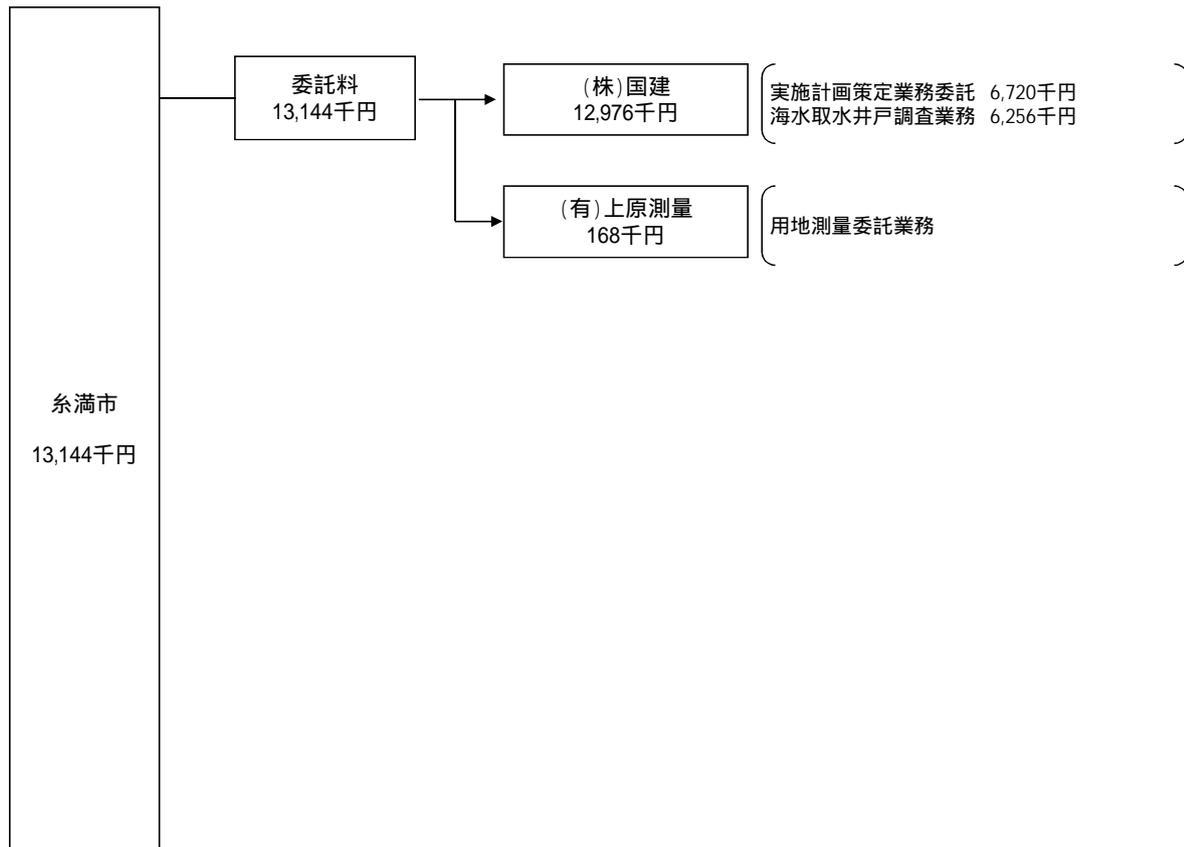
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	基本設計、実施設計、実施計画、海水井戸調査、用地測量を行う事ができた。今後はハード事業に取り組んで行く。	平成32年度までの長期事業であり、社会情勢の変動を見据え、柔軟に対応していく。

今後の取り組み方針

今後は事業実施計画、実施設計に基づき第1期(平成24年度～平成27年度)第2期(平成28年度～平成30年度)第3期(平成31年度～平成32年度)に向け慎重に取り組んでいきたい。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

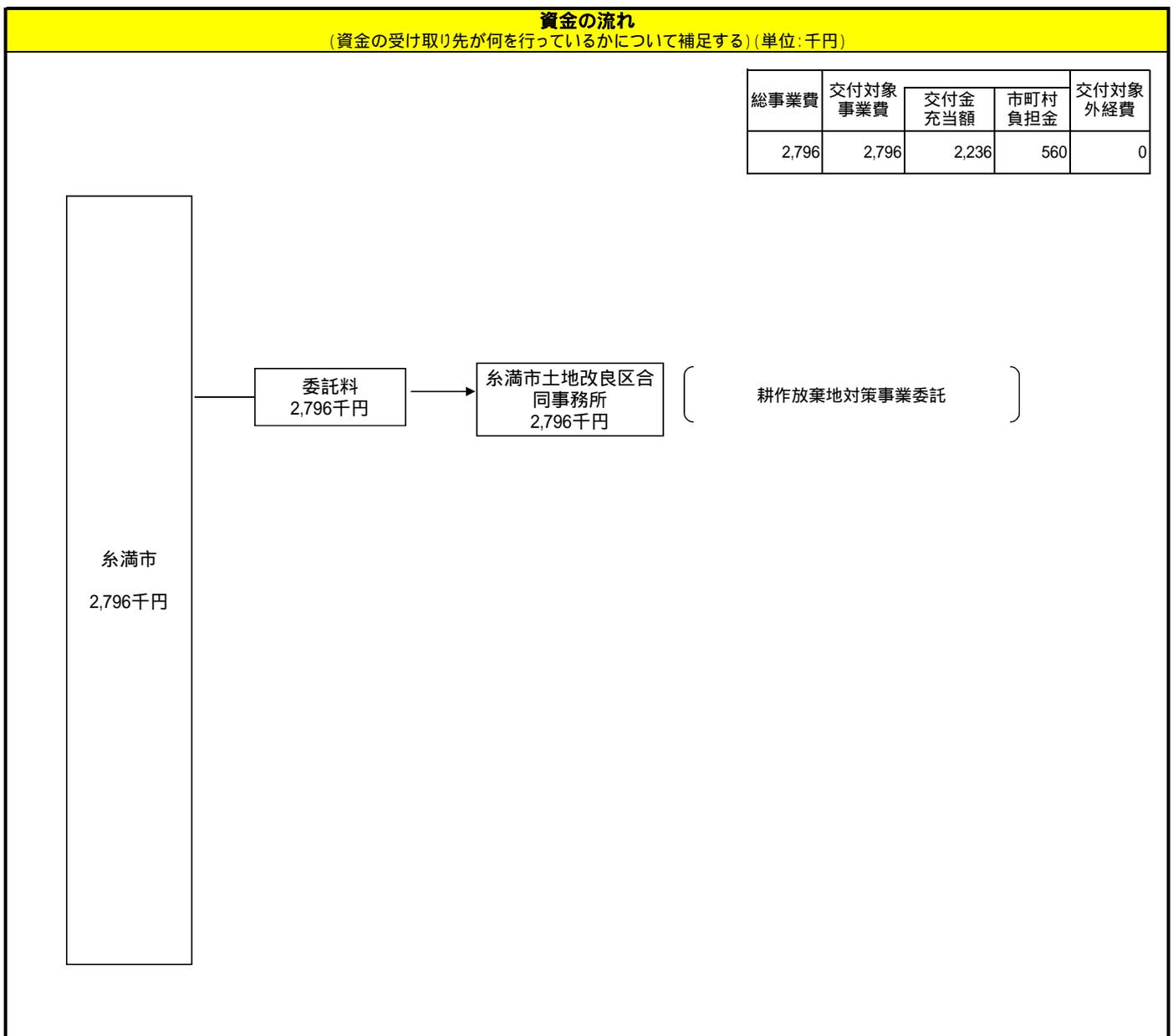
総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
13,144	13,144	10,515	2,629	0



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は仕様書に基づき指名競争入札にて選定しており、選定方法、予算規模は妥当だったと考えている。 費目・使途については、今後実施する工事のための計画策定・調査・測量業務であり、必要なものであり適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	耕作放棄地対策事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-工	
担当部課名	経済観光部 農村整備課	事業実施(予定)年度	平成24～25年度		沖縄振興基本方針該当箇所	農林漁業の担い手の育成・確保及び経営安定対策等の強化 - 1 - (6)	
事業内容	耕作放棄地の実情を把握した後の流動化を促進し、規模拡大希望農家及び新規就農者への農地斡旋を推進した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	2,074	2,796			
		(b)予算現額	2,762	2,796			
		(c)増減額(b-a)	688	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		2,762	2,796			
	B.執行済額		2,762	2,796			
	うち交付金充当額		1,659	2,236			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	耕作放棄地の調査活動の実施 権利者名簿作成	目標	(調査の実施)	(調査の実施 名簿作成)	()	()	
		実績	調査を実施	調査の実施 名簿作成			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	耕作放棄地の調査を実施し、権利者名簿を作成した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (28年度)
	耕作放棄地の実態調査 350,000㎡ 権利者名簿作成 300筆	目標	(-)	(350,000㎡)	(350,000㎡ 300筆)	()	(163,000㎡)
		実績		350,659㎡	364,405㎡ 309筆		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	今回の事業により24年度から25年度において、継続的に活動することにより、農家への斡旋や営農への理解が得られ、放棄地解消の一定の成果が得られた。耕作放棄地を継続的に解消しているなか、新たな放棄地も増加している傾向にある。					

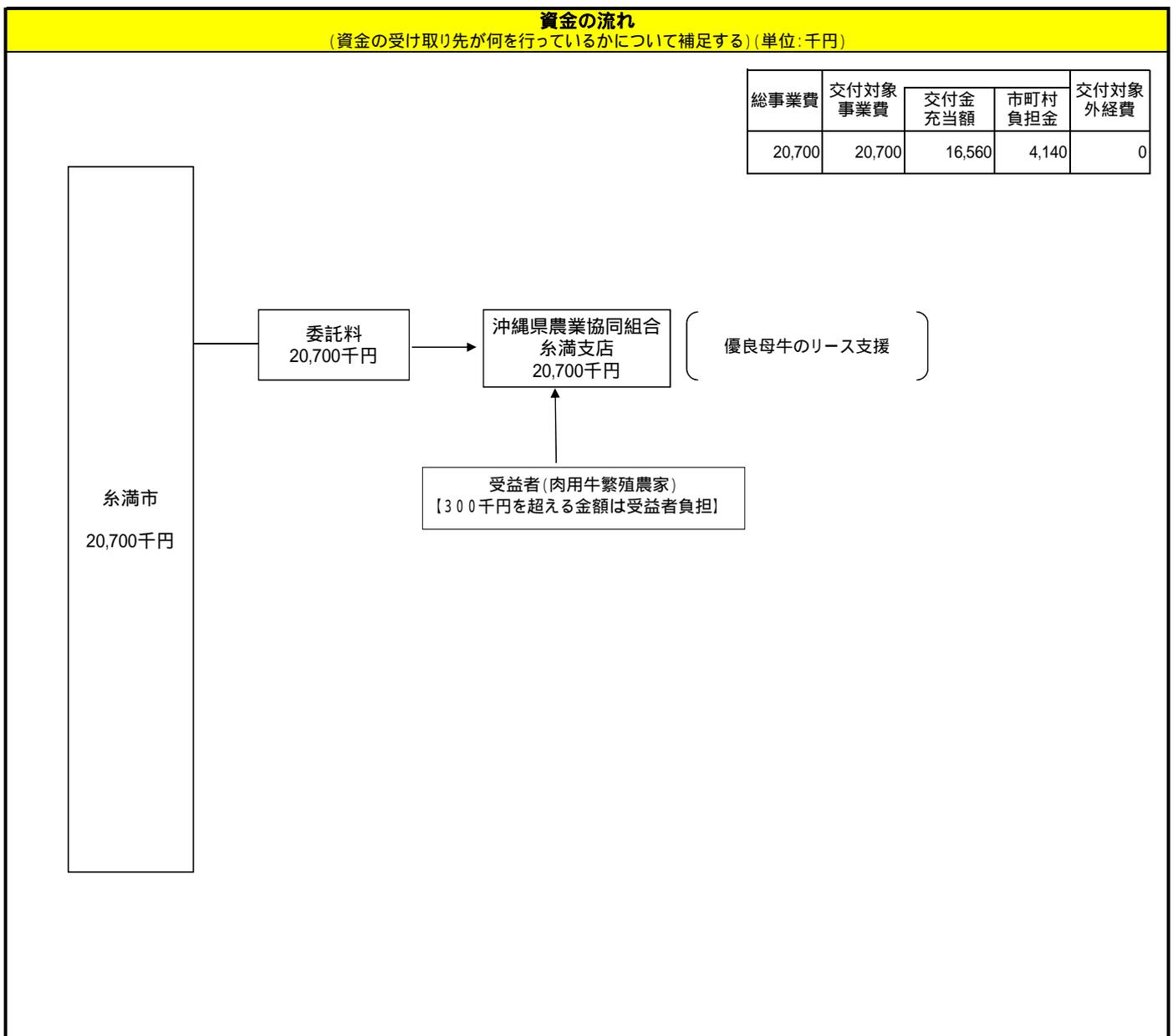
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	耕作放棄地状態で固定化している農地が多く、農家の高齢化や後継者の準備不足等による営農が遅れている。	農家との連携を図りながら耕作放棄地の再発防止及び巡回監視に取り組み農家の理解と協力を求めている。
今後の取り組み方針		
耕作放棄地解消に向けて、JA・合同事務所・農政課等関係機関と連携しながら解消に取り組んでいく。		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	糸満和牛群改良整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ	
	担当部課名	経済観光部 農政課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立 -1-(6)	
事業内容	農家の経営の安定化に向けて、仔牛のブランド化を進めるため、優良母牛導入に向けて支援を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	12,000	12,000			
		(b)予算現額	12,000	20,700			
		(c)増減額(b-a)	0	8,700			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		12,000	20,700			
	B.執行済額		12,000	20,700			
	うち交付金充当額		9,600	16,560			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%			
予算の状況の説明		当初の予定では、40頭のリースを予定していたが、多くの農家から繁殖性の悪い高齢母牛を早急に更新し、分娩間隔の短縮及び生産振興を図りたいと要望があるため、増額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	優良母牛のリース:40頭	目標	(リースの実施)	(リースの実施40頭)	()	()	
		実績	リースを実施	リースを実施69頭			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	優良母牛を積極的に導入し、質の高い子牛生産の推進を図るため、母牛の調達及びリースを実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(29年度)
	優良母牛導入率:33% (導入予定数240頭 H24～H25:80頭導入)	目標	(0頭)	(40頭)	(33%)	()	(240頭100%)
		実績		40頭	45.4%		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	昨年度は頭数での成果把握を行ったが、今年度は平成29年度までの導入予定数に対する割合(33%)を目標とした。昨年度の実績も含め、今年度までに45.4%(109頭)の導入率となっている。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	(ア)事業実施要領にある5年間に1頭以上の雌子牛を自家保留することができるかが課題である。	体高や血統のみでなく、母牛としての質を見極めて導入を行う
今後の取り組み方針		
導入した優良素牛の飼養管理について、JAと協力し、指導助言を行っていく。		



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先のJAは、畜産部会の事務局として農家の実情を把握しており、適切な指導が可能である。 導入牛の内、最低価格が466,000円で受益者負担額が価格の2割以上であり妥当と考える
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	7-	小規模農家支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ウ	
	担当部課名	経済観光部 農政課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	農林水産物の安全・安心の確立 -1-(6)	
事業内容	小規模農家の作業の効率化と農家経営の安定化に向けて、減農薬、減肥料及び鳥獣対策を推進するため、防風ネット、簡易パイプハウスの施設整備支援を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	70,500	33,150			
		(b)予算現額	141,000	165,000			
		(c)増減額(b-a)	70,500	131,850			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		141,000	165,000			
	B.執行済額		140,663	134,811			
	うち交付金充当額		112,530	107,849			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.8%	81.7%			
予算の状況の説明		当初は、昨年度に事業要望した農家のみで平成25年度も事業実施する予定であったが、事業導入調査や説明会を再度実施したところ、多くの農家から要望あり事業費を増額した。利用権設定等の関係で事業導入できない農家が出たため、執行残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	防風ネット設置及び簡易パイプハウス設置	目標	(ネット等の設置)	(ネット等の設置)	()	()	
		実績	ネット等を設置	ネット等を設置			
		目標	()	()	()	()	
	実績						
達成状況説明	本市は、小規模農家が多く、圃場が点在している。さらに、使用農薬が異なる作物畑(野菜・キク・さとうきび)が隣接するなど、農薬が飛散しやすい環境となっている。当初の計画どおり防風ネット、パイプハウスの整備を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	防風ネット設置数 10箇所 簡易パイプハウス設置数 40基	目標	(0箇所 0基)	(36箇所 35基)	(10箇所 33基)	()	()
		実績		36箇所 35基	29箇所 29基		
	【参考指標】		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	当初の計画よりも多くの農家から設置要望があり、防風ネットは19箇所の増、パイプハウスは4基の減となった。これら防風ネット等の設置により、農薬の飛散防止や強風による作物被害が防げるようになった。当初、事業を予定していたが、利用権設定等の関係で事業導入できなかった農家が出た為、執行残が出た。						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>農業共済の加入を確認し、災害による被害の費用軽減を図る。</p> <p>防風ネット事業について、見積りにより単価設定(2,500円/m²)を行ったが、入札により単価の範囲内で事業執行となり受益者負担が無かった。</p>	<p>対象品目について、農業協同組合や生産農家との意見交換による事業遂行を図る。</p> <p>受益者も負担して事業執行となるよう単価改正を要する。</p>

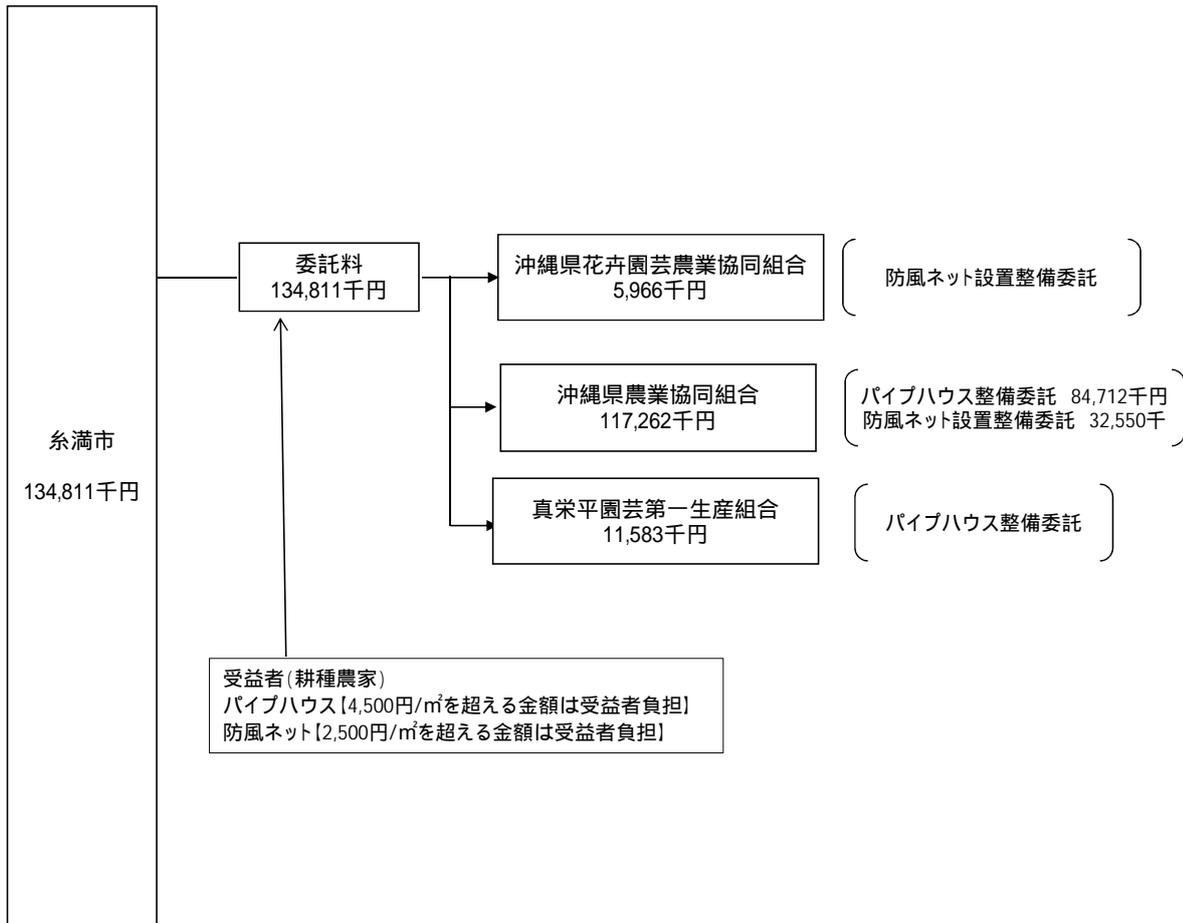
今後の取り組み方針

更なる施設整備も行いながら農作物の生産量の増加等、推移を確認する。

事業実績を踏まえ、単価見直しを行い、事業実施要領の改正を行う。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

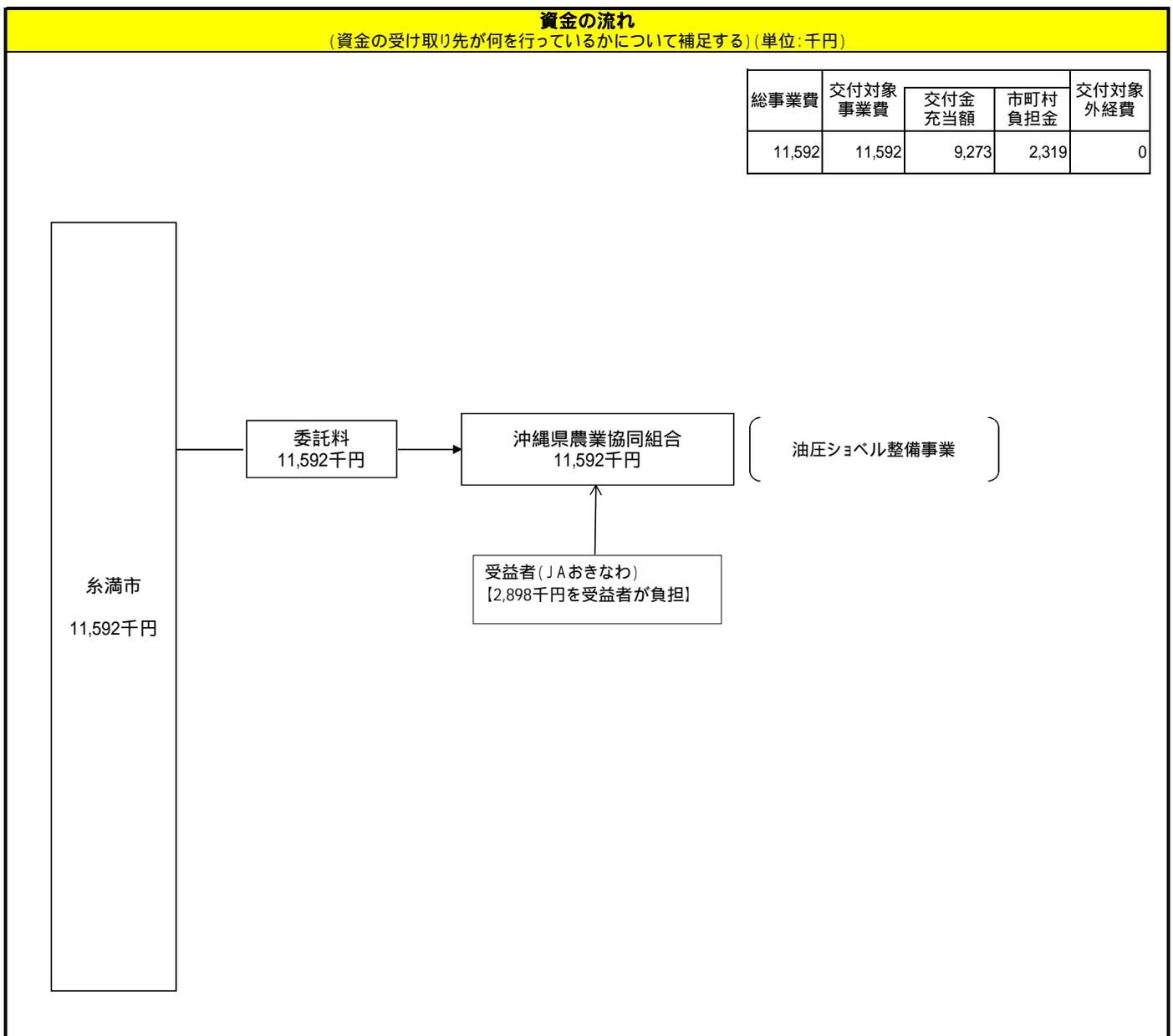
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
134,811	134,811	107,849	26,962	0



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	<p>農業協同組合員以外の小規模農家への事業導入も行われたので、ニーズに応じた事業遂行ができた。</p> <p>パイプハウスは受益者の負担割合が約2割であり妥当と考える。防風ネットの受益者負担の範囲内の価格で事業導入となった。次年度は事業費の2割程度を受益者が負担するよう単価改正を要する。</p>
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	7-	農業機械リース支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-ア		
	担当部課名	経済観光部 農政課	事業実施(予定)年度	平成25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	おきなわブランドの確立と生産供給体制の整備 - 1 - (6)		
事業内容	遊休地等の解消でさとうきびを中心とした農作物の作付面積及び単収の向上に向けて、深耕作業(土づくり)に取り組むため、油圧ショベルを導入した。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		16,600				
		(b)予算現額		11,592				
		(c)増減額(b-a)		5,008				
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)		11,592				
	B.執行済額			11,592				
	うち交付金充当額			9,273				
	次年度繰越額			0				
	執行率(%) (B/A)			100.0%				
予算の状況の説明		農業機械の落札価格が見積価格を大きく下回ったため減額補正を行った。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	油圧ショベルのリース:1台	目標	()	(リースの実施)	()	()		
		実績		リースを実施				
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	遊休地等の解消で農作物の作付面積及び反収の向上に向けて、深耕作業(土づくり)に取り組むため、油圧ショベルのリースを実施した							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	H25深耕面積:50,820㎡(約15,373坪) 1,155㎡/日×2.2回/週×20週=50,820㎡	目標	()	()	(50,820㎡)	()	()	
		実績			24,189㎡			
	【参考指標】		目標	()	()	()	()	
			実績					
	進捗状況説明	機種選定の際に希望機種の新型が出るとのことでそれを待つのに時間を要し事業実施が遅れ、利用期間が3月のみとなり、実績が目標値の48%と大きく下回った。						

推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	機種選定の際に希望機種の新型が出るとの情報があり、効率的な作業を行うことができる新型機種を導入するため、時間を要し事業実施が遅れた。	機種の導入は済んだので、目標達成に向けて事業を推進する。 導入対象機械拡大の検討
	今後の取り組み方針	
事業導入による深耕面積及び作付け面積状況等、推移を確認する。		



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託先のJAは、サトウキビ農家を精通しており、作業委託も請け負っており、事業実施要領の事業実施主体となっている。 さとうきび生産組合の要望もあり、用途等、目的に即した事業遂行ができた 受益者の負担割合が2割であり妥当と考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8- 姉妹都市等物産交流事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(7)-イ		
	担当部課名	経済観光部 商工観光課		事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化 -1-(7)
事業内容	市内工業団地内で製造された商品等の県外の販路が脆弱なため、宮崎県都農町(姉妹都市)及び北海道網走市(友好都市)において販路拡大を目的とした物産展を開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	16,000	16,000			
		(b)予算現額	16,000	16,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	16,000	16,000			
	B.執行済額		13,000	16,000			
	うち交付金充当額		10,400	12,800			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		81.3%	100.0%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	物産展の開催:6回	目標	(5か所)	(6回)	()	()	
		実績	5か所	7回			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	(1)糸満市の物産観光展【宮崎県都農町道の駅つもの、北海道網走市七福神祭り、那覇市琉球新報本社、沖縄産業祭りありんくりん市、糸満ファーマーズ提携先の神奈川県秦野市 はだのじばさんず 山口県下松市 菜さい来んさい 福岡県 にじの耳納の里】 ・商談会の開催【東京(観光商談会)、福岡(観光商談会) 神奈川 山口県 福岡県(、 、 は物産展と同時開催)】 (2)販路拡大を目的とした研修会の開催(糸満市サザンビーチホテルにて実施・参加人数62名) (3)糸満市観光PR媒体の作成を行った。(5分程度の糸満市プロモーションムービーを作成した)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	物産交流会参加事業者数(延) 60事業者	目標	()	(18事業者)	(60事業者)	()	()
		実績		49事業者	41事業者		
	物産交流展来場者数(延) 30,000人	目標	()	(300,000)	(30,000人)	()	()
実績			313,000	209,000人			
進捗状況説明	・物産交流会は7回開催したが、物産交流会参加事業者が目標より少なくなっている。事業所へ参加募集の案内を強化して次年度は目標を達成できるように取り組んでいく。しかしながら、物産交流展来場者数は、目標を大きく上回り、地場産品をより広く、多くの方へ紹介できた。						

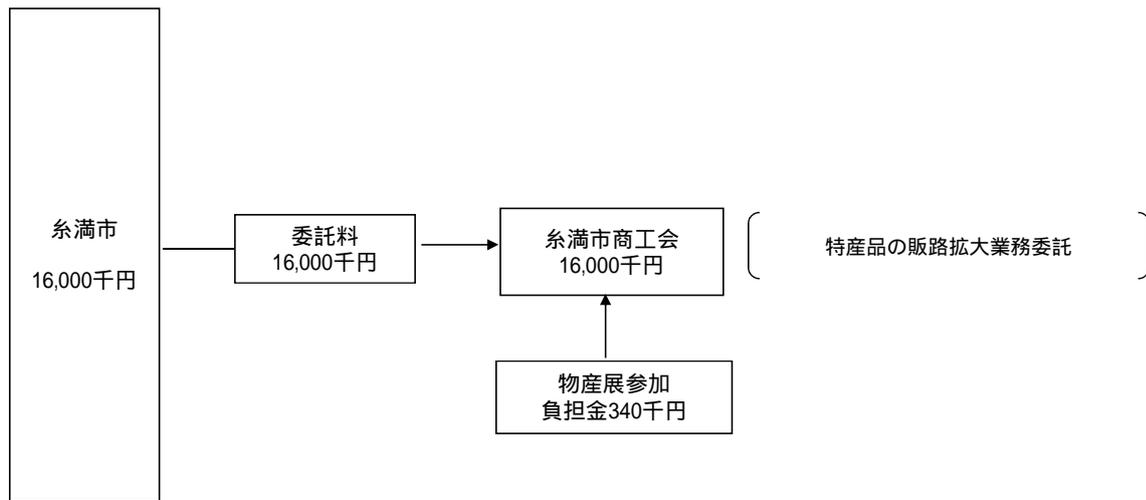
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 糸満市の物産を県内外のバイヤーや消費者に対して、効果的にプロモーションを行えるようにし、マッチング向上につなげていけるようにしたい。 参加事業者が予定より少なかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 商談会を開催するにあたって、バイヤー等に効果的にプロモーションを行うため、商談会の前には講習会の開催等をおこなっていききたい。 糸満市の地域ブランドを確立して、市内外に対してプロモーションを行っていききたい。 糸満市商工会等を通じて参加募集の案内を強化して次年度は目標を達成できるように取り組んでいく。

今後の取り組み方針

- ・沖縄県糸満市の物産観光展の開催
- ・糸満市地場産品の販路拡大を目的とした研修会の開催
- ・商談会の開催や参加
- ・糸満市の地域資源を活用した糸満ブランドの確立
- ・糸満市商工会等を通じて参加事業所の増に向けて取り組んでいく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付先		交付対象外経費
		交付金充当額	市町村負担金	
16,000	16,000	12,800	3,200	0



資金の用途の流れ、費目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・糸満市商工会は糸満市小規模事業者の会員ネットワークがあり、また糸満市の商業の現状を把握していることもあり、効果的に事業を遂行でき、妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・受益者負担に関しては物産展の出店料金の1/3負担、県内外の物産展では送料を全額負担をしており、適切である。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・規模・費用・用途については、確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

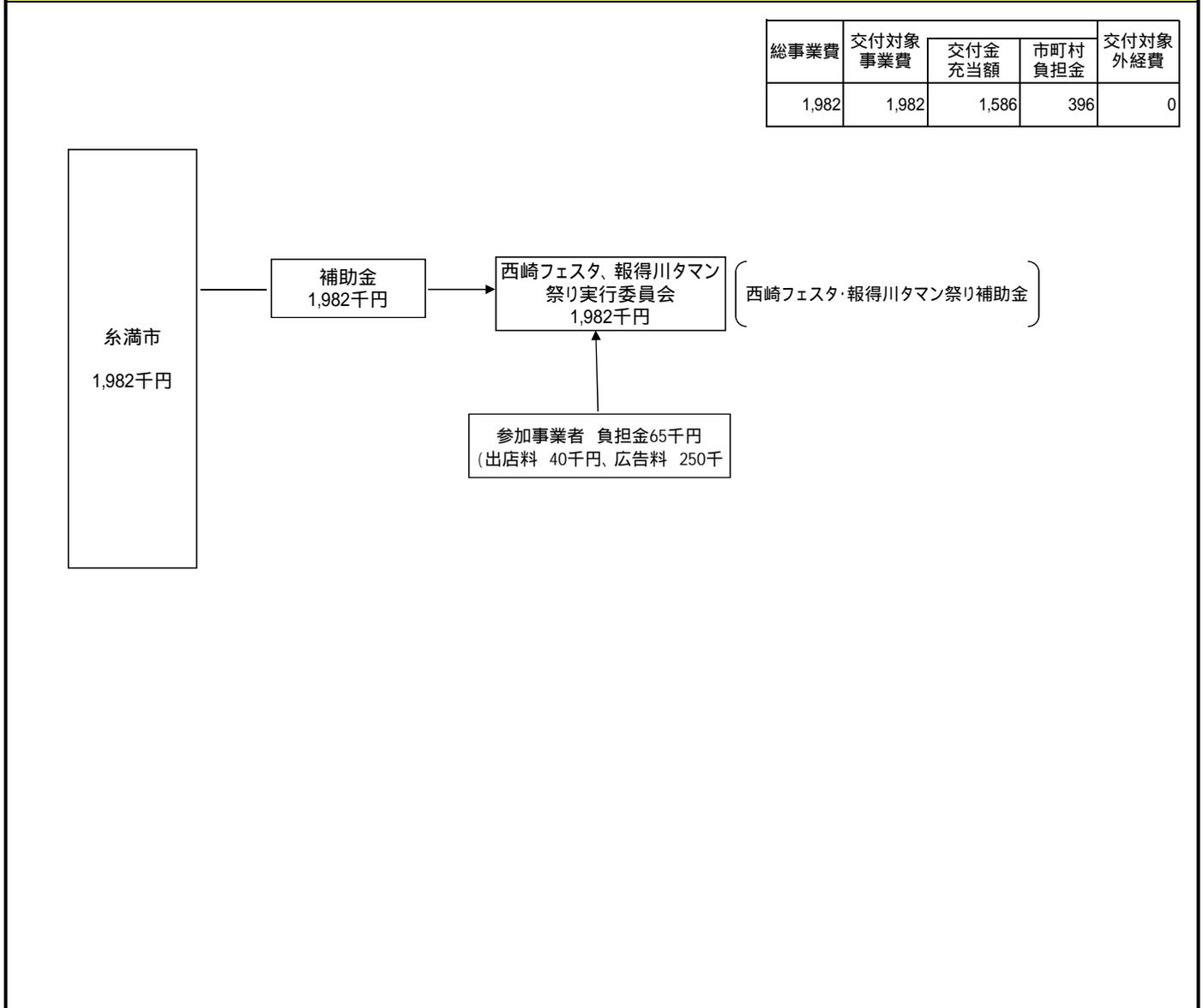
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	報得川タマン祭・西崎フェスタ			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(9)-イ	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	県産品の販路拡大と地域ブランドの形成 -1-(7)	
事業内容	市内(西崎)の商業地域と住民を結びつけるとともに、市内農水産加工物等のPR及び販路拡大を図るため、商業地域において、報得川タマン祭り及び西崎フェスタを開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	2,000	2,000			
		(b)予算現額	2,000	2,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	2,000	2,000			
	B.執行済額		1,694	1,982			
	うち交付金充当額		1,355	1,586			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		84.7%	99.1%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	西崎フェスタ・報得川タマン祭りの開催	目標	(西崎フェスタ等の開催)	(西崎フェスタ等の開催)	()	()	
		実績	西崎フェスタ等の開催	西崎フェスタ等の開催			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	西崎フェスタ・報得川他マン祭りを開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	西崎フェスタ・報得川タマン祭り来場者数:6,000人	目標	()	(6,000人)	(6,000)	()	()
		実績		5,000人	6,000		
	【参考指標】	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	・予定した企画内容でフェスタを開催し、予定通りの6,000人の来場者となった。 ・第4次糸満市総合計画の中でも施策としてある、西崎6丁目商業地域で事業を営む者に通り会の結成を促すという目標を達成した。具体的には西崎6丁目商店街通り会が平成25年11月に設立され、活動を行っている。設立にあたっては、本事業を平成24年から展開していることも功を奏し、地域が連携して地域づくりに取り組んでいく体制がとれた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 西崎商業地域の西崎6丁目で商店街通り会が設立された。 	<ul style="list-style-type: none"> 西崎商業地域(西崎6丁目)には飲食店等が多数立地している。西崎6丁目通り会は平成25年11月に設立されたが、6丁目に立地している飲食店の加盟が少ない状況にある。通り会への加盟促進や、通り会へ加盟するメリットを感じさせるような施策展開が必要である。

今後の取り組み方針

・実行委員会へ補助金を交付して行っている事業であり、実施主体は実行委員会であるが、より効果的な地域経済の振興や活性化策を、行政と実行委員会で検討して施策展開を行っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の用途の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・西崎フェスタ実行委員会を募って、実行委員会事務局を設立し、支出先の選定を行った。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・保育所の園児をはじめ、幼稚園、小学校の児童生徒、一般市民に市魚であるタマンののぼりを作成し、住民参加型を実施し、用途については、事業の目的に必要性がある。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・受益者負担金については、事務局で協議し、祭り参加事業者のみ出店料、広告料を負担とした。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

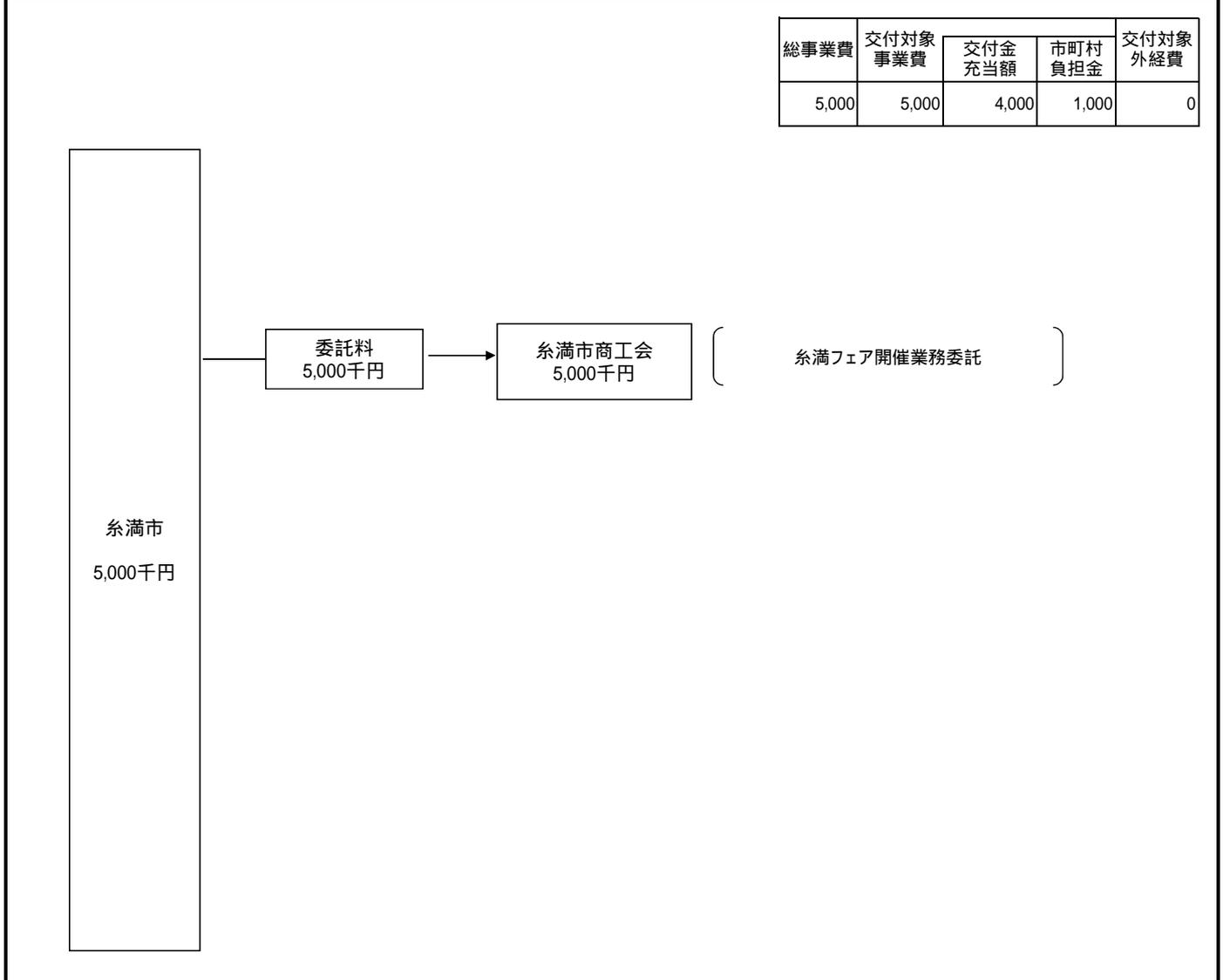
市町村名	糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	8-	糸満フェア開催事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(7)-イ	
担当部課名	経済観光部 商工観光課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	流通・販売・加工対策の強化 -1-(7)	
事業内容	本市の商工業の振興に向けて、多くの市民並びに県民へ地場産品をアピールし販路拡大を図るため、糸満フェアを開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		5,000			
		(b)予算現額		5,000			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
	A.計(b+d)			5,000			
	B.執行済額			5,000			
	うち交付金充当額			4,000			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			100.0%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	糸満フェアの開催:1回	目標	()	(1回)	()	()	
		実績		1回			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	道の駅いとまんにてファーマーズ周年祭同日に糸満物産フェアを開催し、糸満市内事業所の参加募集を行い、イベントを開催した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	参加事業者数 10事業者	目標	()	()	(10)	()	()
		実績			20		
	糸満フェア来場者数 10,000人	目標	()	()	(10,000)	()	()
		実績			25,000		
	進捗状況説明	ファーマーズいとまんの周年祭と同日に開催したことで、目標としていた事業者数、来場者を上回り多くの市民、県民への地場産品のアピールする機会となった。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	糸満工業団地立地企業の参加が少なく、パーラーなどの小規模事業者が大半を占めた。	糸満市商工会や糸満工業団地組合など市内関係団体の協力体制を構築して、糸満工業団地立地企業者の募集・案内を行う。

今後の取り組み方針

糸満ふるさと祭りと同時に開催を目指して、より多くの消費者に糸満市の物産をPRしていく。
 糸満工業団地立地企業が、本事業の糸満フェアへ参加することに対して、メリットを感じるような企画・運営を行い、より多くの地場産業事業者を紹介できる場としたい。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	・糸満市商工会は糸満市小規模事業者の会員ネットワークがあり、また糸満市の商業の現状を把握していることもあり、効果的に事業を遂行でき、妥当である。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	・受益者負担に関しては物産展の出店料金等で適切である。
		受益者との負担関係は妥当であるか。	・規模・費用・使途については、確定時において支出などに関する書類により確認、適正であった。
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

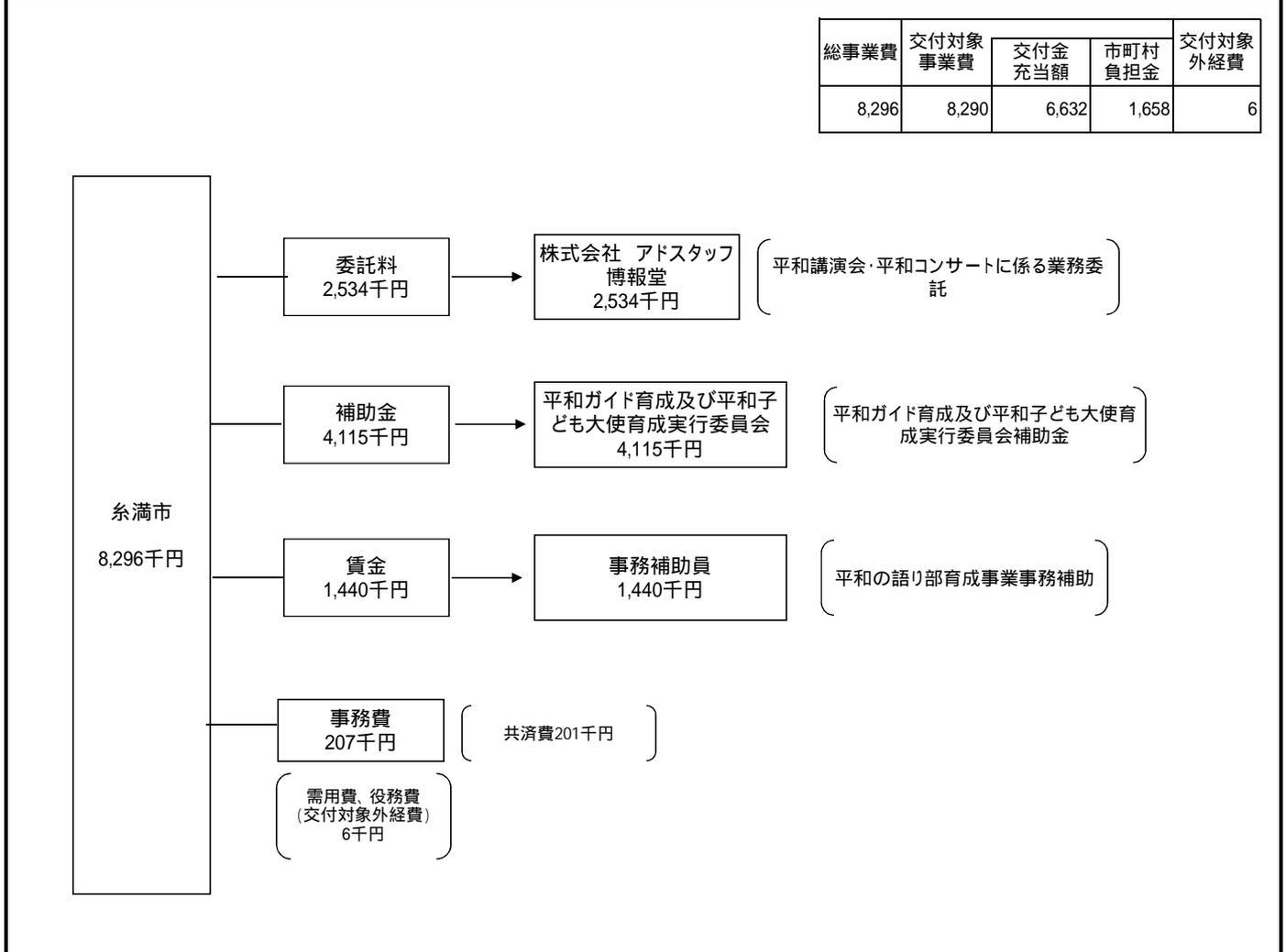
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	9-		平和の語り部育成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-3-(3)-ウ	
	担当部課名	企画開発部 秘書広報課		事業実施(予定)年度		平成24～29年度	国際交流・貢献等の推進
事業内容	戦争を身をもって体験した語り部が減少する中、苛烈を極めた地上戦が行われた沖縄県糸満市として、平和の尊さと戦争の悲惨さを後世に継承するために、新たな「平和の語り部」を育成する。併せて、広く市民等に平和の啓発・発信するため、平和講演会並びにイベントを実施した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,687	9,998			
		(b)予算現額	5,687	9,998			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	5,687	9,998			
	B.執行済額		5,435	8,290			
	うち交付金充当額		4,347	6,632			
	次年度繰越額						
	執行率(%) (B/A)		95.6%	82.9%			
予算の状況の説明		実行委員会へ交付した補助金のうち、研修地である広島県及び長崎県のハイシーズン時期を回避した事により、使用料及び賃借料(バス賃借料)、旅費が安価となり、戻入した結果の不要額である。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	語り部育成研修会の開催数 第1過程:3回 第2過程:3回 講演会開催数:1回	目標	(研修会・講演会開催)	(第1過程:3回 第2過程:3回 講演会:1回)	()	()	
		実績	研修会・講演会開催	第1過程:3回 第2過程:3回 講演会:1回			
			目標	()	()	()	
			実績				
達成状況説明		昨年度から引き続き参加している平和ガイド・平和子ども大使育成を第2過程、今年度からの参加者を第1過程とし、育成を行った。平和講演会等を1回実施した。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	語り部育成研修会受講人数 第1課程:18名 第2課程:17名 計35名	目標	(0人)	(15人)	(35人)	()	()
		実績		18人	36人		
	講演会観客数:約400名	目標	()	()	(400名)	()	()
		実績			400名		
	進捗状況説明		平和ガイド育成及び平和子ども大使育成については成果目標である人数を上回り、平和講演会については、成果目標を達成している状況である。				

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>「平和教育」を包含した平和ガイド育成及び平和子ども大使育成事業としての推進及び実施の重要性 第1課程及び第2課程の児童生徒への次世代継承者としての意識づけの手法(プログラム等)の多様性 平和の尊さを表現する媒体の「大衆性と正当性」のバランス感覚</p>	<p>本市の定義する「平和の語り部」を体現化する、事業内容の整理及び展開を図る 研修当初より、語り部としての意識づけの導入を行い、その手法を工夫する 平和の尊さや平和発信における「大衆向け」のバランスを保ちつつ、目的を体現できるような企画案の選択をする</p>

今後の取り組み方針

本事業が2年目を迎え、上記改善余地を考察し、次年度はこの改善を検討課題とし、沖縄戦終焉の地に恥じない「平和ガイド育成及び平和子ども大使育成」事業を展開してゆくこと。
平成25年度で、20周年となる平和都市宣言をふまえ「平和の尊さと平和の発信」を明確にしながら「平和講演会・平和コンサート」を通して、市民と共に平和都市宣言30周年へ踏み出すこと。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れの点検・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託料に係る平和講演会等については、今回「平和の尊さ」を伝える事を目的とし、その出演者等については、大衆性を踏まえた内容のわかりやすさが必要だった。 補助金に係る平和ガイド育成及び平和子ども大使育成事業については、総勢36人が原爆の悲惨さ(広島県、長崎県)を、場所のリアリティさで体験した事は、沖縄戦に限らず、戦争の愚かさを実感できたと判断する。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

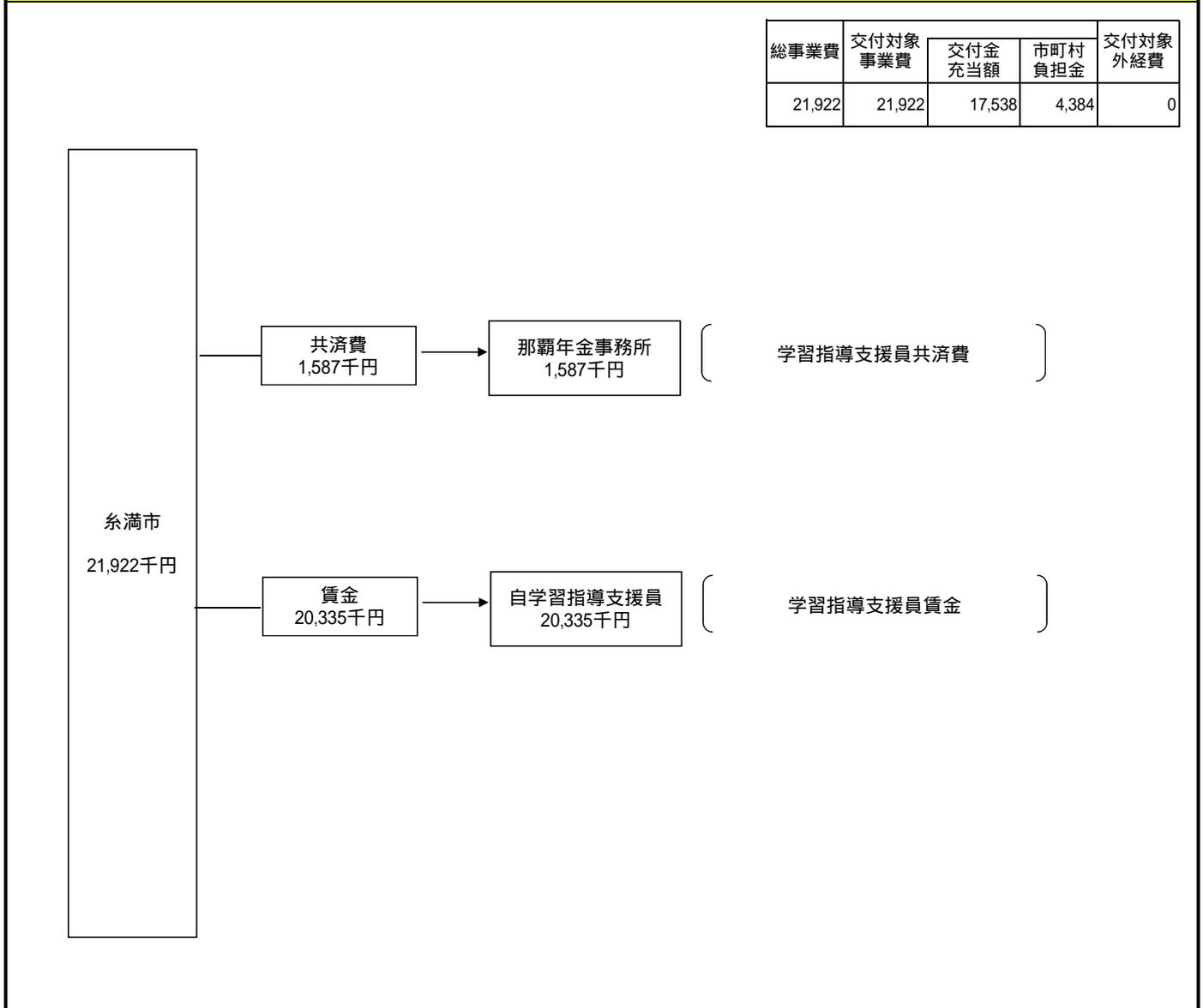
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	確かな学力を育むサポート事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	糸満市においては、学習支援を必要とする児童が小学校で125人(3%)、中学校で107人(5%)いた。また、学校生活への不適応児童生徒が学校36人(1%)、中学校23人(1%)いた。学校現場へ学習・自立支援員を配置、支援し課題解決を図った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	23,575	23,681			
		(b)予算現額	23,575	23,681			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		23,575	23,681			
	B.執行済額		22,919	21,922			
	うち交付金充当額		12,052	17,538			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		97.2%	92.6%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習指導支援員配置数 小学校:10人、中学校:6人	目標	(16名)	(16名)	()	()	
		実績	18名	23名			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	学習支援を必要とする児童生徒に対し学校現場へ学習・自立支援員を配置・支援し課題解決をはかった。年間を通して市内10小学校へ17名、6中学校へ6名の学習自立支援員を派遣。小学校については2学期から勤務形態を、8:15～13:15勤務、13:45～16:45勤務、8:15～16:45勤務と調整を行い、各校の実情にあった運用を行ったため、延べ17名の配置となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	学習指導支援児童数 小学校:175人 生徒数 中学校:107人	目標	(16校)	(16校)	(小175人中107人)	()	()
		実績		16校	小161人中130人		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	支援児童生徒数 小学校161人、中学校130人 学習・支援員配置効果 平成24年度と比較し平成25年度は県到達度調査における教科の総合計において県平均に小学校で2ポイント縮まったが、中学校では1.8ポイントと差がついた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	学習指導・自立支援員の指導力向上を目的とした研修会や勉強会を開催し、資質の向上を図る必要がある。	県、他市町村の臨任職員に比べ学習指導・自立支援員の賃金が安く、人材を確保するのが厳しい現状である。また、各学校に1名配置しているが、大規模校では複数人配置が必要である。

今後の取り組み方針

- ・既習事項の学習内容が定着せず、学習についていけない児童生徒へ個別の学習支援を行うことで、学習への意欲と理解を図ることができるため、今後も事業継続し、学力向上へ繋げていきたい。
- ・支援員の資質向上を目的として研修会等を年3回程度開催していく。
- ・各学校の実情に合わせ、適正な支援員数の適正配置・柔軟な配置を検討していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何をを行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	学習自立支援員の公募・選考を行い、適切な人材と考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	英語指導事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア	
	担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成 -3-(1)	
事業内容	英語指導を通じたコミュニケーション能力と国際感覚を身につけた人材育成を図るため、小中学校の英語授業における英会話指導、発音指導や学級での質の高い英語指導をサポートする英語指導助手を配置した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	21,291	21,389			
		(b)予算現額	21,291	21,389			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	21,291	21,389			
	B.執行済額		21,245	21,196			
	うち交付金充当額		10,856	16,957			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.8%	99.1%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	英語指導助手配置数 小学校:4人、中学校:3人	目標	(7人)	(7人)	()	()	
		実績	7人	7人			
			目標	()	()	()	()
			実績				
達成状況説明	市内小学校・中学校へ英語指導教諭の配置した。 H25年度:小学校 4名 中学校 3名 (H24:小学校 5人 中学校2人)						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	英語指導助手配置クラス数 小学校:45クラス、中学校:61クラス	目標	(16校)	(16校)	(106クラス)	()	()
		実績		16校	106クラス		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
	進捗状況説明	計画どおり市内16校(106クラス)への配置ができた。 英語指導教諭1人当たり指導児童数としても延べで小学校283人/週、中学校220人/週が実現できた。					

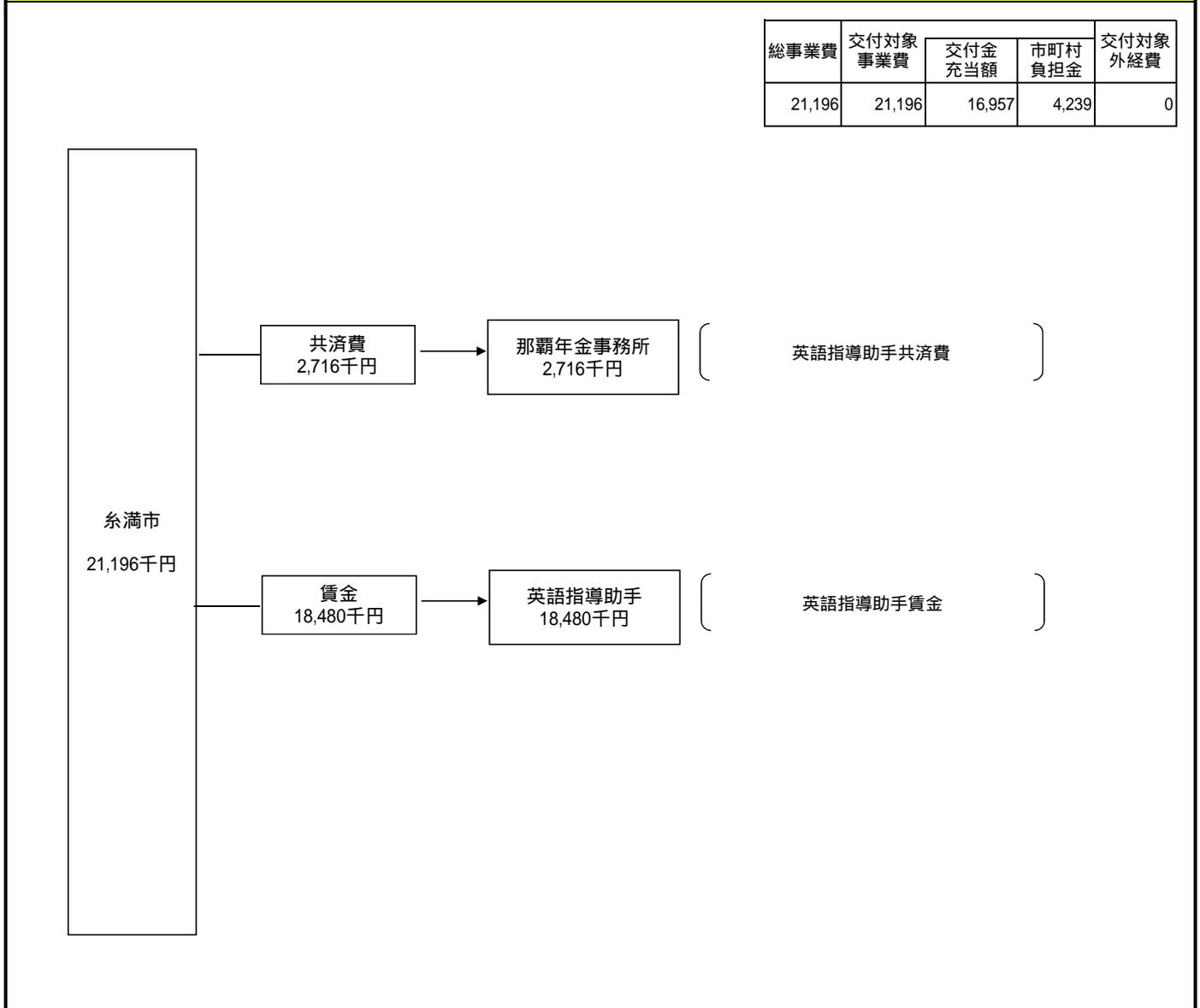
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<p>「英語立県沖縄」の宣言を踏まえ、小学校段階からの国際理解教育の充実を図り、コミュニケーションの手段としての外国語(英語)に慣れ親しませ、外国語(英語)を用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験させることなどが重視されているが、実際の外国人にふれあい、外国語(英語)を使ってコミュニケーションを行う場面などが不足している。</p>	<p>小学校の学級担任や小中の外国語活動担当教諭等の研修会を実施し、外国語活動における学習指導要領や地域、学校および児童生徒の実態を踏まえた年間指導計画を作成し、指導方法の工夫改善などを旨とし、資質向上を図る。</p>

今後の取り組み方針

小学校5年6年での英語教育が必修実施となり、各市町村は1年より英語に慣れ親しむ環境を整えている。中学校において英語の時間が各学年週4時間に増っており、ネイティブスピーカーの人員不足により授業への効果懸念があるため、次年度以降も同事業を継続・英語指導助手を活用し、国際理解教育及び英語活動を推進していきたい。

外国人との交流会等を積極的に実施するために、英語指導教諭を派遣し、チームティーチングやグループワーク等の指導形態及び指導方法の工夫・改善を積極的に行い、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」、「書くこと」の4技能の総合的な育成を図っていく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	公募・選考を行い適切な人材と考えている
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

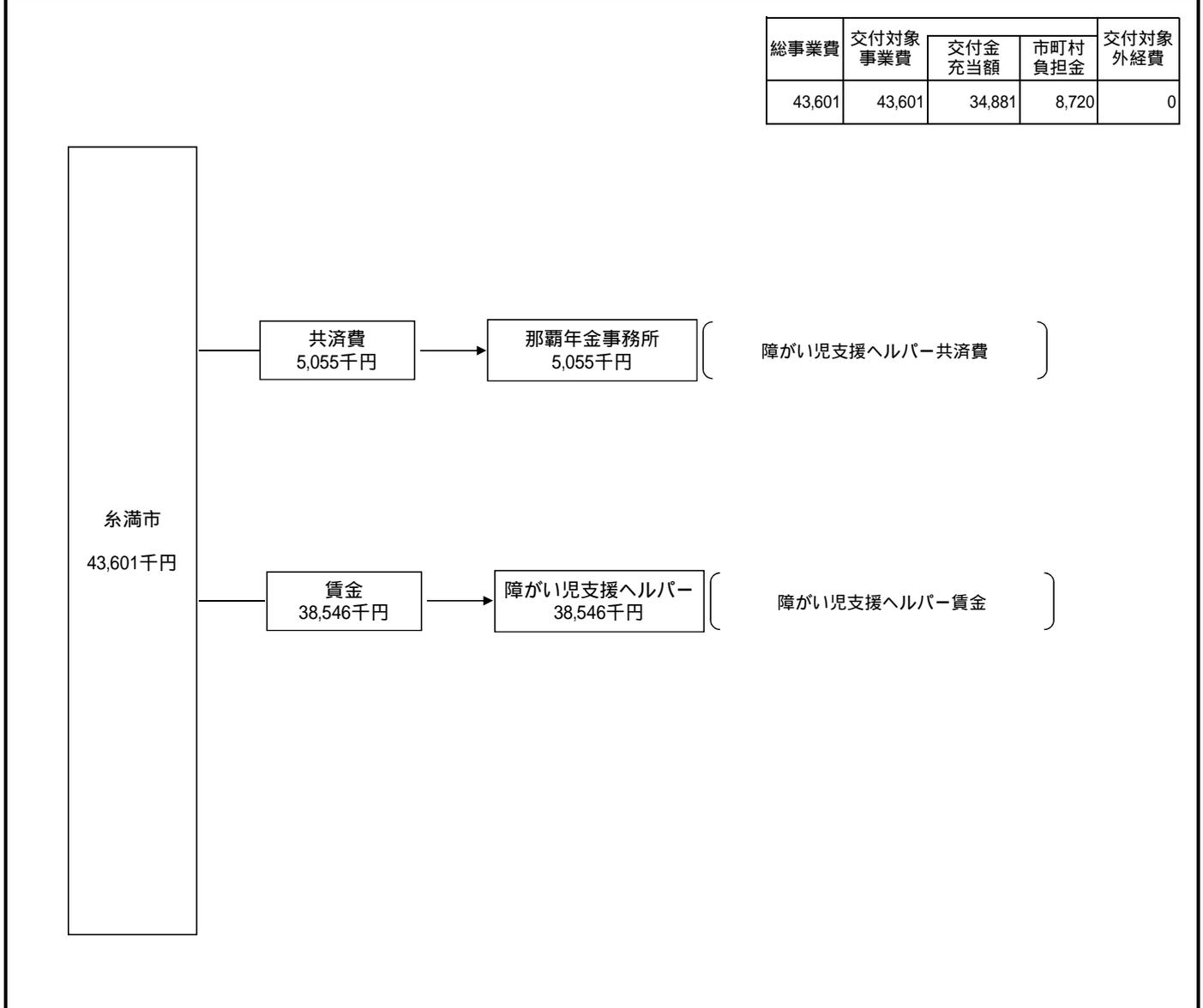
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	障がい児支援ヘルパー派遣事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ	
	担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進 -3-(1)	
事業内容	発達障害を含む様々な障害を持つ児童生徒に支援ヘルパーを配置するとともに、ヘルパーの資質向上を目的とした研修会を開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 （「交付金」+「市町村負担」ベース）	予算の状況	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
		(a)当初予算額	19,855	42,295			
	(b)予算現額	43,553	47,627				
	(c)増減額(b-a)	23,698	5,332				
	(d)繰越額	-	-				
	A.計(b+d)	43,553	47,627				
	B.執行済額	42,085	43,601				
	うち交付金充当額	10,225	34,881				
	次年度繰越額	0	0				
	執行率(%) (B/A)	96.6%	91.5%				
予算の状況の説明	予算計上どおりに概ね執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況					
		24年度	25年度	26年度	27年度		
	障がい児支援ヘルパーの配置 幼稚園:4人、小学校:27人、中学校:4人	目標	(25人)	(35人)	()	()	
		実績	25人	42人			
	目標	()	()	()	()		
	実績						
達成状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 市内幼稚園・小学校・中学校へ障がい児支援ヘルパーの配置を実施。 H25年度:幼稚園13人、小学校26人、中学校3人(H24:幼稚園8人、小学校16人、中学校1人) 学期ごとに研修会の開催 3回/年 						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)	
	支援園児・児童・生徒数 幼稚園:13人、小学校:36人、中学校:1人	目標	(15校(園))	(15校(園))	(50人 (15校(園)))	()	()
		実績		15校(園)	66人 (19校(園))		
	目標	()	()	()	()	()	
	実績						
進捗状況説明	<ul style="list-style-type: none"> 当初の計画を上回り、市内19校(園)へのヘルパー配置が可能となった。 ヘルパー1人当たりの対応児童数としても延べ18人/年のサポートが実現できた。 ヘルパースキルアップのための研修会についても開催した。 						

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>学校教育法施行令第22条の3に掲げる障害者以外に自閉症などの広汎性発達障害、注意欠陥・多動障害、学習障害、協調障害、精神遅滞、てんかんなどの発達障害等による支援を要する幼児児童生徒が増加している。 その結果、幼稚園及び学校現場の職員は、多様化し・複雑化する幼児児童生徒の諸問題の対応に苦慮している。 また、人員不足からくる事件・事故発生率の上昇が懸念される。</p>	<p>学校職員への特別支援教育への理解及び周知と障害児への対応へのスキルアップ研修の実施。 障害児支援ヘルパーの資質向上のためのスキルアップ研修のステップアップ。 事件事故防止のための障害児支援ヘルパーの増員。</p>

今後の取り組み方針

学校での安全面・生活面の補助が必要である幼児児童生徒に対しヘルパー派遣を行い学校生活での危険を未然に防ぐとともに、普通学級での学習を希望する者に対する「教育を等しく受ける権利」を保障していくため、次年度以降も同事業を継続実施していく。
特別支援コーディネータ・特別支援学級担任及び障害児支援ヘルパー配置学級担任への資質向上のための研修会の実施
障害児支援ヘルパー研修会を増やし、更なるスキルの向上を目指す。
障害児及び発達障害等をかかえる幼児児童生徒を支援するために障害児支援ヘルパーの増員

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	障がい児支援ヘルパーの公募・選考を行い、適切な人材と考えている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	学習ボランティア推進事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
	担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	学力向上を目的として、退職教諭や学生等による「学習ボランティア」を活用し、学校現場へ学習ボランティアを派遣するとともに、運営者の指導の充実を図るため、学習指導ボランティアの連絡協議会を開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	600	600			
		(b)予算現額	600	600			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	600	600			
	B.執行済額		536	591			
	うち交付金充当額		217	472			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		89.3%	98.5%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	学習ボランティア員の派遣 小学校7校、中学校2校	目標	(組織化)	(9校)	()	()	
		実績	組織化した	9校			
	学習ボランティア連絡協議会の開催2回	目標	(協議会の開催)	(2回)	()	()	
		実績	協議会を開催	2回			
達成状況説明	平成24年度で学習ボランティア連絡協議会を組織化し、平成25年度は学習ボランティア員を要望のあった小中学校へ派遣した。また、継続して学習ボランティア連絡協議会を開催(2回/年)した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	学習ボランティア員の派遣回数:270回	目標	(-)	(2件)	(270回)	()	()
		実績		2件	591回		
	[参考指標]	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成24年度組織化した2つの組織と継続して協定を締結した。 ・学習ボランティアへの登録者数は学生ボランティア員15人、地域一般ボランティア員21人の計36人となった。 ・学習ボランティア派遣回数としては、学生ボランティア員253日、地域一般ボランティア員338日、延べ 591日/年 となった。					

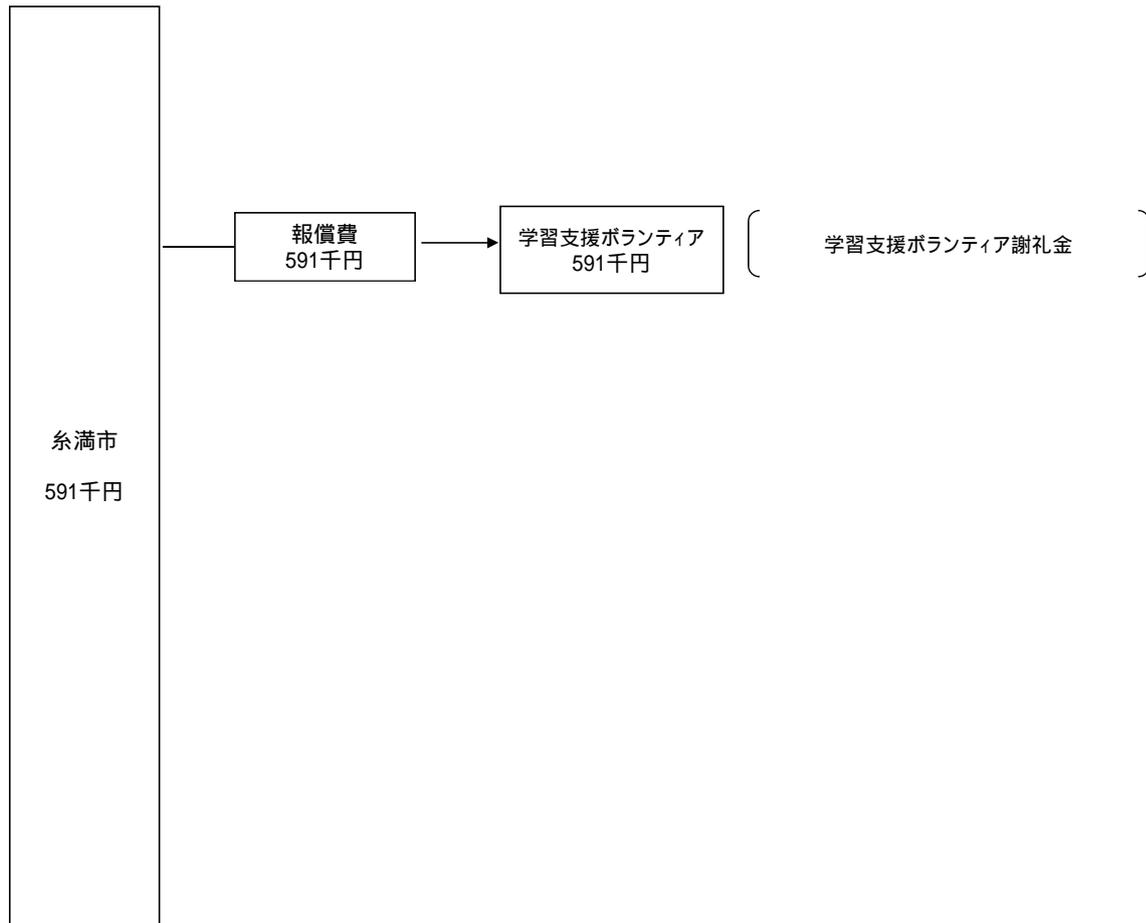
取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 学習支援ボランティアの連絡協議会を開催し運営や指導の充実を図る必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学等からの学生派遣のみだけでなく、地域住民ボランティア員の活動に対しても研修会等を行い、さらなる質の向上を図ることで充実した支援の取組につながる。

今後の取り組み方針

- 校長講話や教頭、生徒指導主任等の講話など、実践的指導力の基礎的な学びの場の提供を推進する。
- 各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等の授業参観機会の充実を図る。
- 既習事項の学習内容が定着せず、学習についていけない児童生徒へ個別の学習支援を行うことで、学習への意欲と理解を図ることができるため、今後も事業継続し、学力向上へ繋げていく。
- 学習支援ボランティアの連絡協議会を開催し運営や指導の充実を図る。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金		交付対象外経費
		充当額	市町村負担金	
591	591	472	119	0



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	ボランティア員に対する報償費として適切に執行されていると考える。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	学びの体験事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成24～26年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	学力向上で成果を上げている秋田県に直接児童等を派遣し、学習に対する心構えや学校生活・放課後の過ごし方など、先進地の学校における“学び”を体験し、派遣元の生徒や地域に波及させ、全国下位にある学力向上を図った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	0	5,495			
		(b)予算現額	5,495	5,495			
		(c)増減額(b-a)	5,495	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	5,495	5,495			
	B.執行済額		5,378	5,491			
	うち交付金充当額		4,301	4,393			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		97.9%	99.9%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	先進地体験交流事業の実施	目標	(交流事業の実施)	(交流事業の実施)	()	()	
		実績	交流事業を実施	交流事業の実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明		・先進地体験交流事業を実施した。 ・同交流事業への参加者数 52人/H25年度となった。交流事業終了後は、先進事例発表会を実施し、経験したことのフィードバック及び発表会を通じた発表表現力等の向上を図った。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	交流参加者数 55人	目標	(-)	(47人)	(55人)	()	()
		実績		51人	(52人)		
	・報告書作成し、各学校及び報告会で配布(16校、1000部) ・実践発表のため報告会の開催	目標	()	()	(報告会開催 1,000部)	()	()
		実績			報告会実施 500部		
	進捗状況説明		・先進地体験交流参加者数52名(小学校20人、中学校16人、引率16人(教諭11人・団長1人・看護師1人・事務局3人)) ・先進事例発表会参加者数 600人/H25 ・当初計画の55人よりも派遣人数が少なくなったのは、派遣先教育委員会より交流小中学校の校区内にある宿泊施設を利用するよう推薦があり、宿泊施設の変更を行ったところ料金が当初見積もりよりも過大となったため、派遣人数を減らし対応したため。 ・報告書1,000部から500部に減となった理由も、上記と同様旅費が過大となった為印刷製本費より旅費へ流用し対応したため。				

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> ・先進地委員会との連絡調整(派遣先学校や日程等)。 ・派遣児童生徒、及び教員の選考。 ・児童生徒の体調管理を考慮し、日程を組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校教員が中学校を、中学校教員が小学校を視察することで、先進地の小中連携など取り組みを知ることができる。次年度は小中学校の入替視察を日程に組めるか検討したい。

今後の取り組み方針

・次年度以降も事業継続し体験交流を行ない、児童生徒の学力向上・教職員の資質向上につながっていききたい。また秋田県大仙市教育委員会と協力的な関係を築けたので、更なる学力向上に対し連携していきたい。

・先進地教育委員会との連絡調整後、交流日程・受入校を決定

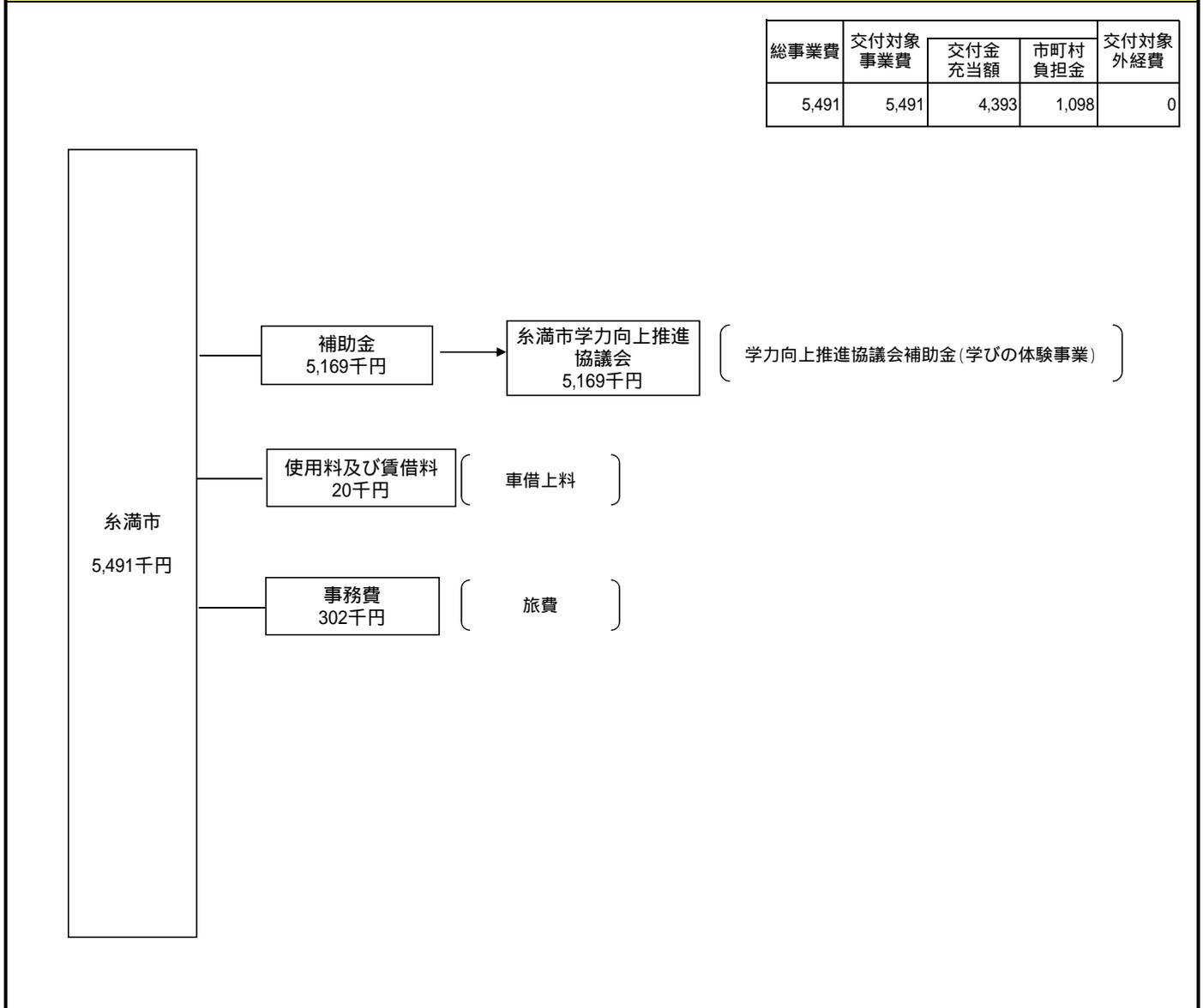
・学校・児童生徒・保護者説明会開催

・先進地へ派遣、受入先幼・小・中学校と体験交流

・交流事業後、実践発表会を開催

・実践報告書作成

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	補助金支出団体は市の学力向上推進を目的としており、組織・実績等を助案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

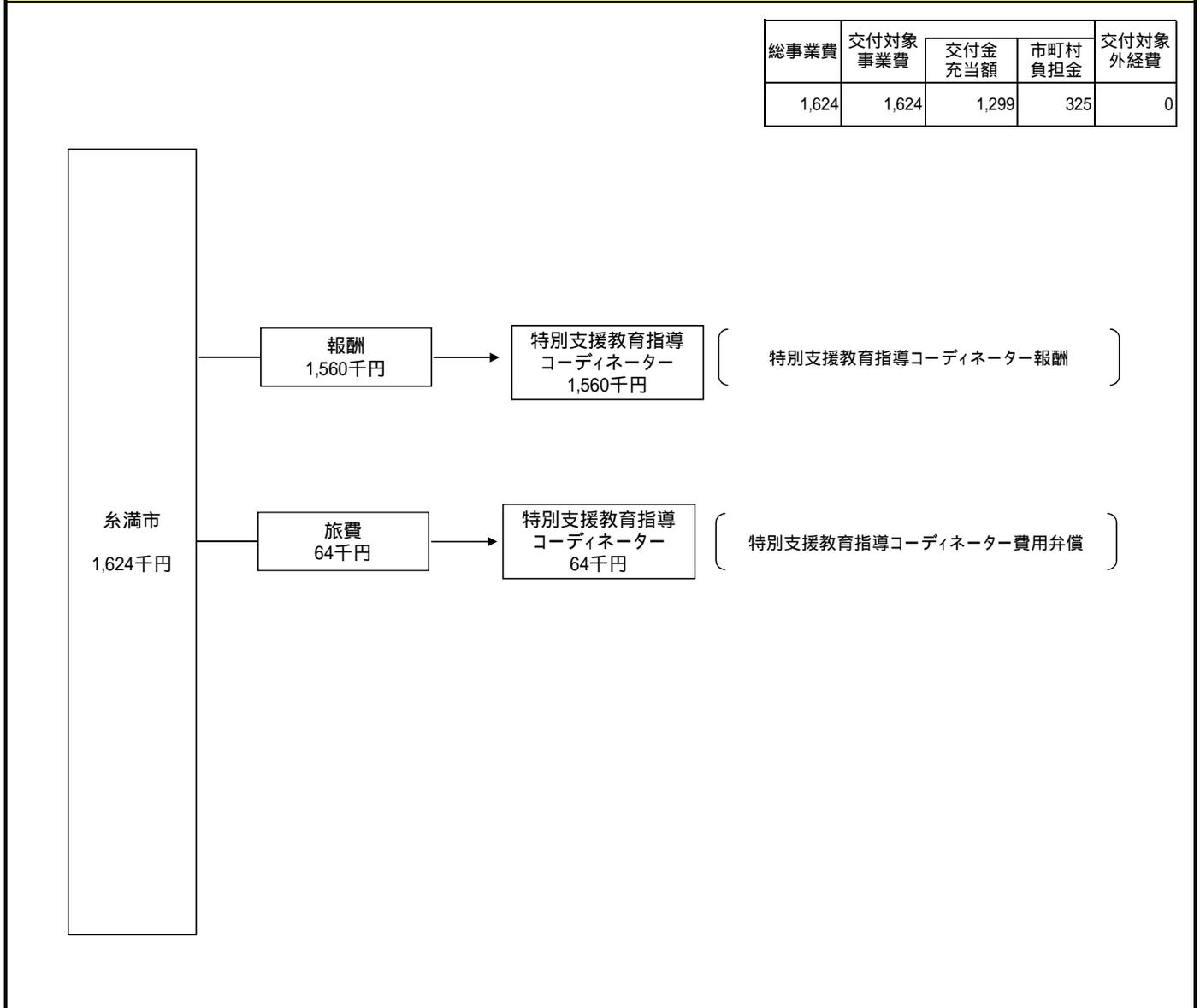
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	特別支援教育指導コーディネーター配置事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	障がいのある児童生徒に関し、保育所等他機関との連携や学校での取り組みなどを多方面から支援する特別支援教育を行うため、特別支援教育指導コーディネーターを配置した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		1,644			
		(b)予算現額		1,644			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		1,644			
	B.執行済額			1,624			
	うち交付金充当額			1,299			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			98.8%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	特別支援教育指導コーディネーター配置1人	目標		(1人)	()	()	
		実績		1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	特別支援教育指導コーディネーターを1人配置した。市内各幼小中学校等からの要請を受け派遣。特別支援教育研修会を開催。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	市内幼稚園・小中学校・保育園及び保護者への指導・相談 年120回	目標	(-)	()	(120回)	()	()
		実績			152回		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	対象児童生徒幼児(H25:139人)に関する学校・幼稚園・保育園及び保護者への指導・相談を152回実施。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>特別支援教育を要する児童生徒は年々増加傾向にあり、担任だけでは支援が難しい、発達障害等のために安全確保や見守りが必要な児童生徒や、肢体不自由の為生活介助を必要とする児童生徒への支援が必要となっている。</p> <p>平成19年度の学校教育法改正により、小中学校に在籍する教育上特別な支援を必要とする児童生徒に障害による困難を克服するための教育を行うことが明確に位置付けられ、地域の小中学校への就学を希望する保護者のニーズが年々増えている。</p>	<p>学校に特別支援教育に精通した専門家を派遣することにより、安全に学校生活を送る環境を整え、将来の自立や社会参加を見据えた教育を図ることが可能となる。</p>

今後の取り組み方針

引き続き、特別支援教育指導コーディネーターを各学校(園)等に派遣し、児童観察・教員との連携・指導及び保護者の相談窓口など、特別支援教育の充実にに向けた環境を整えていく必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	適切な人材と考えている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10-	教育用コンピュータ整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-ア	
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)	
事業内容	学校のICT環境整備を行うことでパソコン・校内LANを通じたインターネットの活用等により、分かりやすい授業の実現、子どもたちの情報活用能力の育成を図るため、コンピュータを導入した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		18,796			
		(b)予算現額		66,184			
		(c)増減額(b-a)		47,388			
		(d)繰越額		-			
	A.計(b+d)			66,184			
	B.執行済額			62,013			
	うち交付金充当額			49,610			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			93.7%			
予算の状況の説明		当初は、コンピュータ教室(3校)の整備だったが、情報教育のより一層の充実を図るため、小中学校の普通教室及び特別教室の教育用パソコンを設置するため増額補正を行った。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	教育用コンピュータ整備:3小学校(103台)	目標		(103)	()	()	
		実績		338台			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	教育用コンピュータ整備を小学校3校(103台)、小学校5校(83台)、小学校5校(81台)、中学校6校(71台)行った。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	市内小中学校における教育用コンピュータの整備率:16%	目標	(-)	()	(16%)	()	()
		実績			55%		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	教育用コンピュータを各小中学校へ整備した。コンピュータの活用により教育環境の充実が図られた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	教育の情報化は、情報活用能力の育成を目指した情報教育の充実及びICTを効果的に活用することによる「わかる授業」の実現、さらには、教員の校務を効率化し、教育活動を充実させるための校務の情報化を目的としている。これらの目的を達成するためには、学校におけるICT環境の整備、教員のICT活用指導力の向上に加え、専門的な知識を有する外部人材の活用等、学校のICT化をサポートする体制の整備が必要である。	市内小中学校のコンピュータ整備率の向上。 個人情報等の取扱いに対する注意事項の周知が必要。 教諭のスキル向上を図るため、研修や説明会、資料提供等を行う必要がある。
	今後の取り組み方針	
市内小中学校におけるICT環境の充実を図るため、事業で導入したコンピュータを適正に運用管理していく。 個人情報等の取扱い・教諭のスキル向上等を図るため、研修会を開催していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
	62,013	62,013	49,610	12,403	0
<p style="text-align: center;">糸満市 62,013千円</p> <p style="text-align: center;">備品購入費 62,013千円</p> <p style="text-align: center;">(株)オキジム 62,013千円</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-left: 200px;"> パソコン機器等購入費(小学校)18,690千円 パソコン機器等購入(小学校Aグループ)14,805千円 パソコン機器等購入(小学校Bグループ)14,574千円 パソコン機器等購入(中学校)13,944千円 </div>					

資金の 使途の 流れ、 点検 評価 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	納品した事業者は指名競争入札を実施した上で選定しており、妥当であったと考えている。 費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名	糸満市
------	-----

平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	10- 適応指導教室設置事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(3)-イ 豊かな心とたくましい体を育む教育の推進
担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度
		沖縄振興基本方針該当箇所	-3-(1)

事業内容
心理的・情緒的要因による不登校の児童生徒の登校復帰を図るため、適応指導教室を設置し、授業支援・登校支援及び教育相談を実施した。

実施方法
直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a)当初予算額	4,926			
		(b)予算現額	4,926			
		(c)増減額(b-a)	0			
		(d)繰越額	-			
		A.計(b+d)	4,926			
		B.執行済額	4,700			
		うち交付金充当額	3,760			
		次年度繰越額	0			
		執行率(%) (B/A)	95.4%			
		予算の状況の説明	予算計上どおりに概ね執行できた。			

活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)	達成状況			
		24年度	25年度	26年度	27年度
適応指導教室補助教諭配置数:1人 教育相談員:2人	目標		(3人)	()	()
	実績		3人		
送迎・巡回用車両の購入	目標	()	(1台)	()	()
	実績		1台		
達成状況説明	適応指導教室補助教諭を1名配置。教育相談員を2名配置。児童生徒が社会性を身につけ、学校生活へ適応できるよう体験活動や学習指導、教育相談等の支援を行った。 送迎・巡回用車両を1台購入。				

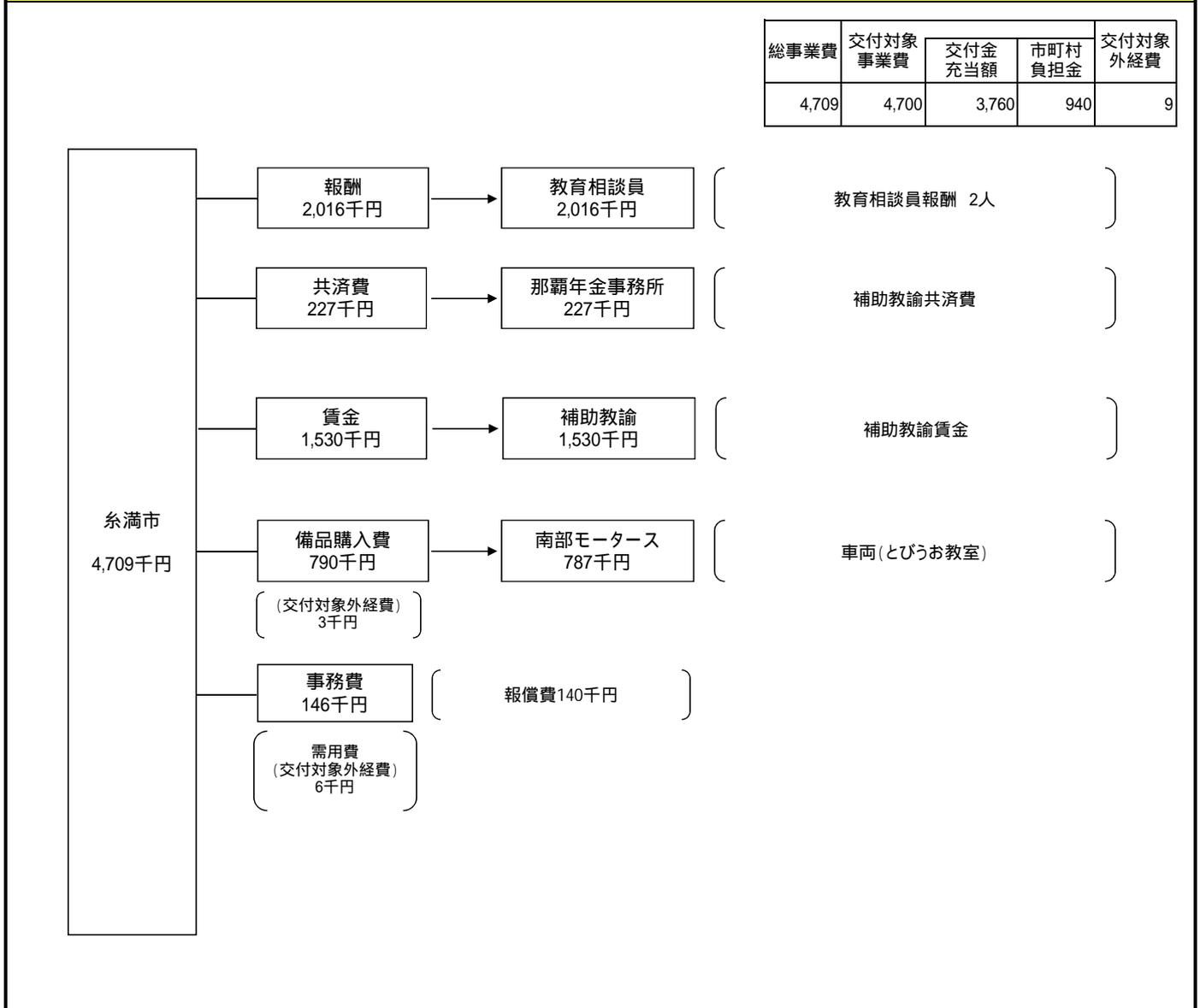
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)	基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
		サポート児童生徒の平均登校日数:80日	(-)	()	(80日)	()
				80日		
進捗状況説明	平成25年度における適応指導教室への入級者数は、小学生(男子1人、女子1人)、中学生(男子6人、女子9人)の計17人であった。このうち、中学3年生の2人が高校等へ進学するなど改善がみられた。他の児童生徒についても、所属学校へのチャレンジ登校がおこなえるようになったり、学校復帰など改善がみられた。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	不登校児童生徒の支援を行うことで、学校復帰した生徒が8名、昨年度に比べ学校復帰した児童生徒数は増加したが、学校復帰に至らなかった児童生徒もいる。	引き続き補助教諭・教育相談員を配置し、関係機関との連携をこまめに取りながら不登校児童生徒の状況、学校の対応等を把握し、学校復帰に至らなかった原因を検証していく必要がある。

今後の取り組み方針

児童生徒一人一人のペースを見ながら、継続的かつ計画的に支援の充実を図る。
 学校復帰に向けて、学習意欲や学力に応じた個別指導を行う。
 体験活動、遊び、スポーツなどを通して協調性や集団への適応力を養う。
 教育相談を常に行い悩みや不安を解消する。
 保護者・学校との連携を図り、復帰への方向性を確認する。

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	適切な人材と考えている。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	事業費及びその規模については、適応指導教室の運営に適正な規模である。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

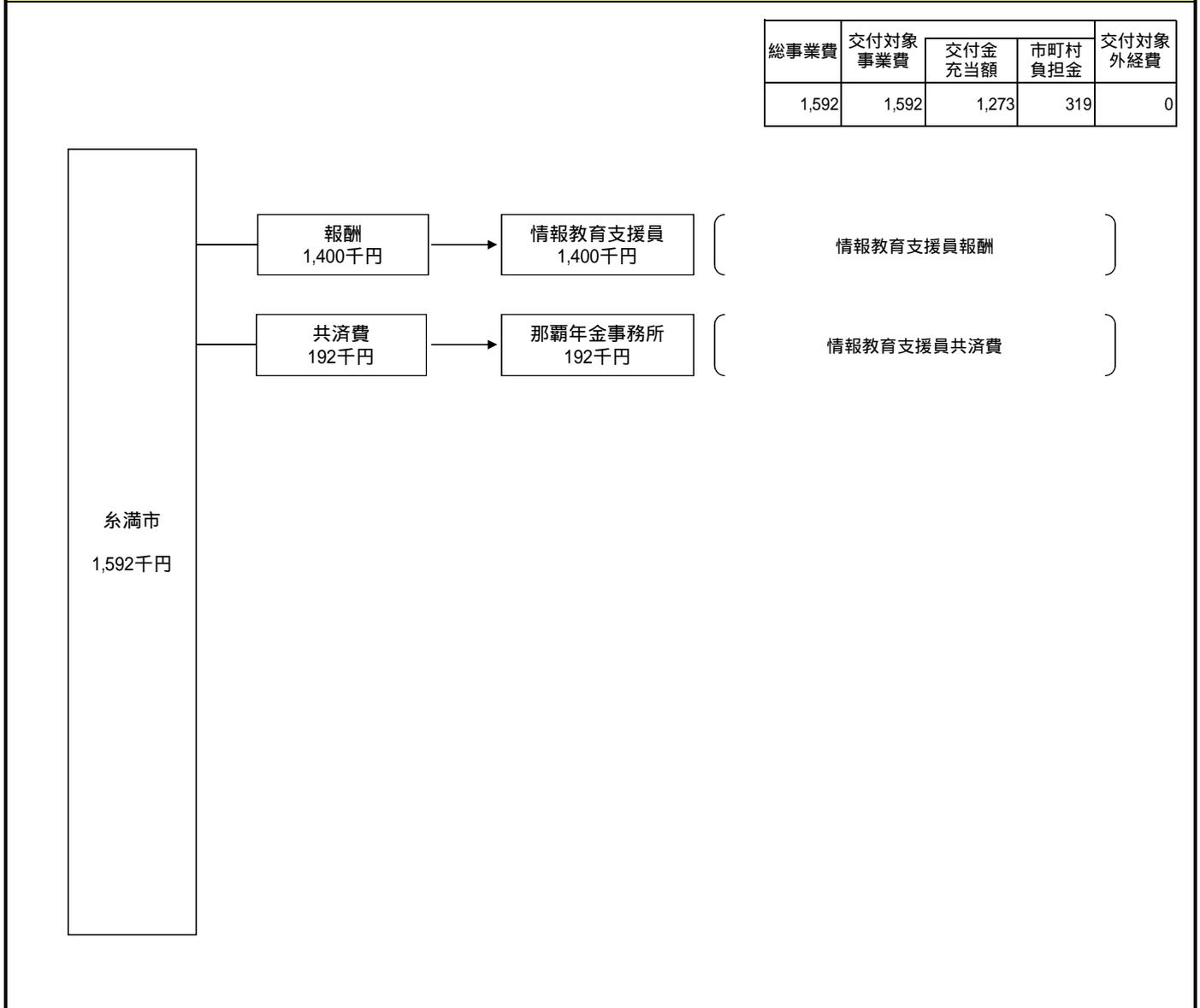
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	10- 情報教育支援員配置事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-5-(3)-ア		
	担当部課名	教育委員会 指導部 学校教育課		事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	確かな学力を身につける教育の推進 -3-(1)
事業内容	児童生徒のコンピュータ授業支援及び教諭に対するコンピュータ教育の指導及び支援を行い、情報化時代に対応しうる人材を育成する情報教育を推進するため、市内小・中学校に情報教育支援員を派遣した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額		3,296			
		(b)予算現額		3,296			
		(c)増減額(b-a)		0			
		(d)繰越額		-			
		A.計(b+d)		3,296			
	B.執行済額			1,592			
	うち交付金充当額			1,273			
	次年度繰越額			0			
	執行率(%) (B/A)			48.3%			
予算の状況の説明		当初7月から情報教育支援員を配置する予定であったが、求人に対する応募がなく、9月からの配置となったため、2ヶ月分残がでた。 9月以降については概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	情報教育支援員配置1人	目標		(1人)	()	()	
		実績		1人			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	当初予定の7月から配置をすることはできなかったが、9月より配置し、市内各小中学校へ派遣し情報教育支援を進めることができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	市内小中学校16校へ派遣	目標	(-)	()	(16校へ派遣)	()	()
		実績			16校へ派遣		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	情報教育支援員を各小中学校へ巡回派遣し、PC教室で授業を行う教員の支援や児童生徒へ直接支援することで、教員や児童生徒の情報リテラシーの向上が図れた。政府統計によるH25年度教員のICT活用指導力の状況調査によると本市は83%近くが「できる」と回答している。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>情報教育支援員による学校教育の支援体制の課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援員が教員の授業支援に貢献できる機会を増やすこと。 ・嘱託、臨時で雇用している支援員を管理・指導する担当を配置すること。 ・支援員業務の効率化・高度化に向けた中長期的な計画を設定することが挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校巡回という形で定期的に情報教育支援員が学校に派遣し授業支援ができる機会を増やしていく。 ・児童生徒にアンケートを行い、情報リテラシーの効率的な向上を図る必要がある。

今後の取り組み方針

基本的な情報教育支援員の活動については今年度の活動を強化する形で取り組んでいく。「改善余地の検証」について、次年度方向性を見出していくことを目指す。引き続き、情報教育支援員による、教員のICT活用力向上に努めるとともに、中長期的な学校ICT環境整備計画を策定し、段階的な整備を進める必要がある。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 点検 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	公募・選考を行い、適切な人材と考えている。
		予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

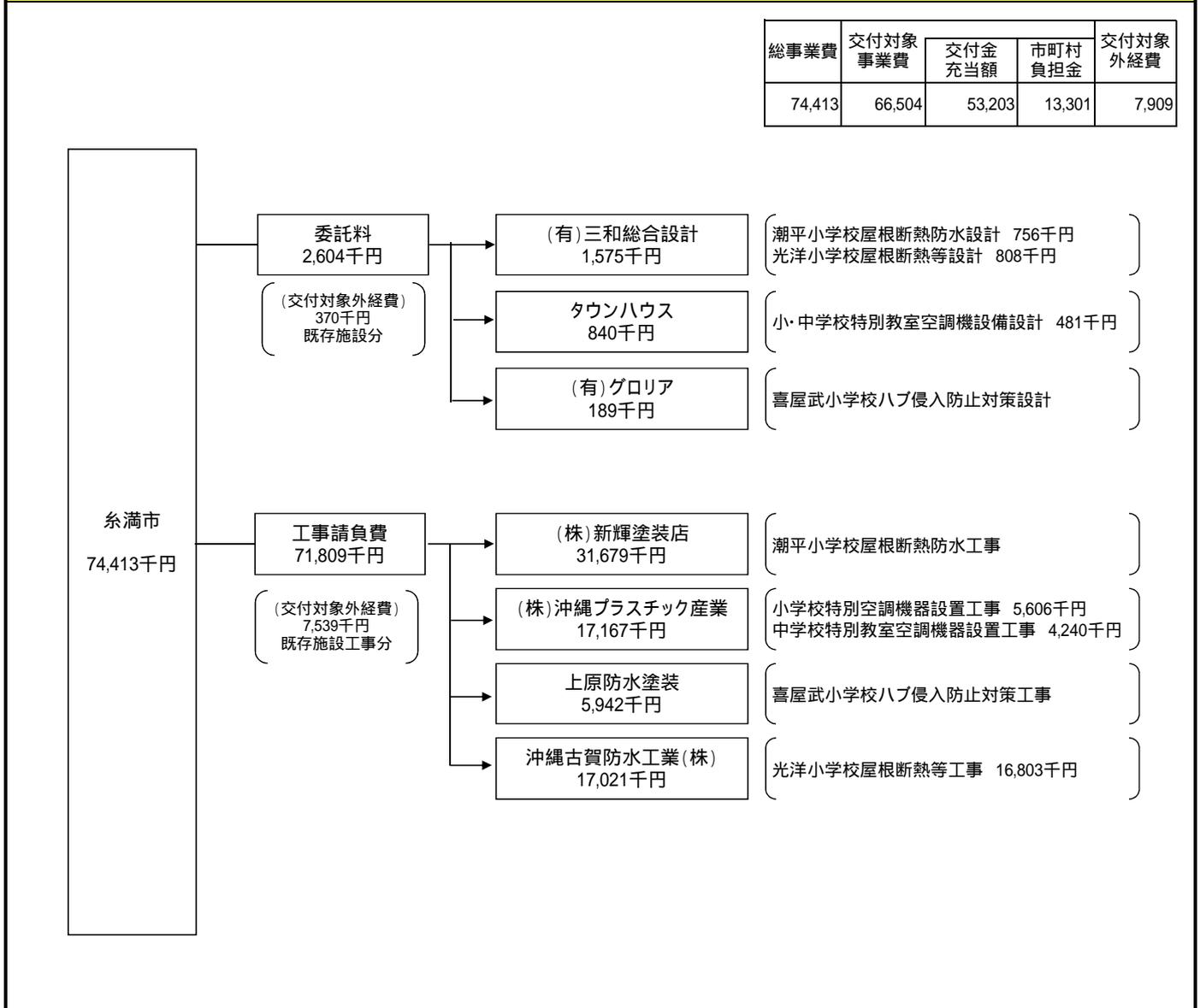
市町村名		糸満市						
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	10-	教育環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(1)-ア		
	担当部課名	教育委員会 総務部 総務課	事業実施(予定)年度	平成25～29年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域を大切に、誇りに思う健全な青少年の育成 -3-(1)		
事業内容	児童の教育環境改善を目的に、小学校校舎屋根の断熱防水工事、空調設備設置工事、ハブ侵入防止対策工事及び中学校の空調設備設置工事を行った。							
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額		79,736				
		(b)予算現額		79,736				
		(c)増減額(b-a)		0				
		(d)繰越額		-				
		A.計(b+d)		79,736				
	B.執行済額			74,413				
	うち交付金充当額			53,203				
	次年度繰越額			0				
	執行率(%) (B/A)			93.3%				
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況					
			24年度	25年度	26年度	27年度		
	屋根断熱防水施工数:2校 小学校空調機設置数:2校	目標		(工事の実施)	()	()		
		実績		工事を実施				
	ハブ防護フェンス設置数:1校 中学校空調機設置数:3校	目標	()	(工事の実施)	()	()		
		実績		工事を実施				
達成状況説明	屋根断熱防水施工数:2校 小学校空調機設置数:2校 ハブ防護フェンス設置数:1校 中学校空調機設置数:2校							
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)	
	屋根断熱防水施工:2校 小学校空調機設置:2校	目標	(-)	()	(工事の実施)	()	()	
		実績			工事を実施			
	ハブ防護フェンス設置:1校 中学校空調機設置:3校	目標	()	()	(工事の実施)	()	()	
		実績			工事を実施			
	進捗状況説明	屋根断熱防水施工数:2校 小学校空調機設置数:2校 ハブ防護フェンス設置数:1校 中学校空調機設置数:2校						

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<p>屋根断熱防水については、長期にわたる効果を維持するため定期的(5年)なメンテナンスが必要である。 ハブ侵入防止柵の効果を発揮するためには、設置後の除草等維持管理が必要である。</p>	<p>断熱防水については、壁面も施工することにより更なる環境改善が図れる。また窓への日射遮蔽シートを取り入れることにより、空調機の負荷低減が図れ光熱費の削減にもつながることが期待されるため実施を検討する必要がある。</p>

今後の取り組み方針

引き続き教育環境の改善を図るため、施設整備を進めていく必要がある。
 屋根断熱防水工事(小学校・中学校・幼稚園)
 特別教室空調機設置工事(小学校・中学校)

資金の流れ
 (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費 目・	評価	点検項目	評価に関する説明	
			支出先の選定方法は妥当か。	建設業法による登録業者へ委託し、予算規模・用途については必要最小限の事業支出である。
			予算規模は事業内容に合った適正な規模となっているか。	
	-		受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-	子育て応援NPO活動支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
	担当部課名	福祉部 児童家庭課	事業実施(予定)年度	平成24～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 -3-(1)	
事業内容	子育ての困難な親などの養育支援を行うため、NPOを活用して相談や学習会などを開催した。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	4,583	3,349			
		(b)予算現額	4,583	3,349			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	4,583	3,349			
	B.執行済額		4,551	3,332			
	うち交付金充当額		3,640	2,665			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		99.3%	99.5%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修	目標	(学習会の開催、1人)	(相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修)	()	()	
		実績	学習会を開催、1人	相談活動、訪問活動、親対象の研修、支援者対象研修			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	支援の必要性があるにもかかわらず行政のサービスメニューがない、継続したきめ細やかな支援ができない等の事例に対して、子育て支援員が家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と連携し、対象者のニーズにあった支援を展開することができた。また、その親の支援を通して普段の暮らしの仕方を伝え(料理講座7回)、子供や家族のために作る喜び、感謝される嬉しさ等を味わう中で子育ての喜びと同時にその負担感の軽減につなげることができた。研修会(支援者向け研修9回)を通じて要支援者の理解とアセスメント、支援目標、支援方法について学び、共有し、実際の支援に生かすことができた。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	相談活動 80件 訪問活動 70件	目標	(0)	(480人)	(相談活動80件 訪問活動70件)	()	()
		実績		学習会参加者 983人	相談活動80件 訪問活動70件		
	親対象の学習会 7回 支援者対象研修 9回	目標	()	()	(学習会7回 研修9回)	()	()
		実績			学習会7回 研修9回		
	進捗状況説明	平成25年度目標値(相談活動(80件)、訪問活動(70件)、親対象の学習会(7回)、支援者対象研修(9回))を達成した。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> 支援する側が福祉の実態や支援内容によって対応が不十分な場面があった。 対応後の細やかな報告等の情報交換が不十分であった。 若年の親の精神面の理解や信頼関係の構築が十分ではなかった。 同年齢の親同志の交流が困難だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門家(講師)を招いた支援学習の強化を図る。 行政ときめ細かい連携を図る。 当事者(要支援家庭等)へ対する理解と関係構築 支援会議を開催し、きめ細やかな支援の取り組みを図る。 継続した支援の実施(子育て応援デーなどへの参加)

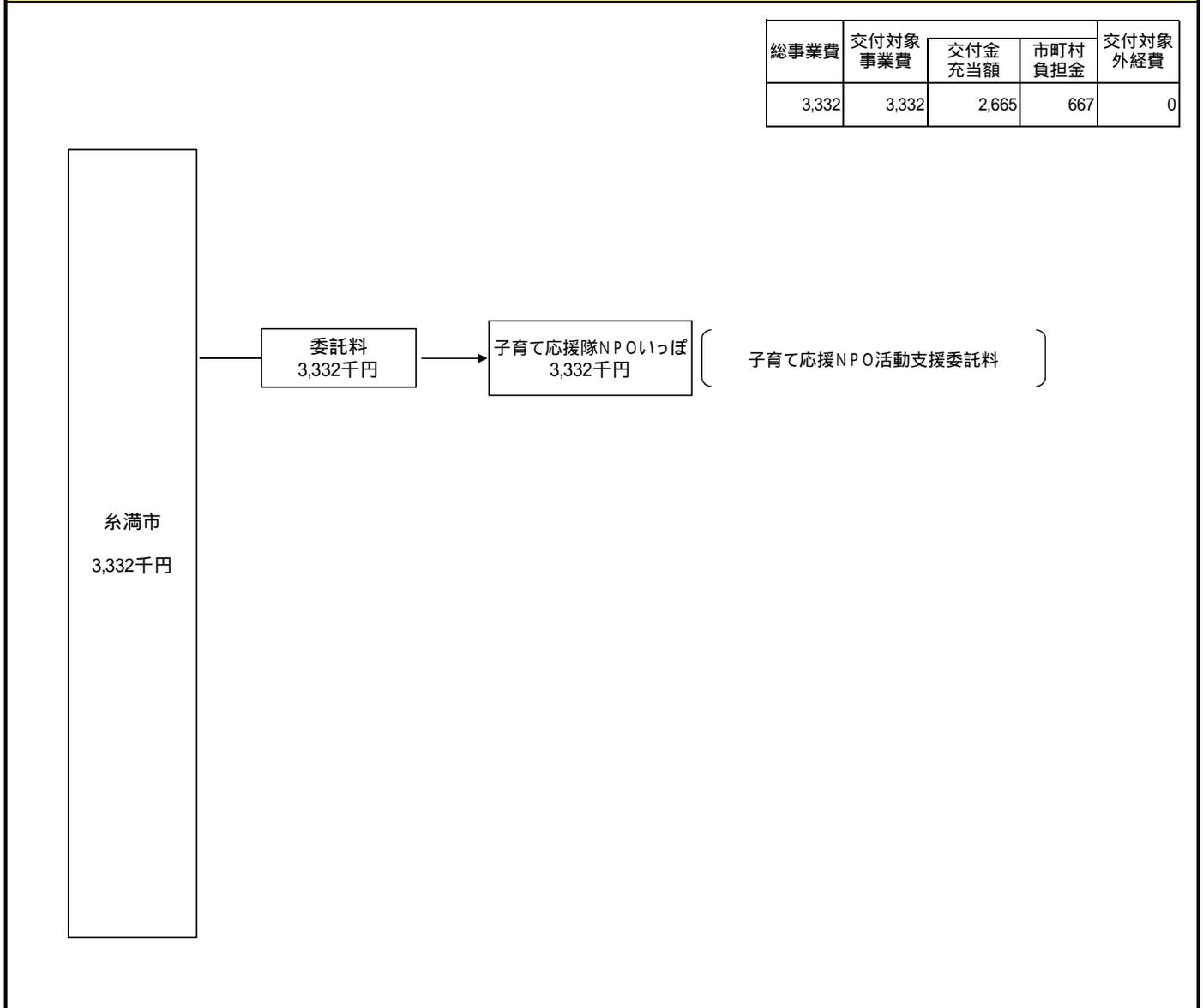
今後の取り組み方針

コーディネータが地域を巡回して子どもを抱え親が引きこもりがちな家庭や養育困難な家庭等支援が必要とされている親に対して定期訪問を実施するとともに、家庭児童相談員、婦人相談員、保健師と連携し、早期の支援開始と個々のケースに応じた対応策を講じていく。また、電話・来所相談等に応じ、子育てに対する不安の解消や親子の居場所づくりに努める。

支援員のスキルアップを図るための専門的知識の習得と支援技術の向上を目的とした研修会の開催、要支援家庭を対象とした学習会の開催を実施する。

養育困難な家庭環境下では、児童の健全育成を阻害する恐れが懸念されるが、その要因は様々であり個々のケースにあったきめ細やかな支援を提供することにより時間を掛け養育可能な家庭環境に導く。これらを行政のみで実施することは容易ではなく、NPOと連携し長期に渡る支援体制の確立、支援の継続が子育て支援事業には必要不可欠である。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流 れ、費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	子育て支援の目的や実績・知識を勘案してNPOを選定しており妥当 費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	11-	公立保育所環境整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(2)-イ	
担当部課名	福祉部 児童家庭課		事業実施(予定)年度	平成24～25年度	沖縄振興基本方針該当箇所	地域における子育て支援の充実 -3-(1)	
事業内容	亜熱帯気候である沖縄特有の自然環境から保育所に入所している乳幼児を守り、安心して保育ができる環境を確保するため、保育園舎に断熱塗装を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	16,000	15,000			
		(b)予算現額	16,000	15,000			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
		A.計(b+d)	16,000	15,000			
	B.執行済額		13,480	13,384			
	うち交付金充当額		10,464	10,707			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		84.3%	89.2%			
予算の状況の説明		不要額は入札残によるものであり、当初計画していた事業内容はすべて実施し、目標の達成状況を鑑みて適正であったと考えている。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	断熱塗装工事の実施 1カ所	目標	(工事の実施)	(工事の実施)	()	()	
		実績	工事を実施	工事を実施			
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	H24年度は喜屋武保育所、H25年度については、座波保育所の屋根、壁面等への断熱塗装工事を実施した。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値(23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(年度)
	断熱対策工事を実施した施設利用児童数 65名	目標	()	(31人)	(65)	()	()
		実績		32人	66		
		目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	平成25年度実績の66名については、平成26年3月完成時点の数字である。入所児童数については、年間を通して大きな変動はない。					

取組の検証	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
	入所児童の保育環境を保持するためには、暑さ対策が必要である。今回初期の目的が達成できたと考える。	直射日光のあたる窓へ断熱フィルムを貼れば更なる効果が上がると思われる。
今後の取り組み方針		
今後室内の温度上昇抑制や体感温度等、事業効果の検証を行なっていく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)					
	総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
	13,384	13,384	10,707	2,677	0
<pre> graph LR A[糸満市 13,384千円] --> B[委託料 799千円] A --> C[工事請負費 12,585千円] B --> D[金城設計事務所 799千円] C --> E["(株)西崎防水工業 12,585千円"] D --- F["断熱塗装設計監理委託料(座波保育所)"] E --- G["断熱塗装工事(座波保育所)"] </pre>					

資金の 使途の 流れ、 費目 ・ 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	施工業者選定にあたっては、指名競争入札を行い、適正に実施された。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		

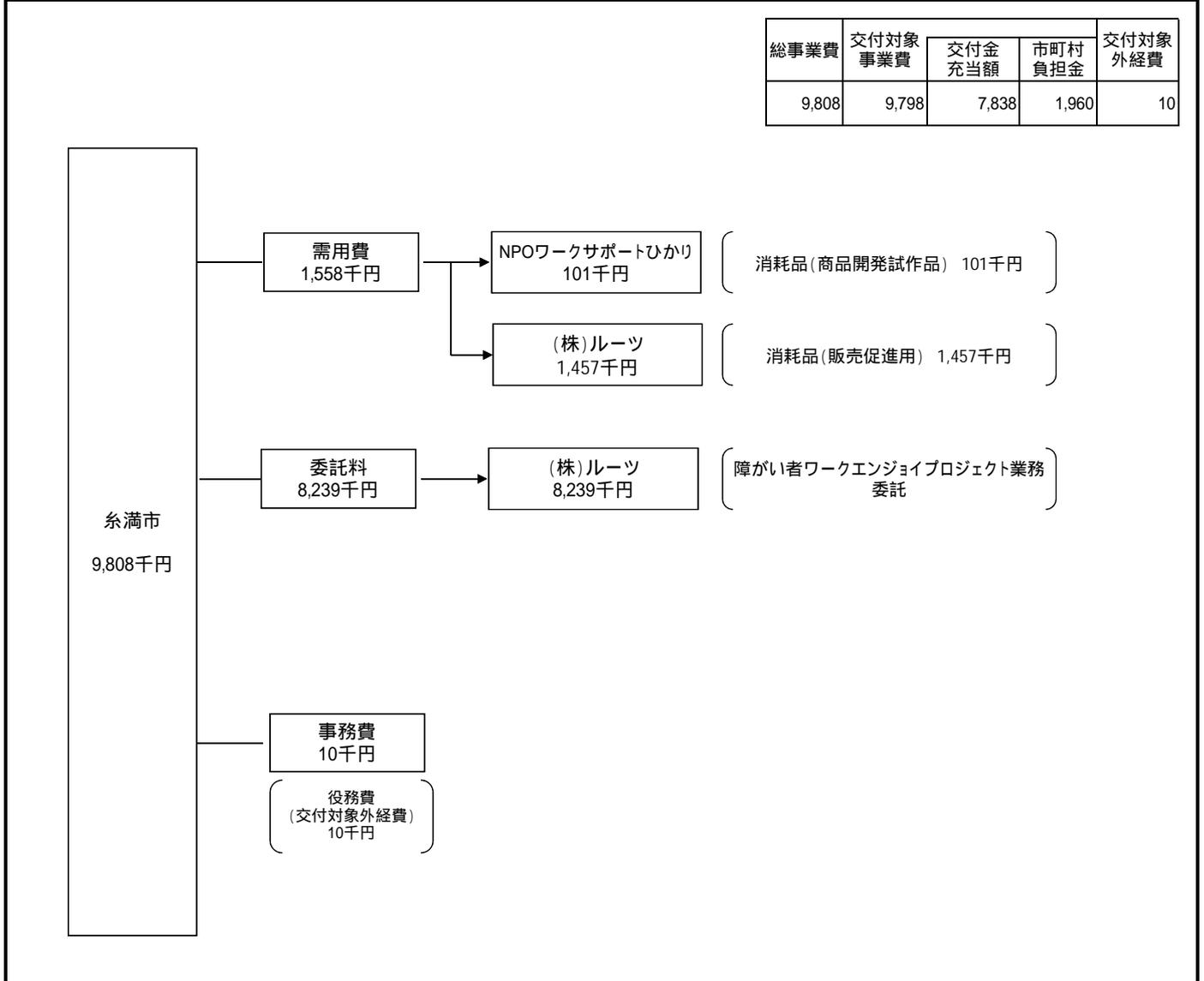
市町村名		糸満市					
平成25年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	12-	障害者就労支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-2-(3)-イ	
	担当部課名	福祉部 社会福祉課	事業実施(予定)年度	平成24～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	障害のある人が活動できる環境づくり - 2	
事業内容	障がいのある方の雇用は極めて厳しい状況にあり、住み慣れた地域での雇用の確保に向けて、障がいのある方が従事する施設で製造する商品等を自ら販売するため、移動式販売所を設置するとともに、商品開発、商品PR等物販に係るノウハウを習得のための支援を行った。						
実施方法	直接実施 委託 補助 負担 その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a)当初予算額	5,975	10,010			
		(b)予算現額	5,975	10,010			
		(c)増減額(b-a)	0	0			
		(d)繰越額	-	-			
	A.計(b+d)		5,975	10,010			
	B.執行済額		5,634	9,798			
	うち交付金充当額		4,506	7,838			
	次年度繰越額		0	0			
	執行率(%) (B/A)		94.3%	97.9%			
予算の状況の説明		予算計上どおりに概ね執行できた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H25活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	事業所連絡会議の開催8回 事業所職員研修の開催10回	目標	(連絡会 5回)	(連絡会 8回)	()	()	
		実績	連絡会 3回	連絡会 8回			
	事業所職員研修の開催	目標	(4回)	(10回)	()	()	
		実績	6回	8回			
達成状況説明	職員研修について、うち1回は県外視察研修(2泊3日 愛知県内3事業所視察)を行っているため、目標の回数の実施ができなかった。県外の視察を行うことで、今後の事業推進(物販に係るノウハウや商品開発)における知識がより効果的に得られた。 優先調達研究会を3回実施。就労支援事業所と庁舎内関係部署との合同研修1回、就労支援事業所を対象とした研修1回、南部市町村福祉行政所管課の広域研修を実施し、延べ30人が参加。 就労支援事業所職員研修に対し、専門的な支援スキルの伝達・人材育成研修として3回の研修に延べ30人の参加があり、その他研修、県外研修報告会を実施。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H25成果目標(指標)		基準値 (23年度)	24年度	25年度	26年度	目標値 (年度)
	新商品開発件数:10件	目標	(0件)	(3件)	(10件)	()	()
		実績		3件	15件		
	[参考指標]		目標	()	()	()	()
			実績				
進捗状況説明	事業所への個別支援として、平成25年度新規3事業所へにおいて商品開発コンサルティングの実施及び、平成24年度個別支援事業所3事業所への継続支援の実施 商品(きび蜜)のプライディングデザイン、パッケージデザイン ガーデニング用品6商品のデザイン、プライディング、パンフレットの作成 かまぼこ商品開発(マーケティング、企画) 共同販売お試し版の作成(8事業所) 商品リーフレットの作成、販売についてのアドバイス等の継続支援						

	推進上の留意点 (推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証 (効率の更なる向上の視点)
取組の検証	(1)事業所連絡会について ・定例化により、情報が集約され連携が強化されてきたが、大小多様な事業所で構成されることから、共同受注等の基幹的役割の確立が課題。 (2)職員の人材育成について ・民間小売店舗において店頭販売を開始する事業所もあるが、一般市場への参入に対する意識の温度差が事業所間においてある。 (3)個別事業所支援について ・需要に対しての供給不足など、安定供給等の課題 (4)販売所の設置について ・上記(1)～(3)までの商品開発の過程において、販路及び販売方法としての移動販売所等に適したニーズと商品形態の在りかた等詳細について検討していく必要がある	(1)事業所連絡会の定期的な開催を継続することで情報を集約・共有し、連絡会の役割・方向性を統一し自主運営方法の検討 (2)福祉の分野だけではなく経営していくノウハウを取り入れるための研修を重ねていく(意識改革) (3)事業所の現状把握、継続した支援(商品開発・販路拡大) (4)事業所に存在する技術活用を踏まえ、移動販売所等での販売を想定した商品開発、企画体制の在り方をマーケットインで引き続き進めていく。

今後の取り組み方針

・平成24年度から実施した事業内容(糸満市ワークエンジョイプロジェクト)を継続して実施
 ・各種イベントなどでの出店・販売など、具体的な目標を掲げ実行できるよう連絡会の機能の強化
 ・売り場視点からの商品開発・マーケティング・販路開拓について、実践的に学ぶ機会を設ける。
 ・新たに商品開発等を希望する事業所への支援と、平成24・25年度において支援した事業所が自ら継続して販売できるよう継続した支援の実施
 ・共同受注システムの構築に向けた取り組み

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
		支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は、公募型プロポーザル方式により3事業者のなかから、企画内容等のプレゼンを実施したうえで選定しており、妥当であったと考えている。 費目・用途については、事業の目的を達成するため、障害者就労支援事業所連絡会における検討事業も参考に決定しており、支出に関する書類確認のうえ、適正に執行している。
		予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
		費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	